

ISSN 0913-5154

平成 26 年度
川崎市健康安全研究所年報
第 2 号
(通巻第 50 号)



川崎市健康安全研究所
(2 0 1 4)

はじめに

昭和 27 年 1 月川崎市中心保健所内に設置された川崎市立衛生試験所は、昭和 45 年 5 月川崎区大島にて川崎市衛生研究所としてスタートし、以来 40 年余にわたって川崎市民の健康・安全・危機管理としての試験調査、研究を続けてきました。そして平成 25 年 2 月、川崎区殿町国際戦略拠点キングスカイフロント (Kawasaki Innovation Gateway at Skyfront: KING Skyfront) の一画に新築された川崎生命科学・環境センター(Life Science Environmental Research Center: LiSE)へ移転し、同年 3 月に名称が「川崎市健康安全研究所」と改められ、新たな研究所の歴史が始まりました。平成 26 年度の本年報は、川崎市健康安全研究所として第 2 号、通巻第 50 号となります。

移転直後の平成 25 年度は視察・見学などが相次ぎました。2 年目になりその数はやや落ち着きましたが、一般市民から専門分野あるいは政治経済分野、学生実習や研修の一環としてなど多くの方々に訪れていただき、当研究所及び地方衛生研究所というところが普段何をやっているか、ということについてご紹介を続けています。また各地の衛生研究所が新改築の時期を迎えておりますが、その参考にと関係者の方々の視察が多くなっております。

業務実績として、企画調整部門においては平成 25 年度に発足した内部評価委員会・外部評価委員会・倫理審査委員会などの動き、さらなる充実が求められている食品 GLP 業務などが記載されております。また、当市における疫学調査研究の強化のため、全国に先駆けて発足させた実地疫学専門家養成プログラム・川崎版プラン(Field Epidemiologist Training Program・Kawasaki: FETP-K) が動き出したことも、平成 26 年度の大きな動きの一つです。理化学部門、微生物分門では、日常的な調査研究のほか、突発的な健康危機事例への対応として平成 26 年度は給食に供された牛乳の広範な異味異臭事例がありましたが、両部門の緊急調査により腐敗・異常物質の混入のないことが速やかに報告できました。ことに理化学部門において ICP-MS による金属スクリーニング、LC・TOFMS による有機物質スクリーニングなどによる検査ができたことは、高価な機器ではありましたが、これらの使用によって危機管理上のニーズに速やかに応えることができたと思っております。また平成 26 年度夏には、デング熱の国内感染例の多発が社会的にも話題になりました。当研究所においては十数年にわたって市内複数地域で蚊の捕集、ウイルス等の検査を続けてきており、媒介蚊であるヒトスジシマカにおけるデングウイルスは毎年陰性であることから、当市にデングウイルスが常在している可能性は極めて低いことなどを市民に対して速やかに説明ができました。通常からの地道な検査の継続も地方衛生研究所である当研究所の大きな役割であることを痛感しました。

当研究所の機能が強化され実施が着実に進められておりますが、川崎市の関係各位・各部署の御理解と御協力、各地方衛生研究所等の声援、そして市民の方々の御理解の賜物であり、この場を借りて改めて厚く感謝申し上げます。

さらに、研究所職員諸君獅子奮迅の努力を続けていることを昨年と同様付記させていただくとともに、当研究所が、川崎市民の健康と安全、ひいては我が国そして世界の人々のための公衆衛生の向上にどれほど寄与していくか、その様子を引き続きお伝えすることができるよう、職員一同精進を続けることを改めてここに誓うものです。

平成 27 年 10 月

川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦

目次

第1章 概要

1 沿革	1
2 施設概要	2
(1) 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)施設概要	2
(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について	2
(3) 健康安全研究所施設概要	3
3 組織	4
(1) 組織と業務	4
(2) 事務分掌	5
(3) 人員配置	5
4 予算及び決算	6
5 学会参加並びに視察対応等の実績	7
(1) 学会・研究会等出席実績	7
(2) 講習会・研修会等受講実績	9
(3) 会議等出席実績	11
(4) 講師派遣実績	17
(5) 研修指導実績	19
(6) 視察・見学受け入れ実績	19
(7) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2014」への出展	21

第2章 業務実績

1 企画調整部門	22
(1) 企画調整担当	22
(2) 感染症情報センター担当	23
2 理化学部門	28
(1) 食品担当	28
(2) 水質・環境担当	33
(3) 残留農薬・放射能担当	37
3 微生物部門	53
(1) 消化器・食品細菌担当	53
(2) 呼吸器・環境細菌担当	56
(3) ウイルス・衛生動物担当	58

第3章 試験検査

1 月別検査件数	64
2 依頼別・項目別検査件数	67
3 食品別検査項目内訳	72
(1) 食品別検査項目内訳(理化学検査)	72
(2) 食品別検査項目内訳(食品細菌検査)	73
4 水質別検査項目内訳	74

第4章 調査研究

1 平成26年度調査研究課題	75
2 調査研究報告等実績一覧	77
(1) 平成26年度学会発表実績(口演発表)	77
(2) 平成26年度学会発表実績(示説発表)	79
(3) 平成26年度学会発表実績(誌上発表)	79
(4) 平成26年度学術誌等掲載実績	80
(5) 平成26年度行政報告等実績	82
3 調査研究報告	83

第5章 職員に関する事項

1 人事記録	95
2 職員名簿	96

【第1章 概要】

1 沿革

年月	事項
昭和27.1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所が設置される。庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用。
昭和27.2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により「庶務係」及び「試験係」が設置される。
昭和36.7	市内に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望に応じて、川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始。
昭和36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
昭和37.9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
昭和40.4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
昭和42.7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
昭和44.4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
昭和44.9	川崎市大島5丁目5番地2(元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地)に庁舎新築起工する。
昭和45.5	新庁舎竣工する。
昭和45.6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日条例第14号)が新たに 施行される。(名称変更と設置場所の変更) 川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。 微生物課(①庶務係、②細菌検査係、③臨床検査係、④ウイルス検査係) 理化学課(①食品検査係、②水質検査係、③環境検査係)
昭和45.6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式が挙行される。
昭和46.3	川崎市衛生研究所条例の一部を改正する条例が公布される。(昭和46年3月23日条例第6号)
昭和46.8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日訓令第14号)が施行される。
昭和46.10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日規則第71号)により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
昭和47.4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治法第 252条の19第1項)
昭和48.12	公害研究所が新庁舎建設に伴い移転する。
昭和50.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(昭和50年4月1日条例第6号) 川崎市衛生研究所条例施行規則が全面改正施行される。(昭和50年4月1日規則第21号)
昭和50.7	4階に実験室を増築する。
昭和61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元.3	1階に安全実験室を設置する。
平成3.3	電子顕微鏡室を設置する。
平成4.3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
平成4.4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
平成4.5	主査(衛生動物検査担当)及び主査(残留農薬検査担当)を増設する。
平成6.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第13号)
平成6.7	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第6号) 手数料(第7条関係別表)を大幅に改定する。
平成9.5	神奈川県より医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
平成10.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成10年3月24日条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
平成12.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成12年3月24日条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
平成16.2	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成15年12月25日条例第48号)
平成16.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成16年3月24日条例第8号) 川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成18年3月31日条例第34号)
平成20.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成20年3月25日条例第20号)

年月	事項
平成21.4	組織再編により第2類事業所となる。 衛生動物検査部門をウイルス検査部門に統合する。
平成24.4	組織再編により第1類事業所となる。 副所長及び企画調整担当を設置する。 環境検査部門を水質検査部門に統合する。
平成25.2	川崎区殿町3丁目25番13号川崎生命科学・環境研究センター2階に移転する。
平成25.3	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部改正施行される。(名称等の変更) 組織改正により衛生研究所を再編し、健康安全研究所を設置する。 感染症情報センターを健康安全研究所内に設置する。
平成25.4	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部施行される。(手数料の改訂) 企画調整担当課長を設置する。

2 施設概要

(1) 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 施設概要

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE; Life Science and Environment research center)は、「川崎市健康安全研究所」、「川崎市環境総合研究所」等の市の研究施設に加え、民間の研究施設が入居した施設であり、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける、ライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点として建設された。

土地は川崎市、建物は大成建設株式会社が保有し、施設維持管理は大成有楽不動産株式会社が実施するPP(Public Private Partnership)方式が採用されている。

環境に配慮した設計とされており、太陽熱や空気熱を利用した給湯システム、太陽光パネルを用いた電力供給、外壁へのダブルウォール(二重壁)使用による断熱性、メンテナンス性向上等の様々な環境対策が施されている。

表1 川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 建物概要

所在地	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-13
敷地面積	6,999.93㎡
建築面積	3,110.63㎡
延床面積	11,406.09㎡(うち健康安全研究所使用部分2329.38㎡)
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
規模	地上4階、塔屋1階(うち健康安全研究所として2階フロアを使用)
竣工年月	2012年12月
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社横浜支店
建物所有	大成建設株式会社
建物維持管理	大成有楽不動産株式会社
主な施設	1F カフェ、防災センター、会議室、書庫、セミナー室等 2F 川崎市健康安全研究所 3F 川崎市環境総合研究所 4F 民間ラボ

(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について

本研究所は平成25年3月、川崎区大島5丁目から、川崎区殿町3丁目の川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階に移転開設し、名称が「川崎市衛生研究所」から「川崎市健康安全研究所」に変更された。

移転時には、「企画調整担当」の新設に加え、感染症情報の収集・解析・発信を行う感染症情報センター機能

を「健康福祉局健康安全室(現、健康安全部健康危機管理担当)」から移管するなど、移転開設に併せて研究所機能の強化が図られた。

研究所の役割は、川崎市の衛生行政を支える科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、情報発信、研修指導の4本柱を基盤とし、市民の健康で安全な暮らしを支えることを目的としているほか、実験動物中央研究所をはじめとする、殿町地区内外の研究機関との共同研究を推進し、施策に反映できる研究成果の創出にも力を注いでいる。

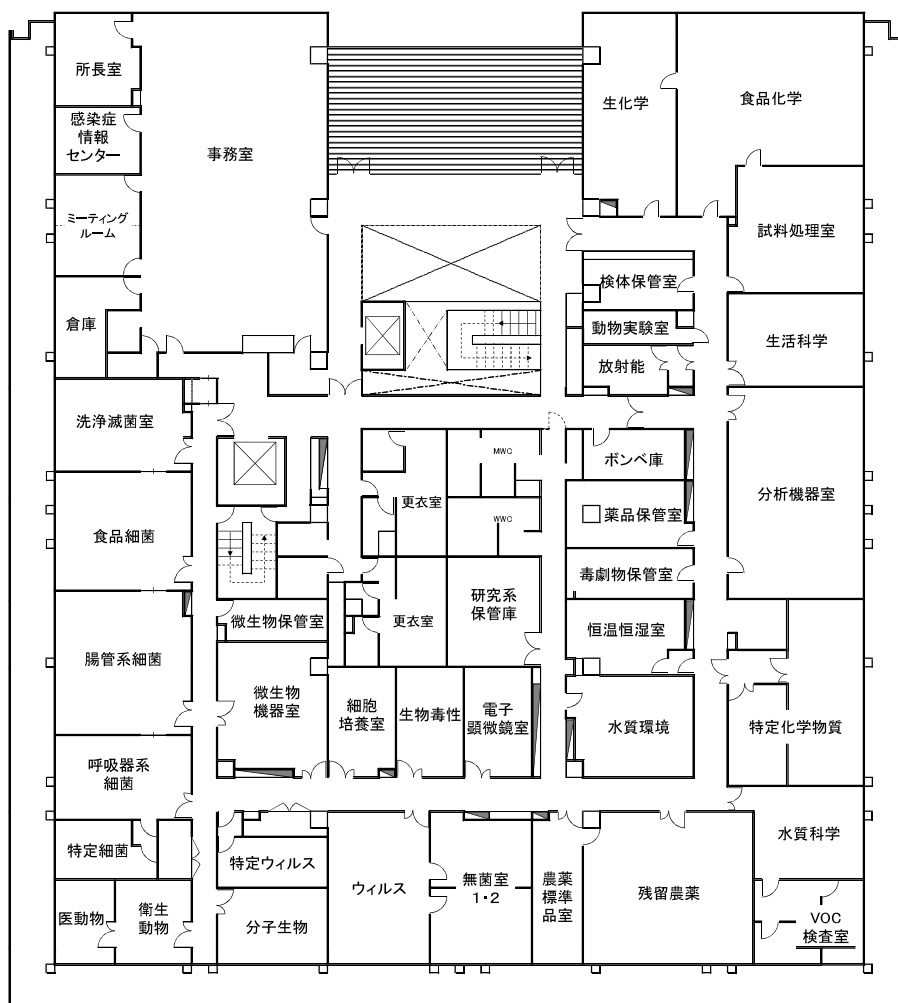
(3) 健康安全研究所施設概要

研究所施設は川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)の2階フロア全体を占め、理化学エリア、微生物エリアの他、事務室及び感染症情報センターの4エリアで構成されている。

旧施設の衛生研究所では、事務担当以外の職員の事務机はそれぞれの検査室に配置されていたが、健康安全研究所では全ての職員について、事務室に事務机を配置し、情報の共有化が図りやすい環境となった。

また、それぞれのエリアではICカードによる入退室管理が行われている。特に理化学エリア及び微生物エリアは2次セキュリティのフロアとなっており、また入退室の権限についても個人ごとに別々に付与されているため、たとえ職員であっても不要な諸室には入室できないようになっている。

図1 健康安全研究所図面(川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階)



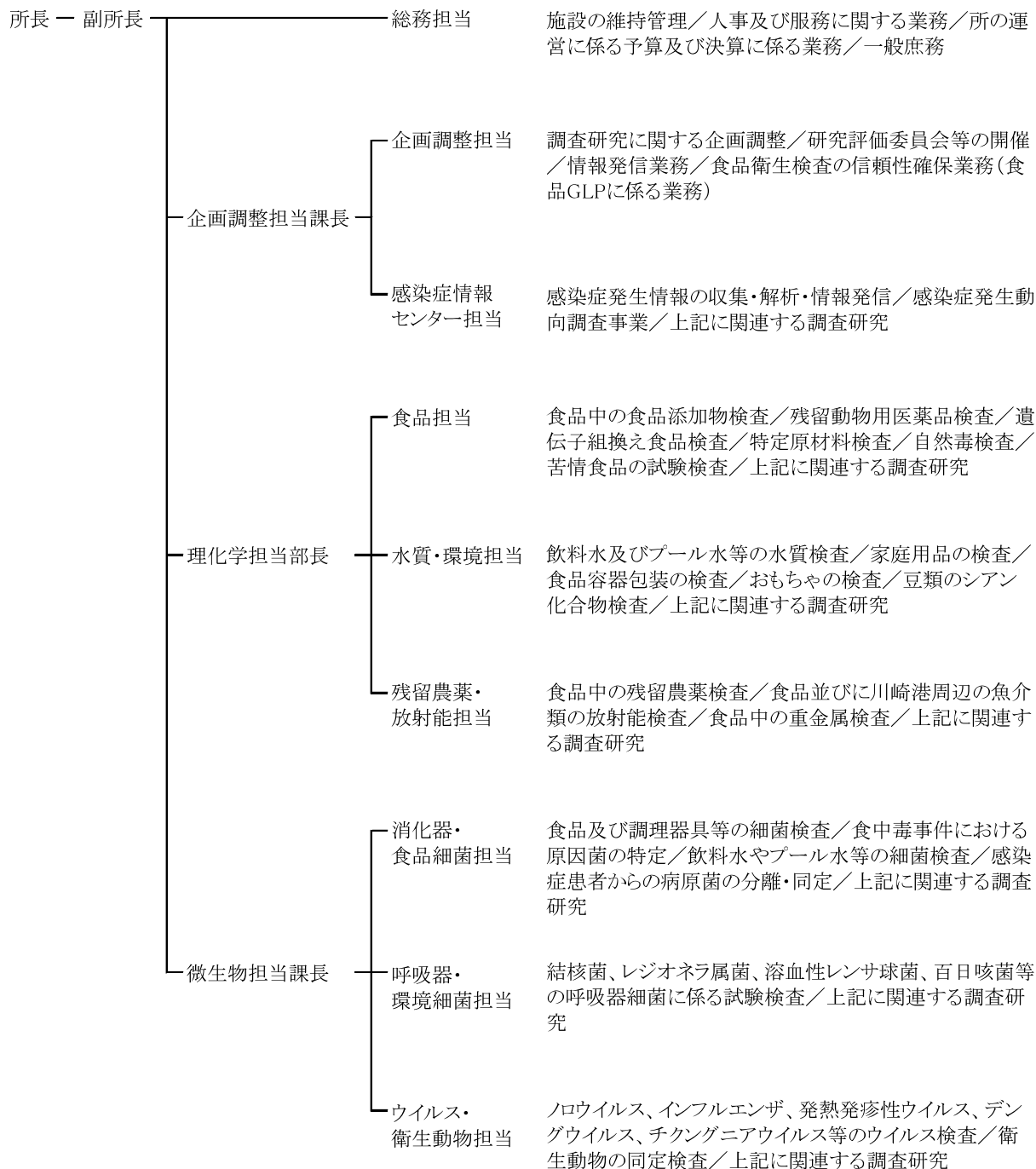
3 組織

(1) 組織と業務

本研究所の組織は、所長のもとに 9 担当で構成されている。

組織体制と各担当の主な業務を図 2 に示す。

図2 組織図



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和 51 年4月 30 日規則第 39 号)第 3 条の事務分掌は、次のとおりとする。

健康安全研究所

- ア 所の維持管理に関すること。
- イ 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
- ウ 公衆衛生従事者の研修に関すること。
- エ 感染症情報センターに関すること。
- オ 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
- カ 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
- キ 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
- ク その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

(3) 人員配置

平成 26 年 4 月 1 日時点の人員配置を表 2 に示す。

表2 人員配置

		医師	一般事務	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学	総数
所長		1						1
副所長			1					1
総務			4					4
企画調整	担当課長	1						1
	企画調整			1			1	2
	感染症情報センター			2	1			3
理化学	担当部長			1				1
	食品				4		1	5
	水質・環境				2	2	1	5
	残留農薬・放射能				3	2		5
微生物	担当課長					1		1
	消化器・食品細菌			2	1	2		5
	呼吸器・環境細菌			1	1	1		3
	ウイルス・衛生動物			3	1	1		5
合計		2	5	10	13	9	3	42

4 予算及び決算

平成 26 年度の歳入及び歳出をそれぞれ表 3 及び表 4 に示す。

表3 歳入

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
使用料及び手数料			
手数料			
健康福祉手数料	保健衛生施設手数料	98,196,000	84,497,970
諸収入			
雑入			
雑入	健康福祉費雑入	14,713,000	11,948,030

表4 歳出

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
健康安全究所費		355,468,000	349,540,731
	報酬	1,555,000	1,554,400
	共済費	527,000	515,325
	報償費	274,000	162,000
	旅費	1,222,000	857,645
	需用費	45,878,000	41,159,764
	消耗品費	43,505,000	39,014,598
	燃料費	55,000	27,175
	印刷製本費	888,000	755,589
	光熱水費(ガス料)	47,000	42,902
	修繕費	1,383,000	1,319,500
	役務費	1,494,000	1,277,214
	電信電話料	242,000	142,455
	郵便料	400,000	369,364
	運搬料	5,000	1,738
	手数料	647,000	588,157
	筆耕翻訳料	200,000	175,500
	委託料	32,420,000	32,083,357
	使用料及び賃借料	224,369,000	224,337,858
	備品購入費	2,356,000	2,337,260
	負担金補助及び交付金	45,373,000	45,255,908

5 学会参加並びに視察対応等の実績

(1) 学会・研究会等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H26.5.8～10	第89回日本結核病学会	長良川国際会議場	松尾、宮下、淀谷
H26.5.15～16	日本食品衛生学会第107回学術講演会	タワーホール船堀	大澤、荒木
H26.5.22～23	日本食品化学学会第20回総会・学術大会	東京ビッグサイト	牛山
H26.5.29～31	第56回日本小児神経学会学術集会	アクトシティ浜松	三崎
H26.6.14～15	第55回日本臨床ウイルス学会	ロイトン札幌	岡部、三崎、丸山、清水(英)
H26.6.17	第42回日本食品微生物学会学術セミナー	日石横浜ホール	岡部
H26.6.18～20	第88回日本感染症学会学術講演会	ヒルトン福岡シーホーク	三崎、丸山、窪村、小河内
H26.6.26～27	衛生微生物技術協議会第35回研究会	タワーホール船堀	岡部、三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、本間、飯高、佐藤(弘)、松島
H26.6.30	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所保健福祉センター	岡部、三崎、大嶋、遠藤、赤星、大澤、平野、原田、岸、油田、荒木、松尾、宮下、湯澤、窪村、佐藤(弘)
H26.7.3	第68回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部総会	山梨県立図書館	岡部
H26.7.15	オフフレーバー研究会第4回勉強会	東京家政大学板橋キャンパス三木ホール	赤星
H26.7.17	第42回日本食品微生物学会学術セミナー	日石横浜ホール	三崎、丸山、松尾
H26.8.28	一類感染症連携セミナー	国立国際医療研究センター	丸山
H26.9.1	日本食品衛生学会第17回特別シンポジウム	食品衛生センター5階講堂	赤星、油田
H26.9.5	日本マイコトキシン学会第75回学術講演会	岐阜大学サテライトキャンパス	橋口
H26.9.13	第76回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	岡部、大嶋、松尾、宮下、淀谷、佐藤(弘)、石川、松島、清水(智)
H26.9.18～19	第35回日本食品微生物学会学術総会	大阪府立大学中百舌鳥キャンパス	岡部、本間、湯澤
H26.9.25～26	第29回地衛研全国協議会関東甲信静支部ウイルス研究部会	ホテルメトロポリタン長野	岡部、松島、清水(智)
H26.9.27	第32回日本クラミジア研究会学術集会	メルパルク京都	三崎
H26.10.13～15	第7回アジア小児感染症学会	Beijing North Star Continental Grand Hotel (北京)	岡部、三崎、淀谷
H26.10.18～19	第46回日本小児感染症学会総会・学術集会	京王プラザホテル	三崎、松尾、宮下、淀谷
H26.10.28	狂犬病シンポジウム	日比谷公会堂	丸山
H26.10.30～31	第63回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会	東京ドームホテル	岡部、三崎、本間、丸山、大嶋

H26.10.31	第60回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	岡部、三崎、宮下、飯高、窪村、赤星、荒木
H26.11.5～7	第73回日本公衆衛生学会総会	栃木県総合文化センター	岡部、三崎、丸山、大嶋
H26.11.8	第14回人と動物の共通感染症研究会学術集会	国立感染症研究所	三崎
H26.11.10～12	第62回日本ウイルス学会学術集会	パシフィコ横浜	清水(英)、清水(智)
H26.11.16	神奈川県医学検査学会	横浜市立大学	松尾、宮下
H26.11.20～21	第51回全国衛生化学技術協議会年会	B-Con Plaza 別府国際コンベンションセンター	岡部、大澤、平野、油田
H26.11.25	全国疫学情報ネットワーク構築会議	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、大嶋
H26.11.26	日本水道協会関東地方支部水質研究発表会	新宿明治安田生命ホール	原田
H26.12.3～5	日本食品衛生学会第108回学術講演会	金沢歌劇座	赤星、油田
H26.12.5	地研全国協議会関東甲信静支部第4回公衆衛生情報研究部会・総会	群馬県庁	三崎、丸山
H26.12.6～7	第18回日本ワクチン学会学術集会	福岡国際会議場	三崎、丸山、大嶋
H26.12.25	エボラ出血熱対策に関するWHOミッション報告会	国立感染症研究所	三崎、丸山、大嶋
H27.1.29	地方感染症情報センター担当者会議	栃木県総合文化センター	三崎、丸山、大嶋
H27.1.29～30	第28回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	栃木県総合文化センター	岡部、三崎、丸山、大嶋
H27.1.31～2.1	第26回日本臨床微生物学会学術総会	京王プラザホテル	湯澤、窪村
H27.2.1	第15回食物アレルギー研究会	昭和大学上條講堂	赤星、大澤
H27.2.3	米国大使館主催エボラ出血熱講演会	アメリカンセンターJAPANホール	三崎、丸山
H27.2.9～10	第27回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会	川崎市産業振興会館	岡部、三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、本間、窪村、飯高、淀谷、佐藤(弘)、小川内
H27.2.13	日本マイコキシン学会第76回学術講演会	千葉大学亥鼻キャンパス記念講堂	橋口
H27.2.20	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会・研究会	東京都健康安全研究センター	岡部、岩瀬、橋口、大澤、石丸、平野、岸、荒木、遠藤
H27.2.20～21	第30回日本環境感染症学会総会・学術集会	神戸国際展示場他	三崎、丸山、大嶋
H27.2.27	平成26年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学情報部会	川崎生命科学・環境研究センター	岩瀬、橋口、栗田、赤星、牛山、大澤、石丸、小林、平野、原田、岸、油田、荒木、江崎
H27.3.5	平成26年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会微生物情報部会	横浜市衛生研究所	松尾、宮下、清水(英)、本間、湯澤、松島
H27.3.17～18	第49回日本水環境学会年会	金沢大学	原田
H27.3.21	第77回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、清水(英)、石川、淀谷

(2) 講習会・研修会等受講実績

年月日	名称	場所	参加者
H26.4.1～25	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース	国立感染症研究所	丸山
H26.4.16～18	ガスクロマトグラフオペレーション及びメンテナンストレーニング	西川計測(株)トレーニングセンター	油田
H26.5.14	平成26年度 病原体等の包装・運搬講習会	国立感染症研究所	本間
H26.5.19	レジオネラ対策シンポジウム	品川区総合区民会館	飯高
H26.5.20～23	GC/MSカスタマートレーニングコース	西川計測(株)トレーニングセンター	平野
H26.5.30	残留農薬試験ワークショップ	(株)エービーサイエックス	荒木
H26.6.24	食品中残留農薬分析技術セミナー	Luz大森	荒木
H26.6.30～7.4	結核担当者研修	結核研究所	淀谷
H26.7.11	TOC計メンテナンス講習会	東武横浜第3ビル	平野
H26.7.15	食品分析向けサンプル前処理ワークショップ	アジレント・テクノロジー(株)芝浦オフィス	荒木
H26.7.16	環境・食品衛生関係職員研修会	川崎市役所第3庁舎	丸山
H26.7.17～18	高速液体クロマトグラフメンテナンス講習会	(株)島津製作所横浜支店	橋口、荒木
H26.7.23～25	バイオセーフティ技術講習会	幕張セミナーハウス	小河内
H26.7.28～31	エイズ対策研修	国立保健医療科学院	三崎
H26.7.29	結核分子疫学調査分析会議	高津区役所保健福祉センター	松尾、淀谷、飯高
H26.8.7～8	肺炎球菌研修	国立感染症研究所	淀谷
H26.9.25	結核分子疫学調査分析会議(RFLP)	高津区役所保健福祉センター	松尾、宮下、飯高
H26.10.8	平成26年度放射線実務者研修会	東京富山会館ビル	岸
H26.10.9	公衆衛生専門技術研修	神奈川県衛生研究所	丸山
H26.10.10	食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省	三崎、福田、遠藤
H26.10.16	川崎市感染症危機管理研修会	高津市民館	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下
H26.10.17	保育園サーベイランス説明会	国立感染症研究所	三崎、丸山、大嶋
H26.10.21	高圧ガス消費事業者保安講習会	かわさき保育会館	荒木
H26.10.29	平成26年度食品衛生監視員研修	神奈川県衛生研究所	荒木
H26.11.4	結核菌VNTR技術研究会	東京都健康安全研究センター	飯高
H26.11.4～5	機器分析講習会	(株)島津製作所東京支社	赤星、荒木
H26.11.7	動物由来感染症対策技術研修会	赤坂区民センター	清水(智)

H26.11.7	平成26年度食品衛生監視員研修(後期)	神奈川県衛生研究所	牛山
H26.11.10~14	新興再興感染症研修	国立保健医療科学院	淀谷
H26.11.12	日本農薬学会 残留農薬分析セミナー2014	明治薬科大学剛堂会館	岸
H26.11.21	投票事務研修会	川崎市役所	三崎
H26.11.26	第1回FDSC食品衛生精度管理セミナー	大田区産業プラザPio	岩瀬、松尾、本間、橋口、遠藤
H26.11.28	結核医療機関指定研修会	中原区役所	松尾、宮下
H26.11.28	感染症関係職員研修会	川崎市役所第4庁舎	丸山、大嶋
H26.12.2	特別高度救助隊員養成研修	消防局	三崎、丸山
H26.12.5	LC(PDA)講習会	日本ウォーターズ(株)東京本社ラーニングセンター	平野
H26.12.8~12	Molecular Epidemiology研修	国立感染症研究所	三崎
H26.12.9	自治体向けエボラ出血熱対策研修会	国立感染症研究所	丸山
H26.12.10	食品中の放射性物質に関する講習	TKPガーデンシティ横浜ホールA	江崎
H26.12.11~12	第7回日本カンピロバクター研究会	国立医薬品食品衛生研究所	小河内
H26.12.16	横浜市衛生研究所開所式・内覧会	横浜市衛生研究所	岡部
H27.1.14	平成26年度衛生検査基礎技術研修	神奈川県衛生研究所	小河内
H27.1.16	ケモトリックス入門講習会	(株)島津製作所東京支社	橋口、原田
H27.1.16	公衆衛生実務者研修(放射能)	神奈川県衛生研究所	江崎
H27.1.19	東芝新製品共同研究成果発表・説明会	東芝スマートコミュニティセンター	岡部、廣政、三崎、松尾、本間、福田、遠藤
H27.1.22	第42回建築物環境衛生管理全国大会	日本教育会館	飯高
H27.1.23	結核分子疫学調査分析会議(VNTR)	川崎市役所第4庁舎	松尾、宮下、淀谷、飯高
H27.1.27	水質汚濁防止に関する説明会	川崎市役所第4庁舎	石丸
H27.2.3	米国大使館主催講演会(エボラ出血熱)	アメリカンセンターJAPANホール	岡部
H27.2.6	平成26年度生活衛生関係技術担当者研修会	厚生労働省	淀谷
H27.2.10	公衆衛生実務者研修(医薬品)	神奈川県衛生研究所	平野
H27.2.12	公衆衛生実務者研修(化学検査の基礎)	神奈川県衛生研究所	江崎
H27.2.12	衛生関係職員研修会	川崎市役所第4庁舎	飯高
H27.2.13	平成26年度地方衛生研究所全国協議会衛生理化学分野研修会	国立医薬品食品衛生研究所	大澤、原田、岸
H27.2.14	食品化学研究者基礎セミナー	食品衛生センター	丸山、大嶋、赤星、油田、江崎

H27.2.14～15	一類感染症・バイオセーフティ研修	国際医療センター・国立感染症研究所	宮下、清水(智)
H27.2.17	食品分析向けサンプル前処理ワークショップ	アジレント・テクノロジー(株)芝浦オフィス	江崎
H27.2.17～18	希少感染症診断技術研修会	国立感染症研究所	宮下、本間、駒根、清水(智)
H27.2.18～19	公衆衛生実務者研修(溶連菌)	神奈川県衛生研究所	淀谷
H27.2.26	公衆衛生実務者研修(食品GLP)	神奈川県衛生研究所	石丸、遠藤
H27.3.4～6	食中毒の疫学初級研修	岡山大学鹿田キャンパス	丸山
H27.3.5	国際結核セミナー	ヤクルトホール	飯高
H27.3.6	全国結核対策推進会議	ヤクルトホール	飯高、松尾
H27.3.13	神奈川県水道水質検査機関技術研修会	かながわ県民活動サポートセンター	原田
H27.3.13	WPRO研修報告会	川崎区役所	松尾、油田
H27.3.14	予防接種に関する研究報告会	新大宋ビルFORUH	淀谷、宮下、松尾
H27.3.19	水道水質検査精度管理に関する研修会	厚生労働省	平野

(3) 会議等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H26.4.4	第99回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H26.4.8～13	WHOパンデミックインフルエンザ対策顧問会議	スイス(ジュネーブ)	岡部
H26.4.14	全国公衆衛生関連学協会連絡協議会総会	日本学術会議	岡部
H26.4.14	専門協議	医薬品医療機器総合機構	岡部
H26.4.22	第19回医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	航空会館	岡部
H26.5.2	平成26年度第1回県内衛生研究所等理化学部会アレルギー部会	神奈川県衛生研究所	赤星、大澤
H26.5.8	厚生労働科学研究下痢症ウイルス研究班第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H26.5.9	厚生労働科学研究下痢症ウイルス研究班第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H26.5.13	第9回厚生科学審議会予防接種基本方針部会	航空会館	岡部
H26.5.15	神奈川県外部精度管理調査委員会	かながわ県民活動サポートセンター	石丸
H26.5.15	厚生労働科学研究(倉班)班会議	国立感染症研究所	松尾、淀谷
H26.5.16	麻しん情報共有会議	中原区役所保健福祉センター	三崎、丸山
H26.5.19	基本的対処方針等諮問委員会委員との情報共有の場	内閣府	岡部

H26.5.19	第9回厚生科学審議会副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H26.5.22	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H26.5.28	第4回厚生科学審議会感染症部会	東京交通会館	岡部
H26.5.30	厚生労働科学研究食中毒調査班第1回班会議	国立健康・栄養研究所	岡部
H26.5.30	厚生労働科学研究(砂川班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山、本間、窪村
H26.6.2	厚生労働科学研究(松井班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山
H26.6.2	厚生労働科学研究 カビ毒汚染実態調査班 班会議	麻布大学	橋口
H26.6.4	日本ワクチン学会理事会	AP品川	岡部
H26.6.5	公衆衛生情報研究協議会第1回理事会	厚生労働省	岡部
H26.6.5	全国地方衛生研究所長会議	厚生労働省	岡部
H26.6.6	地方衛生研究所全国協議会臨時総会	東京都健康安全研究センター	岡部
H26.6.7	厚生労働科学研究庵原・神谷班第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H26.6.9	食中毒(疑い)事案に関する関係者緊急会議	川崎市役所第3庁舎	三崎、丸山
H26.6.11	平成26年度第1回川崎市感染症対策協議会	川崎市役所第3庁舎	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、清水(英)、本間
H26.6.11	平成26年度第1回感染症発生動向調査委員会	川崎市役所第3庁舎	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、清水(英)、本間
H26.6.12	日本公衆衛生学会感染症対策委員会	日本公衆衛生協会	岡部
H26.6.13	第100回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H26.6.17	厚生労働科学研究 食品防御研究班 物流施設実査	埼玉県戸田市	赤星、荒木
H26.6.17~20	第23回ワクチンで予防可能な疾患に関する技術顧問会議	WHO Regional Office WPRO	岡部
H26.6.22	厚生労働科学研究VPD(大石)班第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H26.6.24	第17回新型インフルエンザ専門家会議	厚生労働省	岡部
H26.6.26	衛生微生物技術協議会第35回研究会 理事会等合同会議・総会	タワーホール船堀	岡部
H26.6.27	厚生労働科学研究急性脳炎・脳症(森島)班第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H26.6.28	厚生労働科学研究(加藤班)第1回研究班会議	慶應義塾大学信濃町キャンパス	岡部、三崎、丸山、大嶋
H26.7.4	第10回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会	航空会館	岡部
H26.7.4	第1回県・政令市感染症情報センター連絡調整会議	松村ビル別館	三崎、丸山、大嶋
H26.7.9	基本的対処方針等諮問委員会委員との情報共有の場	内閣府	岡部
H26.7.11	第20回医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	航空会館	岡部

H26.7.14	第3回麻しん排除認定会議	厚生労働省	岡部
H26.7.14	第1回川崎市食の安全確保対策協議会	川崎市消費者行政センター	岩瀬、松尾
H26.7.16	第10回厚生科学審議会予防接種基本方針部会	厚生労働省	岡部
H26.7.23	第18回新型インフルエンザ専門家会議	東京交通会館	岡部
H26.7.23	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H26.7.30	厚生労働科学研究 食品防御研究班 第1回班会議	TKP虎ノ門	岡部、赤星、荒木
H26.7.31	厚生労働科学研究インフルパンデミックワクチン班会議	厚生労働省	岡部
H26.8.1	第101回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H26.8.6	麻しん対策に係る関係保健所等連絡会	東京都庁第一本庁舎	三崎、丸山
H26.8.21	指定都市衛生研究所長会議	ホテルクラウンパレス浜松	岡部
H26.8.22	全国公衆衛生関連学会連合ワークショップ	日本学術会議	岡部
H26.8.27	院内感染対策中央会議(第11回)	厚生労働省	岡部
H26.8.28	地域保健総合推進事業「公衆衛生感染症対策メーリングリスト」感染症対策班会議	日本公衆衛生協会	三崎
H26.8.29	地方衛生研究所全国協議会第2回理事会・総務委員会	東京都健康安全研究センター	岡部
H26.9.1	麻疹風疹実験室検査研究班第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H26.9.5	日本公衆衛生学会感染症対策委員会	日本公衆衛生協会	岡部
H26.9.5	日本ワクチン学会理事会	AP品川	岡部
H26.9.10	食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会(第54回)	食品安全委員会	岡部
H26.9.11	第11回厚生科学審議会予防接種基本方針部会	厚生労働省	岡部
H26.9.11	平成26年度第1回関東甲信静ブロック会議	山梨県立図書館	橋口
H26.9.24	平成26年度第2回川崎市感染症発生動向調査委員会	てくのかわさき	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、清水(英)、本間
H26.9.25	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H26.9.26	フィリピン麻しん対策会議	厚生労働省	岡部
H26.9.29	日本ポリオ根絶会議	厚生労働省	岡部
H26.9.30	川崎港保健衛生協議会輸入感染症担当者会議	かわさきファズ物流センター	松尾
H26.10.1	平成26年度地研協議会関東甲信静支部細菌研究部会第1回役員会	川崎市産業振興会館	岡部、松尾、本間
H26.10.3	第102回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H26.10.6	微生物・ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部

H26.10.8	第6回厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H26.10.8	第5回厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会	厚生労働省	岡部
H26.10.10	基本的対処方針等諮問委員会委員との情報共有の場	中央合同庁舎	岡部
H26.10.10	第21回医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	航空会館	岡部
H26.10.17	第4回麻しん排除認定会議	厚生労働省	岡部
H26.10.20～26	PIP・パンデミックインフルエンザ対策に関する顧問会議	WHO本部	岡部
H26.10.21	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会役員会	東京都健康安全研究センター	岩瀬、石丸
H26.10.22	川崎市原子力施設安全対策協議会幹事会	災害対策本部室	岩瀬
H26.10.27	インフルエンザパンデミックワクチン・岡部班第2回班会議	厚生労働省	岡部
H26.10.27	日本ワクチン学会理事会	AP品川	岡部
H26.10.27	厚生労働科学研究(調班)第1回研究班会議	八重洲倶楽部	三崎、丸山
H26.10.29	第11回厚生科学審議会副反応検討部会	航空会館	岡部
H26.11.4	平成26年度第65回地方衛生研究所全国協議会総会	栃木県総合文化センター	岡部
H26.11.6	厚生労働科学研究(調班)第1回疫学小班会議	コンセーレ	三崎、丸山
H26.11.7	第11回新型インフルエンザ等有識者会議	中央合同庁舎	岡部
H26.11.11	平成26年度第2回消費生活モニター意見交換会	川崎市産業振興会館	岸
H26.11.12～15	第20回西太平洋地域におけるポリオ根絶地域認定委員会RCC	マレーシア	岡部
H26.11.13	厚生労働科学研究(調班)ウイルス・細菌小班会議	レセプションハウス名古屋通信会館	三崎、丸山
H26.11.14	エボラ出血熱対策会議	川崎市役所第3庁舎	三崎、丸山
H26.11.14	厚生労働科学研究(森島班)研究班会議	国立感染症研究所	三崎
H26.11.17	GLP業務検討委員会	川崎市役所第3庁舎	三崎
H26.11.17	第2回川崎市食の安全確保対策協議会	経済労働局会議室	岩瀬
H26.11.20	平成26年度第1回結核対策推進会議	中原歯科保健センター	宮下
H26.11.21	第1回北九州市感染症公表基準検討会	北九州市役所本庁舎	岡部
H26.11.21	苦情検査事例現地調査	麻生区	岩瀬、赤星
H26.11.26	基本的対処方針等諮問委員会委員との情報共有の場	中央合同庁舎	岡部
H26.11.27	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H26.12.3	厚生労働科学研究(平原班)研究班会議	横浜市立大学医学部福浦キャンパス	岡部、三崎、丸山、大嶋
H26.12.4	神奈川県内衛生研究所等連絡協議会所長会	神奈川県衛生研究所	岡部、岩瀬、三崎、松尾

H26.12.9	平成26年度第1回川崎市保健福祉センター等職員B型肝炎対策委員会	川崎市役所第4庁舎	松尾
H26.12.10	第57回微生物・ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部
H26.12.11	平成26年度地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック地域レファレンスセンター連絡会議及び専門家会議	山梨県立図書館	本間
H26.12.12	第103回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H26.12.16	厚生労働科学研究(調班)第2回疫学小班会議	航空会館	三崎、丸山
H26.12.17	第7回厚生科学審議会感染症部会	航空会館	岡部
H26.12.17	厚生労働科学研究(松井班)第2回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山
H26.12.19	第12回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H26.12.22	対談収録	ラジオ日本 東京スタジオ	岡部
H26.12.25	エボラウイルス病対策に関するWHOミッション報告会	国立感染症研究所	岡部
H26.12.25	第2回予防接種・感染症危機管理対策委員会	日本医師会館	岡部
H26.12.26	第2回北九州市感染症公表基準検討会	北九州市役所本庁舎	岡部
H27.1.6	厚労科研新型インフルエンザ治療標準化(齋藤)班第1回班会議	厚生労働省	岡部
H27.1.7	厚生労働科学研究 カビ毒汚染実態調査班 班会議	麻布大学	橋口
H27.1.8	感染症法改正に関わる地研の将来像と病原体サーベイランス強化検討会	国立感染症研究所	岡部、三崎
H27.1.9	第12回厚生科学審議会予防接種基本方針部会	厚生労働省	岡部
H27.1.9	厚生労働科学研究肝炎ウイルス検査(加藤)班第2回班会議	慶應義塾大学総合医科学研究棟	岡部、三崎
H27.1.12	厚生労働科学研究VDP(大石)班第2回班会議	国立感染症研究所	岡部、松尾、宮下、淀谷
H27.1.14	厚生労働科学研究 食品防御研究班 食品流通施設実査	千葉県印西市	赤星
H27.1.15	第7回厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会	厚生労働省	岡部
H27.1.15	感染症発生动向調査におけるデータの質管理のための地方感染症情報センター向けガイドライン(案)検討会	国立感染症研究所	三崎、丸山
H27.1.15	平成26年度第2回関東甲信静ブロック会議	山梨県立図書館	橋口
H27.1.19	厚生労働科学研究(調班)第2回研究班会議	航空会館	三崎、丸山
H27.1.20	第13回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会	航空会館	岡部
H27.1.21	新型インフルエンザ等対策連携協力医療関係5団体連携会議	川崎市本庁舎	岡部
H27.1.21	インフルエンザパンデミックワクチン岡部班第3回班会議	ハロー貸会議室品川	岡部
H27.1.21	厚生労働科学研究(倉班)班会議	国立感染症研究所	松尾、淀谷、飯高
H27.1.22	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山

H27.1.23	第22回医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	厚生労働省	岡部
H27.1.23	新型インフルエンザ等対策検討委員会	川崎市第4庁舎	岡部
H27.1.23	結核分子疫学調査分析会議	川崎市第4庁舎	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、淀谷、飯高
H27.1.23	食品添加物分析法検討班 班会議	国立医薬品食品衛生研究所	橋口
H27.1.26	第2回検疫所で行う予防接種業務の検討班会議	中央合同庁舎	岡部
H27.1.26	第2回地方衛生研究所ブロック長等会議 地方衛生研究所全国協議会臨時理事会・総務委員会	東京都健康安全研究センター	岡部
H27.1.30	第3回北九州市感染症公表基準検討会	北九州市役所本庁舎	岡部
H27.1.30	平成26年度首都圏自治体食中毒防止食品衛生担当者連絡会	東京都庁	本間
H27.2.2	第12回院内感染対策中央会議	厚生労働省	岡部
H27.2.3	第37回千葉大学真菌医学研究センター運営協議会	千葉大学真菌医学研究センター	岡部
H27.2.4	第2回川崎市予防接種運営委員会	中原休日急患診療所	岡部
H27.2.4	厚生労働科学研究 食品防御研究班 食品工場実査	大阪府富田林市	赤星
H27.2.5	第16回厚生科学審議会生活環境水道部会	厚生労働省	岡部
H27.2.6	第104回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種分科会	厚生労働省	岡部
H27.2.6	神奈川県感染症発生動向調査解析委員会	かながわ県民センター	岡部、三崎、丸山、大嶋
H27.2.6	厚生労働科学研究(砂川班)第2回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山、窪村
H27.2.6	厚生労働科学研究 食品防御研究班 第2回班会議	TKP虎ノ門ビジネスセンターANNEX	岡部、赤星
H27.2.9	第3回川崎市食の安全確保対策協議会	経済労働局会議室	岩瀬
H27.2.12	第3回予防接種・感染症危機管理対策委員会	日本医師会館	岡部
H27.2.13	平成26年度第2回川崎市感染症対策協議会	川崎市医師会館	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、清水(英)、本間
H27.2.13	平成26年度第3回川崎市感染症発生動向調査委員会	川崎市医師会館	三崎、丸山、大嶋、松尾、宮下、清水(英)、本間
H27.2.13	神奈川県外部精度管理調査委員会	かながわ県民活動サポートセンター	石丸
H27.2.16	第4回北九州市感染症公表基準検討会	北九州市役所本庁舎	岡部
H27.2.16	近隣地方感染症情報センター連絡会	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、大嶋
H27.2.18	平成26年度第2回結核対策推進会議	川崎市役所第3庁舎	松尾
H27.2.19	日本環境感染学会予防接種ガイドライン改訂委員会	ポートピアホテル	岡部
H27.2.20	第8回厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H27.2.24~3.1	予防接種の実施に関する諮問委員会(ACIP)	米国疾病管理予防センター(CDC)／アトランタ	岡部

H27.3.3	厚生労働科学研究異常行動(岡部)班班会議	厚生労働省	岡部
H27.3.6	第2回県・政令市感染症情報センター連絡調整会議	かながわ県民センター	大嶋
H27.3.7	厚生労働科学研究 性感染症(荒川)班全体会議	八重洲倶楽部	岡部
H27.3.9	川崎港保健衛生協議会委員会(総会)	かわさきファズ物流センター	松尾
H27.3.12	第14回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H27.3.13	第8回基本的対処方針など諮問委員会委員との情報共有の場	中央合同庁舎	岡部
H27.3.13	第61回食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部
H27.3.13	茨城県感染症対策委員会・麻しん風しん対策会議	茨城県庁	岡部
H27.3.18	第105回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H27.3.18	平成26年度第4回川崎市感染症発生動向調査委員会	中原休日急患診療所	岡部、三崎、丸山、松尾、清水(英)、本間
H27.3.18~19	長崎大学熱帯医学研究所外部評価委員会	長崎大学熱帯医学研究所	岡部
H27.3.19	平成26年度第3回県内衛生研究所等理化学部会アレルギー部会	横浜市衛生研究所	橋口、赤星、大澤
H27.3.20	感染症発生動向調査事業に関する会議	厚生労働省	丸山
H27.3.23	ラウンドテーブル・ディスカッション	駐日英国大使館	岡部
H27.3.27	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	岡部、丸山

(4) 講師派遣実績

年月日	名称	講師名	会場
H26.4.15	新型インフルエンザの発生を想定した初動対応の確認訓練	岡部	厚生労働省
H26.4.17	第16期実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修講義	岡部	国立感染症研究所
H26.4.17	平成26年度環境・食品衛生関係新人・新任職員研修会	三崎、大嶋	川崎市役所第3庁舎
H26.5.20	平成26年度環境・食品衛生関係新人・新任職員研修会	橋口、本間	川崎区役所
H26.5.27	3学年前期「地域医療」講義	岡部	聖マリアンナ医科大学
H26.6.24	横浜市立大学医学部学生実習	岡部	横浜市立大学福浦キャンパス
H26.7.2	麻しん対策シンポジウム	岡部	千葉県松戸健康福祉センター
H26.7.8	感染対策(ICT)セミナー	岡部	県立こども医療センター
H26.7.10	新型インフルエンザ等対策講演会	岡部	千葉県習志野健康福祉センター

H26.9.1	高齢者インフルエンザ予防接種事業説明会	岡部	高津市民館ホール
H26.9.11	高齢者インフルエンザ予防接種事業説明会	岡部	中原市民館ホール
H26.9.17	アクトシティ浜松コンgresセンター	岡部	新型インフルエンザ等医療機関研修会講師
H26.10.2	医療機関関係者感染症予防研修会	岡部	川越市保健所
H26.10.9	第1回公衆衛生専門技術研修学術講演会	岡部	神奈川県衛生研究所
H26.10.16	臨床基礎医学講義	岡部	東京慈恵会医科大学
H26.10.16	川崎市感染症危機管理研修会	岡部	高津市民館
H26.10.16	感染症危機管理研修会	三崎	国立感染症研究所
H26.10.23	衛生薬学系実習Ⅱ講義	油田	日本大学薬学部
H26.10.31	第63回日本感染症学会東日本地方会学術総会 教育講演	岡部	東京ドームホテル
H26.11.7	第16回国公立大学附属病院感染対策協議会(総会)特別講演	岡部	東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂
H26.11.17	院内感染対策職員研修会講師	岡部	十愛病院
H26.11.19	熊本県医師会感染症研修会	岡部	ホテル日航熊本
H26.11.23	新型インフルエンザ等感染症対策医療従事者研修会	岡部	鳥取県立倉吉体育文化会館
H26.11.27	東京都実地疫学調査研修講師	岡部	東京都健康安全研究センター
H26.11.27	衛生薬学系実習Ⅱ講義	油田	日本大学薬学部
H26.12.1	最近話題の感染症研修会	岡部	荒川区保健所
H26.12.2	特別高度救助隊員養成研修	岡部	川崎市消防局
H26.12.3	平成26年度保健衛生研修関係従事者研修講師	岡部	小田原合同庁舎
H27.1.15	神戸小児感染症セミナー	岡部	生田神社会館
H27.1.22	川崎市医師会学校医部会学術講演会	岡部	ホテル精養軒
H27.1.29	第28回公衆衛生情報研究協議会研究会	岡部	栃木県総合文化センター
H27.2.12	医療従事者向け感染症研修会	岡部	ウェルネスさがみはら
H27.2.12	保育所事故予防研修会	三崎	社会福祉法人日本体育協会
H27.3.6	医療機関向け新型インフルエンザ対策講習会	岡部	埼玉県草加保健所
H27.3.21	第77回神奈川県感染症医学会例会・市民講座講演	岡部	横浜情報文化センター
H27.3.16～17	徳島県予防接種従事者研修会	岡部	徳島大学大塚講堂

(5) 研修指導実績

年月日	内容	対象	人数
H26.6.23	第1回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	20名
H26.7.8～9	保育園サーベイランスシステム説明会	市内公立保育園職員	96名
H26.8.13	第1回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	3名
H26.8.18	第2回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	22名
H26.9.1,3,5,9,10,11,12	保育園サーベイランスシステム説明会	市内民間保育園職員	201名
H26.10.1	第2回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	3名
H26.10.27	第3回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	19名
H26.10.29	第3回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	3名
H26.12.25	第4回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	2名
H27.1.13	感染症情報センター職員研修会	各区役所保健福祉センター等の感染症対策に係る職員	49名
H27.1.28	第5回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	3名
H27.2.18	第6回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	3名
H27.2.23	第4回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	13名
H27.3.12	感染症発生動向調査関係システムセキュリティ研修	各区役所保健福祉センター及び健康安全部健康危機管理担当職員	15名
H27.3.12	残留農薬検査研修	区役所保健福祉センター等の食品衛生監視員	4名
H27.3.25	第7回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP) 初期導入コース修了者	3名

(6) 視察・見学受け入れ実績

年月日	名称	人数
H26.4.3	健康福祉局幹部視察	4名
H26.4.14	名古屋市健康福祉局食品衛生課職員	1名
H26.5.21	川崎市薬剤師会依頼 薬学系大学生事務研修 1回目	50名
H26.5.29	地方衛生研究所所長来訪(群馬県、山口県)	2名
H26.5.30	高知県職員他視察	10名
H26.6.3	高津区町会長勉強会	29名
H26.6.5	テレビ神奈川撮影	5名
H26.6.6	地方衛生研究所所長視察(神戸市)	1名
H26.6.13	厚生労働省職員研修	5名
H26.6.20	経済労働局依頼 専修大学経済学部他視察	8名

H26.6.27	大和ハウス視察	14名
H26.7.1	厚生労働省 福祉事務所研修	3名
H26.7.1	港区みなと保健所視察	7名
H26.7.22	放射線測定機器分析撮影(公益財団法人原子力安全技術センター)	2名
H26.8.1	衆議院議員、公明党市議団視察	13名
H26.8.4	獣医学部学生実習	14名
H26.8.11	夏の科学イベント ミステリーツアー	100名
H26.8.19	多摩川会視察	16名
H26.8.25	経済産業省視察	6名
H26.8.27	健康危機管理対応(市立井田病院職員)	4名
H26.9.4	愛知県健康福祉部生活衛生課	10名
H26.9.16	東海大学・WHO・JICA連携協力 保健指導者養成コース	14名
H26.9.17	川崎市薬剤師会依頼 薬学系大学生事務研修 2回目	33名
H26.9.26	ジャカルタ水産研究所職員視察	5名
H26.10.9	横浜市立大学 視察	45名
H26.10.28	名古屋市議会安心・安全なまちづくり対策特別委員会視察	17名
H26.11.6	経済労働局依頼 かながわ産学公連携推進協議会視察	14名
H26.11.18	中原区町内会婦人部連絡協議会視察研修会	39名
H26.11.25	川崎保健所及び東京検疫所川崎検疫所支所との合同研修	6名
H26.11.28	川崎の歴史と文化を識る会講演・見学会	43名
H26.12.11	かわさき市民アカデミー講演会・施設見学会	36名
H27.1.22	中原区ロータリークラブ 感染症セミナー・視察	21名
H27.1.23	消防局NBC災害対応救助隊視察	12名
H27.1.27	沖縄県衛生環境研究所視察	8名
H27.1.28	川崎市薬剤師会依頼 薬学系大学生事務研修 3回目	12名
H27.2.3	消防局NBC災害対応救助隊訓練 視察	12名
H27.2.6	県衛研依頼 遼寧省疾病予防コントロールセンター研修員視察	2名
H27.2.9	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会視察	41名
H27.2.27	県5市衛生研究所理化学情報部会視察	40名
H27.3.11	宮前地区連合町内会視察研修会	47名
H27.3.17	市内金融機関支店長等講演会・視察	32名
H27.3.23	兵庫県健康科学研究センター視察	3名
H27.3.31	元川崎市議他視察	5名
計	43件	791名

(7) 「キングスカイフロント夏の科学イベント 2014」への出展

多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点キングスカイフロントは、当研究所以外にも、様々な研究機関が集積し、ライフサイエンスや環境分野の研究開発などが行われている。

このキングスカイフロントでは、平成 25 年度から川崎市総合企画局臨海部国際戦略室が中心となって、子どもたちに科学技術に関心を持ってもらうことを目的とした「夏の科学イベント」を開催しており、例年、当研究所からもブースを出展している。

このイベントは、主に小学生を対象に、キングスカイフロントの進出企業等がそれぞれの特色を出しながら夏休みの学習に役立つ科学実験やクイズラリーなどの体験コーナーを出展するもので、平成 26 年度の「キングスカイフロント夏の科学イベント 2014」では、約 650 人の親子連れが参加した。

ア 開催日時

平成 26 年 8 月 11 日(月)13:00~16:00

イ 主催(事務局)

川崎市総合企画局臨海部国際戦略室

ウ 会場

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)
公益財団法人実験動物中央研究所

エ 出展機関

川崎市健康安全研究所、川崎市環境総合研究所、公益財団法人実験動物中央研究所、国立医薬品食品衛生研究所ほか キングスカイフロントに集積する民間企業等

オ 健康安全研究所の出展内容

(ア) 健康安全研究所ミステリーツアー

水道水に試薬を入れると無色からピンク色に変化する「残留塩素試験」や電子顕微鏡を用いて蚊の細部の構造を観察するなど、普段入ることのできない健康安全研究所の見学ツアーを行った。

(イ) スライムを作ろう

洗濯糊とホウ砂を混ぜるとできるスライム作りを体験してもらった。

(ウ) 浮沈子(ふちんし)であそぼ

容器を押ししたり離したりすることで、中にあるものが浮いたり沈んだりする浮沈子。

ここでは、ペットボトルと魚の形の醤油入れを用いて浮沈子を作成し、ペットボトルを握ると内部の魚がなぜ沈むのか、原理の説明を行った。

(エ) 水の上に立てる!?!「ダイラタンシー」を体験しよう!

硬くなる不思議な水「ダイラタンシー」の体験ブースを設置した。

水と片栗粉を用いて作成したダイラタンシー流体のうえで、素早く足踏みをすることで片栗粉が入った水が固体のような挙動を示すことを体験してもらい、何故このような現象が起きるのか体験を通じて原理の説明を行った。



スライム作りの様子



健康安全研究所ミステリーツアー

【第2章 業務実績】

1 企画調整部門

(1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、情報発信業務、食品衛生検査に係る信頼性確保業務(食品GLP業務)である。

ア 調査研究評価委員会等の運営

(7) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、内部評価委員会を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に研究所で実施する「全研究課題」について、委員である当研究所職員が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、平成26年度の開催概要は表のとおりである。

(イ) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、外部評価委員会を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、「特に重要な研究課題」について、委員である当研究所職員及び本庁関係課職員並びに外部研究機関の有識者が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、平成26年度の開催概要は表のとおりである。

(ウ) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱に基づき、倫理審査委員会を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に新たに計画された「人を対象とする医学系研究(倫理指針の対象外とされる研究は除く。)」について、委員である当研究所職員及び外部の有識者が、倫理指針等に基づき倫理的観点及び科学的観点からその実施の適否に係る審査を行うもので、平成26年度の開催概要は表のとおりである。

イ 信頼性確保部門としての業務(食品GLP業務)

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。なお、改善措置等が必要であるとされたものについて、講じた改善措置等の報告を求めると、適宜、改善指導を行った。

(7) 内部点検

収去施設(各区役所保健福祉センター衛生課、健康危機管理担当食品専門監視担当)並びに検査施設(健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、試験検査に係る書類の作成や機械器具の管理等が標準作業書に基づき、適切に行われているかの確認を行った。

(イ) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、第三者機関である公益財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

平成26年度は、食品添加物や残留農薬等の理化学検査6項目、一般細菌数や大腸菌群等の微生物検査3項目、動物を用いる検査1項目について、各検査区分が担当する項目に応じ、調査に参加した。

表 平成26年度調査研究評価委員会等開催概要

年月日	委員会	課題数
H26.5.14 H26.5.22	内部評価委員会(研究計画の評価)	39
H26.7.28	外部評価委員会(研究計画の評価)	10
H26.10.6	倫理審査委員会	6
H27.2.23 H27.3.2	内部評価委員会(研究結果の評価)	41
H27.3.20	外部評価委員会(研究結果の評価)	10

(2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及感染症の患者に対する医療に関する法律（以下、「感染症法」という。）」に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室（現在の健康福祉局健康安全部健康危機管理担当）に感染症情報センターを設置し、感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP*－Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

*FETP:Field Epidemiology Training Program

<感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、健康福祉局健康安全部健康危機管理担当及び各区役所保健福祉センター等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか！」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

ア 全数把握疾患の発生状況（表1～3）

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症では、結核 302 件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）の届出はなかった。

三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症 63 件、腸チフス 1 件の届出があり、コレラ、細菌性赤痢、パラチフスの届出はなかった。なお、腸管出血性大腸菌感染症については市内の保育園における集団感染事例が1件発生した。腸チフス1件についてはタイへの海外渡航歴があった。

四類感染症では、E型肝炎 3 件、A型肝炎 10 件、オウム病 4 件、チクングニア熱 1 件、デング熱 3 件、日本紅斑熱 1 件、レジオネラ症 14 件、レプトスピラ症 1 件の届出があった。なお、オウム病については市内の社会福祉施設において集団感染事例が発生した。

五類感染症では、アメーバ赤痢 19 件、ウイルス性肝炎 3 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 4 件、急性脳炎 14 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 件、後天性免疫不全症候群 22 件、ジアルジア症 1 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 5 件、侵襲性髄膜炎菌感染症 1 件、侵襲性肺炎球菌感染症 37 件、水痘（入院例に限る。）3 件、梅毒 31 件、播種性クリプトコックス症 2 件、破傷風 1 件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 件、風しん 15 件、麻しん 13 件の届出があった。なお、平成26年9月19日からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、水痘（入院例に限る。）及び播種性クリプトコックス症が五類感染症（全数把握疾患）に追加されるとともに、基幹定点における五類感染症（定点把握疾患）であった薬剤耐性アシネトバクター感染症が五類感染症（全数把握疾患）となった。

新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症の届出はなかった。

表1 届出数（一～三類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症患者等届出数）

平成 26 年

	一類感染症 エボラ出血熱、クリミア・ コンゴ出血熱、痘そう、 南米出血熱、ペスト、 マールブルグ病、 ラッサ熱	二類感染症 急性灰白髄炎 ジフテリア、 重症急性呼吸器 症候群(SARS)	結核	三類感染症						新型イ ンフル エンザ 等感染 症	指定感染症		総数
				コレラ	細菌性 赤痢	腸管出 血性大 腸菌感 染症	腸 チフス	パラ チフス	鳥インフ ルエン ザ (H7N9)		中東 呼吸 器症 候群 (MERS)		
平成 24 年	-	-	366	-	3	23	3	-	-	-	-	-	395
平成 25 年	-	-	362	-	-	74	1	2	-	-	-	-	439
平成 26 年	-	-	302	-	-	63	1	-	-	-	-	-	366
川 崎	-	-	88	-	-	19	-	-	-	-	-	-	107
幸	-	-	37	-	-	2	-	-	-	-	-	-	39
中 原	-	-	32	-	-	22	-	-	-	-	-	-	54
高 津	-	-	39	-	-	4	-	-	-	-	-	-	43
宮 前	-	-	38	-	-	13	-	-	-	-	-	-	51
多 摩	-	-	48	-	-	3	1	-	-	-	-	-	52
麻 生	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20

※平成 25 年 5 月 6 日から指定感染症（鳥インフルエンザ（H7N9））が報告対象となった。

※平成 26 年 7 月 26 日から指定感染症（中東呼吸器症候群（MERS））が報告対象となった。

表 2 届出数（四類感染症患者等届出数）

平成 26 年

	総数	四類感染症							
		E型肝炎	A型肝炎	オウム病	チクングニ ア熱	デング熱	日本紅斑熱	レジオ ネラ症	レプト スピラ症
総数	37	3	10	4	1	3	1	14	1
川 崎	13	-	5	-	-	1	-	6	1
幸	2	-	2	-	-	-	-	-	-
中 原	10	1	-	4	-	1	-	4	-
高 津	1	-	1	-	-	-	-	-	-
宮 前	7	2	1	-	1	-	1	2	-
多 摩	2	-	1	-	-	-	-	1	-
麻 生	2	-	-	-	-	1	-	1	-

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

平成 26 年

	総数	五類感染症								
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症
総数	174	19	3	4	14	1	1	22	1	5
川崎	70	8	-	-	-	1	-	15	1	-
幸	16	7	-	1	-	-	-	-	-	-
中原	30	-	3	-	2	-	1	4	-	1
高津	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-
宮前	40	1	-	3	12	-	-	1	-	4
多摩	8	2	-	-	-	-	-	1	-	-
麻生	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-

	総数	五類感染症								
		侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例に限る。)	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
総数		1	37	3	31	2	1	1	15	13
川崎		-	11	-	21	-	1	-	8	4
幸		-	-	-	-	-	-	-	6	2
中原		-	8	1	4	1	-	1	1	3
高津		-	4	-	2	-	-	-	-	-
宮前		1	12	2	2	-	-	-	-	2
多摩		-	1	-	2	-	-	-	-	2
麻生		-	1	-	-	1	-	-	-	-

※その他五類感染症の届出はなかった。

イ 定点把握疾患の発生状況（表4）

例年に比べ目立った流行を示したのは、インフルエンザ、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、ヘルパンギーナであった。

インフルエンザについては、2014年/2015年シーズンは例年と比べて1か月程度早く流行が始まり、平成11年のデータ収集開始以降、最も早い時期に流行発生注意報（第50週）及び流行発生警報（第52週）を発令した。

RSウイルス感染症については、7月以降患者報告数が増加し、年末にかけて例年より高いレベルで推移した。

定点当たり患者報告数の最大値は第51週で、平成15年のデータ収集開始以降、過去最多の報告数であった。

伝染性紅斑については、年当初から例年より高いレベルで推移し、平成23年以来3年ぶりに夏期における流行が認められた。

ヘルパンギーナについては、7月中旬から8月にかけて例年より高いレベルで推移した。

表4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】

平成26年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	44,741	6,995	8,375	4,905	2,641	1,839	2,015	3,214	1,534	1,407	1,686	2,775	7,355
水痘	1,690	228	134	142	129	129	137	136	58	90	120	153	234
流行性耳下腺炎	306	14	17	25	24	31	32	38	22	25	31	19	28
百日咳	4	1	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2,828	220	180	191	255	280	274	240	88	121	242	323	414
感染性胃腸炎	13,054	1,781	990	806	1,276	1,060	951	862	580	612	809	1,400	1,927
手足口病	863	13	7	6	7	13	55	292	96	138	100	89	47
伝染性紅斑	948	92	45	79	97	112	146	161	63	51	43	20	39
突発性発しん	1,158	100	59	89	113	108	134	116	88	84	109	93	65
ヘルパンギーナ	2,132	-	-	-	-	6	151	1,247	461	170	90	3	4
咽頭結膜熱	486	44	8	15	31	33	102	65	32	40	42	45	29
RSウイルス感染症	561	62	20	20	13	1	3	24	20	61	56	109	172
インフルエンザ	20,445	4,418	6,904	3,509	674	30	2	1	-	2	19	507	4,379
流行性角結膜炎	264	22	11	22	22	36	27	32	24	13	24	14	17
急性出血性結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】

平成26年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	484	55	60	52	38	28	33	41	38	43	31	26	39
細菌性髄膜炎	7	1	-	1	-	-	1	2	1	-	-	1	-
無菌性髄膜炎	20	1	-	1	5	-	3	3	1	2	3	1	-
マイコプラズマ肺炎	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	1
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ入院サーベイランス	73	25	18	10	4	-	1	-	-	-	1	1	13
淋菌感染症	47	6	5	3	2	6	2	2	7	8	1	3	2
性器クラミジア感染症	205	12	27	26	17	13	16	22	18	23	12	10	9
性器ヘルペスウイルス感染症	35	2	3	1	3	1	3	2	4	5	5	2	4
尖圭コンジローマ	29	2	1	5	2	4	2	3	3	1	-	2	4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	43	4	4	2	4	4	4	4	2	4	2	4	5
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	14	2	1	1	1	-	1	3	2	-	2	-	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※平成26年9月19日から薬剤耐性アシネトバクター感染症は五類感染症（全数把握疾患）となった。

ウ 集団施設における感染症発生情報（表5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、保育園、小学校、中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関や市民へ発信している。なお、保育園については平成26年8月から公立保育園が、同年10月から民間保育園が保育園サーベイランスシステムによる報告を開始した。

平成26年において、例年に比べて報告の多かった疾患は、インフルエンザ及び百日咳であった。

インフルエンザについては、2014年/2015年シーズンは全国的にも早い時期から患者報告数が増加し、過去5年平均の1.31倍であった。

百日咳については9件の報告があり、過去5年平均の1.14倍の報告があった。

表5 集団施設における感染症発生情報

平成26年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	49,192	7,156	16,343	8,601	1,376	1,080	1,157	1,121	681	831	857	1,921	8,068
	保育園	12,714	1,732	2,895	1,592	699	466	621	814	629	525	456	555	1,730
	小学校	30,920	4,792	11,538	5,362	576	576	515	291	48	284	374	1,266	5,298
	中学校	5,558	632	1,910	1,647	101	38	21	16	4	22	27	100	1,040
百日咳	総数	9	1	1	1	1	1	1	1	-	-	2	-	-
	保育園	4	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	2	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
	中学校	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	-
インフルエンザ様疾患	総数	38,073	6,197	15,666	8,038	652	89	5	-	1	1	21	848	6,555
	保育園	6,262	1,160	2,548	1,260	268	19	1	-	-	-	1	78	927
	小学校	26,472	4,422	11,233	5,139	302	54	3	-	1	-	18	693	4,607
	中学校	5,339	615	1,885	1,639	82	16	1	-	-	1	2	77	1,021
麻疹	総数	5	2	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	4	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	811	27	49	76	70	77	92	71	37	87	77	66	82
	保育園	236	8	2	11	22	13	27	32	21	22	33	13	32
	小学校	552	18	44	64	47	62	62	38	16	61	41	52	47
	中学校	23	1	3	1	1	2	3	1	-	4	3	1	3
水痘	総数	2,736	345	210	194	180	276	229	150	76	155	196	270	455
	保育園	1,384	192	114	129	85	98	92	69	64	99	109	106	227
	小学校	1,325	152	93	65	91	177	135	76	11	54	84	163	224
	中学校	27	1	3	-	4	1	2	5	1	2	3	1	4
風しん	総数	17	1	6	2	-	-	3	-	-	-	1	2	2
	保育園	4	-	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
	小学校	10	1	1	2	-	-	1	-	-	-	1	2	2
	中学校	3	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	222	16	17	13	22	23	44	13	11	19	16	15	13
	保育園	123	9	10	7	17	13	16	8	9	9	9	9	7
	小学校	87	7	7	5	4	8	25	4	2	7	7	5	6
	中学校	12	-	-	1	1	2	3	1	-	3	-	1	-
急性出血性結膜炎	総数	21	2	3	-	1	4	6	1	-	2	1	-	1
	保育園	12	1	2	-	-	3	5	-	-	1	-	-	-
	小学校	6	1	1	-	1	-	1	1	-	-	1	-	-
	中学校	3	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	1
咽頭結膜熱	総数	429	42	11	7	31	61	95	52	23	35	21	28	23
	保育園	325	19	11	4	20	55	76	45	22	27	16	20	10
	小学校	97	22	-	3	10	5	16	7	1	8	5	8	12
	中学校	7	1	-	-	1	1	3	-	-	-	-	-	1
その他	総数	6,869	523	380	269	418	548	682	833	533	532	522	692	937
	保育園	4,363	342	204	180	285	265	403	660	513	367	288	329	527
	小学校	2,365	167	159	83	121	268	271	165	17	154	217	343	400
	中学校	141	14	17	6	12	15	8	8	3	11	17	20	10

※平成26年8月1日から保育園は学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)から収集した情報を含む。

3 理化学検査担当

(1) 食品担当

食品担当では、「食品衛生法」に基づく食品中の食品添加物検査、食品汚染物検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査、苦情食品検査及びいわゆる健康食品の栄養成分検査等を担当している。平成26年度は健康福祉局食品安全担当、市内7区役所の保健福祉センター、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)学校給食会及び港湾局から搬入された食品等309検体、1,199項目について検査を実施した。

(一財)食品薬品安全センターの実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物(ソルビン酸)及び動物用医薬品(スルファジミジン)、麻痺性貝毒及び遺伝子組換えコムギ(MON71800)の検査を実施した。

また国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部からの依頼により、「ABI-7900およびLightCycler96による新規承認済GMトウモロコシスクリーニング法のコラボレーション試験」及び「貴施設の所有するリアルタイムPCR機器による遺伝子組換えパパイヤ(HN系統)の定性検査法のコラボレーション試験」への協力を行った。

ア 食品添加物検査

461項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)について使用基準に係る検査を実施した(表1)。結果はすべて使用基準を満たしていた。

イ 残留動物用医薬品検査

国産及び輸入畜水産食品について妥当性評価を実施し、動物用医薬品22項目について検査を実施したが、すべて残留基準値以下であった。検査を実施した項目の内訳を表2に示す。

ウ 遺伝子組換え食品検査

大豆、トウモロコシ加工品、コメ、コメ加工品及び小麦加工品計27検体の遺伝子組換え食品検査を実施した。結果はすべて不検出または陰性であった(表3)。

エ 特定原材料検査

小麦を対象に8検体について特定原材料検査を実施した(表4-1、表4-2)。

特定原材料の表示がなく、使用または混入が確認された検体が1件あった。

オ 自然毒検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝を含め、市内流通食品10検体について貝毒検査を実施した。また、ふぐ毒検査を2検体及びかび毒検査を7検体実施した。結果はすべて基準値以内であった(表5)。

カ 苦情食品検査

保健所へ苦情品として届けられたもののうち、当検査担当へ検体が搬入された事例は8例であった。その結果を表6-1、表6-2、表6-3に示す。

表1 食品化学検査内訳

検	査	内	容	項目数
食品中の食品添加物	保	存	料	181
	合	成	着 色 料	62
	発		色 色 剤	26
	甘		味 料	48
	漂		白 剤	16
	酸	化	防 止 剤	34
	品	質	保 持 剤	17
	防	か	び 剤	22
	不	許	可 添 加 物	55
小		計	461	
食品汚染物	ふ	ぐ	毒	2
	貝		毒	18
	か	び	毒	10
	動	物	用 医 薬 品	479
小		計	509	
規格	牛		乳	12
	乳		製 品	10
	小		計	22
食品の品質等の試験				83
遺伝子組換え食品検査				36
特定原材料検査				17
食品成分検査				4
そ の 他				67
総 計				1,199

表2 残留動物用医薬品検査結果

検体種類	牛乳	鶏		魚介類		
		筋肉	卵			
国産 or 輸入	国産	国産	国産	輸入		
検体数	1	11	16	10		
項目数	5	209	125	140		
検査項目名	1	ジフロキサリン	11	10		
	2	ミロキサリン	11			
	3	オキソリニック酸	11	10		
	4	ナリジクス酸	11			
	5	フルメキン	1	11		
	6	ピロミド酸	11			
	7	5-プロピルスルホニル-1H-ベンズイミダゾール-2-アミン	1	11	10	
	8	スルファジアジン	11	16		
	9	スルファチアゾール	1			
	10	スルファピリジン	11	10		
	11	スルファメラジン	11	16	10	
	12	スルファジミジン	1	11	16	10
	13	スルファメトキシピリダジン	11	15	10	
	14	スルファモノメキシシ	11	16	10	
	15	スルファクロロピリダジン	11			
	16	スルファドキシシ	1	11	10	
	17	スルファメキサゾール	11	15	10	
	18	スルファキノキサリン	11	15		
	19	スルファジメトキシシ	11	16	10	
	20	スルファニトラン	11		10	
	21	トリメプリム			10	
	22	オルメプリム			10	

表3 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	試験方法	結果	
				検出	数
大豆穀粒	4	RRS	定量 PCR	不検出	4
		RRS2		不検出	4
		LLS		不検出	4
トウモロコシ加工品	7	CBH351	定性 PCR	陰性	7
コメ	1	害虫抵抗性遺伝子組換えコメ	定性 PCR	陰性	1
		LL601	定性 PCR	陰性	1
コメ加工品	12	害虫抵抗性遺伝子組換えコメ	定性 PCR	陰性	12
小麦加工品	3	コムギ MON71800	定性 PCR	陰性	3

表 4-1 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	使用ELISAキット	結果	
小麦	菓子類	7	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.IIIシリーズ(小麦)	不検出	4
				10µg/g 未満	2
			10µg/g 以上	1	
			(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザ II 小麦(グリアジン)	不検出	6
	10µg/g 未満	1			
	加熱そう菜類	1	日本ハム(株)製 FASTKIT エライザ Ver.IIIシリーズ(小麦)	10µg/g 未満	1
(株)森永生科学研究所製モリナガ FASPEK エライザ II 小麦(グリアジン)				不検出	1

表 4-2 特定原材料確認検査結果

検査対象	品目	検体数	試験方法	結果	
小麦※	菓子類	1	定性PCR	陽性	1

※:スクリーニング検査により特定原材料が 10 µg/g 以上検出され、製造記録に記載のないものについて実施した。

表 5 自然毒検査結果

	検査項目	検体数	結果	
ふぐ毒	テトロドトキシン	2	5 MU/g 以下	2
貝毒	麻痺性貝毒	10	1.8 MU/g 未満	10
	下痢性貝毒		0.05 MU/g 未満	10
かび毒	デオキシニバレノール	1	不検出	1
	デオキシニバレノール	3	不検出	3
	ニバレノール		不検出	3
	パツリン	3	不検出	3

表 6-1 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果
牛乳	異味 異臭	細菌数	12 検体すべて 30 以下 (1ml 当たり)
		大腸菌群	12 検体すべて陰性
		ICP-MS による 金属スクリーニング	異味異臭の届け出のあったものと無かったものについて、含まれる金属元素の比較をしたところ、両者に違いは見られなかった。
		LC-TOFMS による 有機物質スクリーニング	異味異臭の届け出のあったものと無かったものについて、含まれる有機物質の比較をしたところ、両者に違いは見られなかった。

表 6-2 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果	
1 ベーグル中の異物	異物	外観(1)	長さ約 39mm、直径約 0.1mm の無色半透明な繊維状物質で、長さ約 16mm はパン内に埋もれていた。ピンとたつ硬さ及びしなる柔らかさを有していた。	
2 刷毛 (対照品)		外観(2)	長さ約 7~55mm、直径約 0.1mm の繊維状物質で、色は均一ではなく、乳白色または淡黄色が多い。半透明な部分も一部あった。また、ピンとたつ硬さ及びしなる柔らかさを有しており、部分的に裂けていた。	
3 刷毛(ナイロン製) (対照品2)		外観(3)	長さ約 40mm、直径約 0.09~0.17mm の無色半透明な繊維状物質。ピンとたつ硬さ及びしなる柔らかさを有していた。	
		加熱試験(1,2) (200℃、10分)	1は周りが少し茶色を帯びたが、内部は無色透明であった。2は色むらはあるが全体的に淡黄色~褐色になり、透明部はなかった。一方、当所が保有していた参考品:テグス(ナイロン製)では1に類似していた。	
		加熱試験(3) (200℃、10分)	周りが茶色を帯び、内部は透明度が下がった。	
		鏡検(実体顕微鏡)(1,2)	1は表面が滑らかであった。2は表面が少し粗かった。一方、テグス(ナイロン製)は1に類似していた。	
		鏡検(実体顕微鏡)(3)	表面が滑らかであった。	
	FT-IR(1,2)	1と2は一致度が低かった。1はテグス(ナイロン製)に類似したスペクトルを確認した。		
	FT-IR(3)	1(苦情品)に類似したスペクトルを確認した。 以上の結果より、1(苦情品)は3(対照品2)に類似した物質と推定される。		
1 ポテトベーグル (届出品)	有症	pH	1:5.7、2:5.8、3:5.8、4:5.8、5:5.8	
2 チーズポテトベーグル(届出品)		官能検査	1:香りや風味が少ない、2:香りや風味が少ない、3:異常なし、4:異常なし、5:強い冷凍庫臭がした。舌のしびれは感じられなかった。	
3 ポテトベーグル (対照品)		有機物質スクリーニング		1~5:合成洗剤の主な成分は検出されなかった。
4 チーズポテトベーグル(対照品)				
5 チーズポテトベーグル (届出者購入品)				
1 届出品 (ごぼう様植物の根、調理済み)	食中毒	アトロピン、スコポラミン	1:アトロピン 254.3 μg/g、スコポラミン 167.8 μg/g	
2 届出品 (ごぼう様植物の根、畑から採取)			2:アトロピン 不検出、スコポラミン 不検出	
3 届出品 (ごぼう様植物の根、自宅保存)			3:アトロピン 不検出、スコポラミン 不検出	
届出品(ごぼう様植物の根)	事後調査	アトロピン、スコポラミン	アトロピン 不検出、スコポラミン 不検出	

表 6-3 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果
ちくわぶ中の異物	異物	<p>外観</p> <p>鏡検(実体及び生物顕微鏡)</p>	<p>苦情品内部に一端が埋まっている黒色の繊維状異物が 1 本認められた。表面に出ていた部分の長さは 8.10mm、全長は 11.47mmで、ほぼ直状であった。</p> <p>異物は実体顕微鏡で観察すると、茶褐色で光沢があり、太さは 0.07mmで、全体ではほぼ均一であった。異物先端の一方は斜断状で、断面は卵円形であった。生物顕微鏡で、異物表面全体に小皮紋理様の横行波状の線が認められた。</p> <p>異物は哺乳類の毛であると推定された。</p>
<p>1 清涼飲料水 (相談品)</p> <p>2 清涼飲料水 (相談品と同時購入品)</p> <p>3 清涼飲料水 (工場保管品、検体番号 1 及び 2 と同ロット)</p>	異臭	<p>官能検査</p> <p>揮発成分スクリーニング (ヘッドスペース GC-MS による定性分析)</p>	<p>1: 3 と比較して違いは認められなかった。</p> <p>2: 3 と比較して違いは認められなかった。</p> <p>3: 異常なし</p> <p>1: 3 と比較して違いは認められなかった。</p> <p>2: 3 と比較して違いは認められなかった。</p>
イギリスパン中の異物	異物	<p>外観</p> <p>再現試験</p> <p>鏡検(実体顕微鏡)</p> <p>燃焼試験</p>	<p>大きさ、重量:切断面に約 1mm×2mm から約 2mm×3mm の 4 個の黒色物質が確認でき、その周辺にさらに小さな黒色物質が多数確認された。</p> <p>色調:黒色で光沢はほとんどない。</p> <p>形状その他:硬さはピンセットで引っ搔くと崩れる程度で、パンの内部に入り込んでいた。</p> <p>異物とともに搬入されたパン部を 250°C、30 分加熱したところ、異物と類似した黒色物質が得られた。</p> <p>異物及び再現試験で得られた物質はともに特徴的な構造を有していない。</p> <p>異物及び再現試験で得られた物質はともに灰化した。</p>
ころ柿	異物	<p>外観</p> <p>鏡検(生物顕微鏡)</p>	<p>苦情品 3 個のうち、食べかけの 1 個の断面全体に緑変部が認められた。</p> <p>カビ(<i>Penicillium sp.</i>他)の形態を確認した。</p> <p>異物はカビ(<i>Penicillium sp.</i>他)によるものと推定される。</p>

(2) 水質・環境担当

水質・環境担当では、「水道法」に基づく飲料水の水質基準項目検査、クリプトスポリジウム検査、「川崎市公衆浴場法施行条例」に基づく浴槽水検査、「神奈川県水浴場等に関する条例」に基づくプール水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査、「薬事法」に基づく健康食品中医薬品成分検査を担当している。

ア 飲料水検査

平成 26 年度に検査を実施した飲料水検体は 113 件であった。検査検体の内訳は、井戸水(災害用選定の生活用水井戸を含む)105 件、貯水槽水 6 件、小規模水道水 1 件、その他 1 件であった。基準不適合項目等の検査結果を表 1 に示す。

イ プール水、浴槽水検査

市内プール水 73 件、浴槽水 184 件、計 257 件について濁度、過マンガン酸カリウム消費量の検査を実施したところ、全て基準に適合していた。(表 2)

ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品 50 検体について、ホルムアルデヒド、メタノール、テトラクロロエチレン、トリクロロエチレンの計 4 項目の有害物質の検査を実施した。その結果、全て基準に適合していた。(表 3)

エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水(ジュース、ミネラルウォーター等)9 検体について、6 項目(混濁、沈殿物、ヒ素、鉛、カドミウム、スズ)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

オ おもちゃの規格基準検査

塩化ビニル製輸入おもちゃ 7 検体について、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

カ 豆類、生あんの規格基準検査

ベビーライマ豆 1 検体、白あん 1 検体につい

てシアン化合物の規格検査を実施したところ、2 検体とも基準に適合していた。

キ 寒天の規格基準検査

粉末寒天 2 検体についてホウ素化合物の規格検査を実施したところ、2 検体とも基準に適合していた。

ク 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したあゆ 3 検体について PCB 等の環境汚物質検査を実施した。その結果を表 4 に示す。

ケ 医薬品成分検査

健康安全部から搬入された健康食品 15 検体について、薬事法に基づき医薬品成分 16 項目の検査を実施した。結果はすべて不検出であった。(表 5)

表1 飲料水検査結果

種類	井戸水	貯水槽水	小規模水道水	その他	計	
検体数	105 (102)	6 (110)	1 (0)	1 (1)	113 (213)	
不適合件数	41 (33)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	42 (35)	
不適合項目件数	一般細菌	23 (17)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (17)
	大腸菌	16 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	16 (10)
	亜硝酸態窒素	1	0	0	0	1
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	1 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (2)
	鉄及びその化合物	16 (15)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	17 (17)
	塩化物イオン	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	pH値	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭気	5 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (7)
	色度	9 (13)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (14)
	濁度	12 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	13 (8)
鉛及びその化合物	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	

():前年度

表2 プール水、浴槽水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水	73 (103)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
浴槽水	184 (182)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
計	257 (285)	

():前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検査項目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品、つけまつげ用接着剤等	44	0
塩化水素、硫酸	住宅用洗浄剤	0	0
水酸化カリウム、水酸化ナトリウム	住宅用洗浄剤	0	0
容器試験	住宅用洗浄剤	0	0
有機水銀化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	0	0
トリフェニル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	0	0
トリブチル錫化合物	家庭用塗料、家庭用接着剤等	0	0
メタノール	家庭用エアゾル製品	2	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	2	0
ジベンゾ[a, h]アントラセン	家庭用防腐、防虫木材	0	0
ベンゾ[a]アントラセン	家庭用防腐、防虫木材	0	0
ベンゾ[a]ピレン	家庭用防腐、防虫木材	0	0
総 数		50	0

表4 多摩川で採取した魚介類の検査結果

(単位：ppm)

項目	高津地区	中野島地区	宿河原地区	基準値	定量下限値
総水銀	不検出	不検出	不検出	0.4 (暫定規制値)	0.05
銅	0.55	0.55	0.65	—	0.25
鉛	不検出	不検出	不検出	—	1.25
カドミウム	不検出	不検出	不検出	—	0.125
マンガン	5.3	4.8	5.4	—	0.125
クロム	不検出	不検出	不検出	—	0.25
亜鉛	20.4	17.8	17.0	—	0.125
ヒ素	不検出	不検出	不検出	—	0.005
トリブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
トリフェニルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
ジブチルスズ化合物	不検出	不検出	不検出	—	0.1
ベンゾ[a]ピレン	不検出	不検出	不検出	—	0.0002
PCB	0.02	0.02	0.02	3 (内海内湾産魚介類暫定規制値)	0.01

備考 PCB (KC-300:KC-400:KC-500:KC-600=1:1:1:1)

表5 健康食品中医薬品成分検査結果

	検査項目	検体数	検出	不検出
痩身成分	フェノールフタレイン	6	0	6
	フェンフルラミン	6	0	6
	N-ニトロソフェンフルラミン	6	0	6
	シブトラミン	6	0	6
	マジンドール	6	0	6
	クロルプロパミド	6	0	6
	トルブタミド	6	0	6
	ヨヒンビン	1	0	1
強壮成分	シルデナフィル	7	0	7
	タダラフィル	7	0	7
	バルデナフィル	7	0	7
	ホンデナフィル	7	0	7
	チオキナピペリフィル	7	0	7
	キサントアントラフィル	7	0	7
	グリベンクラミド	7	0	7
	ヨヒンビン	7	0	7
局所麻酔成分	リドカイン	2	0	2

(3) 残留農薬・放射能検査部門

残留農薬・放射能検査担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査及び食品・水道水・海水等の放射能検査を実施した。

ア 残留農薬検査

健康福祉局食品安全担当及び市内7区役所の保健福祉センター、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会から依頼のあった食品、総数 43 検体・1,705 項目について残留農薬検査を実施した。

(7) 国内産農産物の検査

食品安全担当、各区役所保健福祉センター及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の 39 検体・計 1645 項目について検査を実施した(表1及び表2-1、2-2)。国内産農産物のうち市内産は15検体・計550項目、その他の国内産は24検体・計1,095項目行った。

市内産で農薬の検出が認められた検体は、ダイアジノンが「日本なし」麻生区産1検体(0.006mg/kg、基準値 0.1mg/kg)、クロルフェナピが「きゅうり」高津区産 1 検体(0.02mg/kg、基準値 0.5mg/kg)、ピリダベンが「トマト」宮前区産 1 検体(0.01mg/kg・基準値 5mg/kg)、テ

フルベンズロンが「日本なし」麻生区産 1 検体(0.017mg/kg・基準値 0.5mg/kg)、フルフェノクスロンが「ほうれん草」宮前区産 1 検体(0.013mg/kg・基準値 10mg/kg)であり、その他は不検出であった。その他の国内産農産物では、メチダチオンが「日本なし」群馬県産 1 検体(0.007mg/kg・基準値 1mg/kg)、ビフェントリンが「日本なし」群馬県産 1 検体(0.008mg/kg・基準値 0.5mg/kg)であり、その他は不検出であった。

(イ) 学校給食用食材の検査

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食会依頼分の4検体・計60項目について検査を実施した(表3)。

農薬の検出が認められた検体は、マラチオン(マラソン)が「ほうれん草」群馬県産1検体(0.007mg/kg・基準値2.0mg/kg)、アゾキシストロピンが「きゅうり」群馬県産1検体(0.006mg/kg・基準値1mg/kg)であり、その他は不検出であった。

表1 市内産農作物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	ト マ ト		き ゆ う り			日 本 な し			ほ う れ ん 草		に ん じ ん	
	高 津 区	宮 前 区	高 津 区	宮 前 区	麻 生 区	麻 生 区	高 津 区	多 摩 区	多 摩 区	宮 前 区	麻 生 区	
検体数(合計15件)	1	1	1	1	1	1	1	3	1	1	3	
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
検出項目数	0	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	
検査項目	1	EPN	○	○	○	○	○			○	○	○
	2	クロルフェンピホス			○	○	○					
	3	アジンホスメチル	○	○	○	○	○			○	○	○
	4	アニコホス	○	○								
	5	イザゾホス			○	○	○					○
	6	エチオン			○	○	○	○	○	○	○	○
	7	エトプロホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○
	8	エトリムホス	○	○						○	○	○
	9	カズサホス			○	○	○					
	10	キナルホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	11	クロルピリホス						○	○	○	○	

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表1つづき 市内産農作物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

	農産物名	トマト		きゅうり			日本なし			ほうれん草		にんじん	
検査項目	12	クロルピリホスメチル	○	○				○	○	○			○
	13	サリチオン	○	○									
	14	シアノホス			○	○	○	○	○	○	○	○	
	15	ジクロフェンチオン			○	○	○						○
	16	ジクロロホス(DDVP)			○	○	○						
	17	ジメチルピホス	○	○									
	18	ジメトエート	○	○				○	○	○			○
	19	タイアジノン	○	○	○	○	○	0.006	○	○	○	○	○
	20	テトラクロルピホス	○	○							○	○	
	21	テルフホス			○	○	○						
	22	トルクロホスメチル			○	○	○	○	○	○			○
	23	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	24	パラチオンメチル						○	○	○			
	25	ピペロホス			○	○	○				○	○	
	26	ピラクロホス	○	○							○	○	
	27	ピリタフェンチオン											○
	28	ピリミホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	29	フェナミホス						○	○	○	○	○	
	30	フェントロチオン(MEP)						○	○	○			○
	31	フェンシルホチオン			○	○	○						○
	32	フェントエート	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	33	プロチオホス			○	○	○				○	○	○
	34	プロパホス	○	○							○	○	
	35	ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	36	ホスチアセート	○	○									○
	37	ホスファミドリン						○	○	○	○	○	
	38	ホノホス	○	○	○	○	○						
	39	ホレート			○	○	○						
	40	マラチオン(マラソン)	○	○				○	○	○	○	○	○
	41	メタクリホス									○	○	
	42	メチタチオン	○	○	○	○	○	○	○	○			
	43	メビホス	○	○									○
	44	エンドスルファン	○	○	○	○	○						
	45	アクリナトリン			○	○	○	○	○	○			
	46	アサコナゾール	○	○							○	○	
	47	アゾキシストロピン	○	○	○	○	○	○	○	○			○
	48	アトラジン						○	○	○			○
	49	アラクロール	○	○	○	○	○	○	○	○			
	50	イソプロチオラン	○	○				○	○	○	○	○	
	51	キノクラミン(ACN)	○	○	○	○	○						
	52	クロメプロップ	○	○	○	○	○						
	53	クロルフェナピル	○	○	0.02	○	○	○	○	○			○
	54	クロルフェンゾン	○	○							○	○	
	55	クロルプロファミ			○	○	○	○	○	○			
	56	シアナジン	○	○							○	○	
	57	ジクロプロトラゾール	○	○									○
58	ジクロラン									○	○		
59	ジチオピル	○	○							○	○	○	
60	シハロホップチル	○	○										
61	ジフェノコナゾール						○	○	○				
62	シフルフェナミド	○	○	○	○	○							
63	シメコナゾール	○	○				○	○	○			○	
64	ジメチピン									○	○		
65	トリアレート	○	○	○	○	○	○	○	○				
66	トリブホス(DEF)	○	○	○	○	○							

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表1つづき 市内産農作物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	トマト		きゅうり			日本なし			ほうれん草		にんじん	
67	ハルフェンプロックス			○	○	○						
68	ピフェノックス								○	○		
69	ピフェントリン	○	○				○	○	○			○
70	ピラゾホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
71	フィプロニル						○	○	○			
72	フェナリモル			○	○	○						
73	フェンクロルホス	○	○	○	○	○	○	○				
74	フェンプロパトリン			○	○	○						
75	フサライド	○	○									
76	プロプロフェシン			○	○	○	○	○	○			○
77	フルシトリネート						○	○	○			
78	フルトラニル	○	○	○	○	○			○	○		
79	フルハリネート						○	○	○			
80	プロモプロピレート	○	○	○	○	○						
81	プロモホス(プロモホスメチル)			○	○	○	○	○	○			
82	ベンフルラリン			○	○	○						
83	ミクロブタニル						○	○	○			○
84	ピリタベン	○	0.01	○	○	○						
85	ジエトフェンカルブ			○	○	○	○	○	○			
86	プロピコナゾール	○	○	○	○	○	○	○	○			
87	クロニトロフェン(CNP)								○	○		
88	Sweep								○	○		
89	オキサジキシル								○	○		○
90	クロフェンテジン								○	○		○
91	シメリン								○	○		○
92	テトラトリン											○
93	トリフルアニド代謝物								○	○		○
94	ニトロフェン								○	○		
95	ファミキサトリン											○
96	フェンプロコナゾール								○	○		
97	フラメピル											○
98	プロパニル								○	○		○
99	ヘントキサゾリン								○	○		○
100	メフェナセツ								○	○		○
101	レナシル											○
102	チアベンダゾール	○	○	○	○	○			○	○		○
103	ベンダイオカルブ								○	○		○
104	カルハリル			○	○	○	○	○	○	○		○
105	ピリミカーブ						○	○	○			○
106	フェンプロカルブ								○	○		○
107	リニユロン						○	○	○	○		○
108	メパニピリム						○	○	○			
109	ジフルベンスロン											○
110	テブフェンシド						○	○	○			
111	イマザリル	○	○				○	○	○			
112	ペンシクロン								○	○		
113	ヘキサフルムロン											○
114	テフルベンスロン						0.017	○	○			
115	ルフェヌロン						○	○	○	○		
116	クロルフルアスロン						○	○	○			○
117	オキサミル						○	○	○	○		○
118	フェンピロキシメート						○	○	○			
119	フルフェノクスロン								○	0.013		

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-1 国内産農作物の残留農薬検査結果 1

(単位:mg/kg)

農産物名		トマト		きゅうり	日本なし			ほうれん草				
		北海道	神奈川県	群馬	栃木	栃木	群馬	栃木	群馬	千葉		
検体数(合計12件)		1	1	1	2	1	1	1	3			1
検査依頼項目数		48	50	48	50	50	50	50	50	50	50	50
検出項目数		0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
検査項目	1 EPN	○	○			○	○	○	○	○	○	○
	2 クロルフェンピホス	○				○	○	○	○	○	○	○
	3 アジンホスメチル	○									○	
	4 アエロホス	○									○	
	5 イザゾホス	○						○	○		○	
	6 エチオン	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	7 エディフェンホス	○				○	○	○	○		○	
	8 エトプロホス	○				○	○	○	○		○	
	9 エトリムホス	○				○	○	○	○		○	
	10 カズサホス	○		○		○	○	○	○	○	○	○
	11 キナルホス	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	12 クロルピリホス	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	13 クロルピリホスメチル	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	14 サリチオン	○									○	
	15 シアノホス	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	16 ジクロフェンチオン	○						○	○	○	○	○
	17 ジメチルピホス	○				○	○	○	○		○	
	18 ジメエート	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	19 ダイアジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	20 テトラクロルピホス	○						○	○	○	○	○
	21 テルブホス	○										
	22 トリアゾホス	○		○								
	23 トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	24 パラチオン(パラチオンエチル)	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	25 パラチオンメチル	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	26 ビペロホス	○									○	
	27 ビラクロホス	○	○			○	○	○	○		○	○
	28 ビリタフェンチオン	○									○	
	29 ビリミホスメチル	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	30 フェナミホス	○			○	○	○				○	○
	31 フェントロチオン(MEP)	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	32 フェンスルホチオン	○	○			○	○	○	○		○	
	33 フェントエート	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	34 プタミホス	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	35 プロチオホス	○	○	○		○	○	○	○	○	○	
	36 プロパホス	○									○	
	37 プロフェノホス	○						○	○	○	○	○
	38 ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	39 ホスチアセート	○	○	○		○	○					
	40 ホスファミン	○			○	○	○	○	○	○	○	○
	41 ホノホス	○									○	
	42 ホレート							○	○	○	○	○
	43 マラチオン(マラソン)	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-1つづき 国内産農作物の残留農薬検査結果 1

(単位:mg/kg)

農産物名	トマト		きゅうり	日本なし			ほうれん草					
44	メタリホス							○	○	○	○	○
45	メチダチオン	○			○	○	0.007	○	○		○	
46	メシホス	○			○							
47	エンドスルファン	○		○		○	○	○	○	○	○	○
48	アクリナリン	○	○	○	○	○	○					
49	アザコナゾール			○							○	
50	アゾキシストロビン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	アトラジン	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
52	アラクロール			○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	イソプロチオラン			○	○	○	○					
54	キノクラミン(ACN)			○								
55	クレソキシムメチル			○								
56	クロメプロップ			○								
57	クロルフェナピル		○	○	○							
58	クロルフェンソ			○								
59	クロルプロファミ			○	○	○	○	○	○	○	○	○
60	シアナジン			○				○	○	○	○	○
61	ジクロプロトラゾール			○								
62	ジクロラン			○								
63	ジチオピル			○								
64	シハロホップチル			○								
65	ジフェコナゾール		○	○	○	○	○					
66	シフルフェナミド		○	○								
67	シメコナゾール		○	○	○	○	○			○		○
68	ジメチピン			○						○		
69	トリアレート			○	○	○	○	○	○	○		○
70	トリブホス(DEF)			○								
71	ハルフェンプロックス			○								
72	ピフェノックス			○								
73	ピフェントリン		○	○	○	○	0.008	○	○	○		○
74	ピラゾホス			○		○	○	○	○	○	○	○
75	フィプロニル			○	○	○	○					
76	フェナリモル		○	○				○	○	○		○
77	フェンクロルホス			○	○	○	○	○	○	○		○
78	フェンプロパトリン			○								
79	フサライド			○								
80	ブプロフェジン		○	○	○	○	○					
81	フルシトリーネ		○	○	○							
82	フルトラニル		○	○				○	○	○		○
83	フルバリネ		○		○	○	○					
84	プロモプロピレート							○	○	○		○
85	プロモホス(プロモホスメチル)				○	○	○	○	○			
86	ベンフルラリン	○										
87	ミクロプロタニル		○	○	○	○	○	○	○	○		○
88	モリネ									○		○
89	イソカルボホス											
90	エタルフルラリン											
91	オキサジアゾン											
92	オキシフルオルフェン											
93	キノキシフェン											

検査項目

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-1つづき 国内産農作物の残留農薬検査結果1

(単位:mg/kg)

農産物名		ト マ ト	き ゆ う り	日 本 な し			ほ う れ ん 草				
94	キントゼン										
95	クロルタルジメチル										
96	シアノフェホス										
97	ジクロトホス										
98	ジフルフェニカン										
99	スルフロホス										
100	チオベンカルブ										
101	チフルサミド										
102	テトラジホシ										
103	テフルリン										
104	デメシ-S-メチル										
105	トリアジメノール										
106	トリアジメホシ										
107	トリフルラリン										
108	ニトロタルイソプロピル										
109	ピリダヘン	○	○								
110	ピリプチカルブ										
111	ピリミジフェン										
112	ピリミノバックメチル										
113	ピンクロゾリン										
114	ブピリメート										
115	フルアクリピリム										
116	プロシメトリン										
117	プロピサミド										
118	ベルメリン										
119	ベンコナゾール										
120	ペンタイメタリン										
121	メカルバム										
122	モノクロトホス										
123	ジエトフェンカルブ	○	○	○	○	○					
124	ジフェニルアミン										
125	フェノキシカルブ										
126	プロピコナゾール	○	○	○	○	○					
127	BHC										
128	オキサジキシル								○		○
129	クロフェンテジン								○		○
130	シラフルオフエン	○									
131	ピペロニルブトキシド								○		○
132	ファモキサドリン										
133	フルジオキシニル								○		○
134	プロパニル								○		○
135	プロパルキット								○		○
136	ヘキサコナゾール								○		○
137	γ-BHC(リンデン)										
138	レナシル							○	○	○	○
139	チアベンダゾール	○									
140	ベンダイオカルブ	○									
141	カルバリル	○		○							
142	ピリミカーブ	○		○							
143	フェノブカルブ	○									
144	リニョロン	○		○							
145	メパニピリム	○		○							
146	ジフルヘンズロン	○									
147	テブフェノジド	○		○							
148	イマザリル	○		○							
149	カルプロパミド	○									
150	ペンシクロン	○									

検査項目

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-1つづき 国内産農作物の残留農薬検査結果 1

(単位:mg/kg)

農産物名		トマト		きゅうり	日本なし			ほうれん草				
			○									
検査項目	151	ヘキサフルムロン		○								
	152	テフルベンズロン		○		○						
	153	ルフェスロン		○		○						
	154	クロルフルアズロン		○		○						
	155	オキサミル				○						
	156	フェンピロキシメート				○						
	157	フルフェクスロン										

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-2 国内産農作物の残留農薬検査結果 2

(単位:mg/kg)

農産物名		にんじん					キャベツ		こまつな			
		青森	熊本	北海道		千葉	神奈川	愛知	茨城	神奈川	千葉	
検体数(合計12件)		1	1	2		2	1	2	1	1	1	
検査依頼項目数		49	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
検出項目数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
検査項目	1	EPN				○		○	○		○	
	2	クロルフェンピホス			○	○		○	○	○		○
	3	アシンホスメチル				○				○	○	○
	4	アエロホス	○			○				○	○	○
	5	イサゾホス				○				○		○
	6	エチオン	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	7	エテ`イフェンホス	○			○					○	
	8	エトプロホス				○				○		○
	9	エトリムホス	○			○				○	○	○
	10	カス`サホス				○		○	○	○		○
	11	キナルホス				○		○	○	○	○	○
	12	クロルピリホス						○	○	○		○
	13	クロルピリホスメチル	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	14	サリチオン				○					○	
	15	シアノホス		○	○	○		○	○	○	○	○
	16	ジ`クロフェンチオン	○			○					○	
	17	ジ`メチルピホス				○				○		○
	18	ジ`トエート	○	○	○	○		○				
	19	タ`イジン	○	○	○	○		○	○	○		○
	20	テトラクロルピホス		○		○		○	○	○	○	○
	21	テルフ`ホス						○	○	○	○	○
	22	トリアゾホス										
	23	トルクロホスメチル	○	○	○	○		○	○	○		○
	24	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	25	パラチオンメチル	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	26	ピ`ペ`ロホス				○				○		○
	27	ピ`ラクロホス	○	○	○	○		○	○	○		○
	28	ピ`リタ`フェンチオン	○			○					○	

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-2つづき 国内産農作物の残留農薬検査結果2

(単位:mg/kg)

農産物名	にんじん						キャベツ		こまつな		
29	ピリミホスメチル	○	○	○	○		○	○	○	○	○
30	フェナホス		○	○	○		○	○	○		○
31	フェニトロチオン(MEP)	○	○	○	○		○	○	○	○	○
32	フェンスルホチオン	○			○					○	
33	フェントエート	○	○	○	○		○	○			
34	ブタミホス	○	○	○	○		○	○	○	○	○
35	プロチオホス				○		○	○	○		○
36	プロパホス	○							○	○	○
37	プロフェノホス		○	○	○		○	○	○		○
38	ホサロン		○	○	○		○	○	○	○	○
39	ホスチアセート	○	○	○	○		○	○	○	○	○
40	ホスファミド ¹		○		○		○	○	○		○
41	ホノホス				○						
42	ホレート	○	○		○				○	○	○
43	マラチオン(マラソン)	○	○	○	○		○	○	○		○
44	メタクリホス								○	○	○
45	メチタチオン	○	○		○		○	○	○		○
46	メピンホス		○	○	○		○		○	○	○
47	エンドスルファン				○		○		○		○
48	アグリナトリン				○						
49	アサコナゾール						○			○	
50	アゾキシストロビン	○			○	○		○	○		○
51	アトラジン		○	○	○		○	○	○	○	○
52	アラクロール	○			○	○		○	○	○	○
53	イソプロチオラン						○			○	
54	キノクラミン(ACN)				○	○					
55	クレソキシムメチル	○	○	○			○	○	○		○
56	クロメプロップ ²				○		○	○		○	
57	クロルフェナピル	○	○				○	○	○		
58	クロルフェンゾ ³		○	○	○		○	○		○	
59	クロルプロファミ ⁴		○	○	○		○	○	○		○
60	シアナジン ⁵	○	○	○	○		○	○	○	○	○
61	ジクロプロトラゾール	○					○	○		○	
62	ジクロラン	○	○	○			○			○	
63	ジチオピル										
64	シハロホップ ⁶ ブチル									○	
65	ジフェノコナゾール		○	○			○	○	○	○	○
66	シフルフェナミド ⁷										
67	シメコナゾール	○					○	○	○	○	○
68	ジメチピン		○								
69	トリアレート		○	○			○	○	○		○
70	トリブホス(DEF)									○	
71	ハルフェン ⁸ プロックス	○								○	
72	ピフェノックス										
73	ピフェントリン	○	○	○			○	○	○	○	○
74	ピラゾホス		○	○			○	○	○		○
75	ファイプロニル						○	○			
76	フェナリモル	○	○	○			○	○	○	○	○
77	フェンクロルホス	○	○	○			○			○	

検査項目

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-2つづき 国内産農作物の残留農薬検査結果2

(単位:mg/kg)

農産物名	にんじん						キャベツ		こまつな		
78	フェンプロパトリン	○					○	○			
79	フサライド									○	
80	プロフェジン									○	
81	フルシトリーネート	○	○	○			○				
82	フルトラニル	○					○	○		○	
83	フルバリネート										
84	プロモプロピレート	○	○	○			○	○	○		○
85	プロモホス(プロモホスメチル)	○		○							
86	ペンフルラリン									○	
87	ミクロプロタニル		○	○			○	○	○		
88	モリネート									○	
89	イソカルボホス					○					
90	エタルフルラリン					○					
91	オキサジメゾン					○					
92	オキシフルオルフェン					○					
93	キノキシフェン					○					
94	キントゼン					○					
95	クロルタルジメチル					○					
96	シアノフェンホス					○					
97	ジクロトホス					○					
98	ジフルフェニカン					○					
99	スルプロホス					○					
100	チオペンカルブ					○					
101	チフルサミド					○					
102	テトラジホソ					○					
103	テフルトリン					○					
104	テメソ-S-メチル					○					
105	トリアジメノール					○					
106	トリアジメホソ					○					
107	トリフルラリン					○					
108	ニトロタルイソプロピル					○					
109	ピリタペン					○					
110	ピリブチカルブ					○					
111	ピリミジフェン					○					
112	ピリミノバックメチル					○					
113	ピンクロゾリン					○					
114	プロピレート					○					
115	フルアクリピリム					○					
116	プロシトリン					○					
117	プロピサミド					○					
118	ヘルメトリン					○					
119	ペンコナゾール					○					
120	ペンディメタリン					○					
121	メカルバム					○					
122	モノクロトホス					○					
123	ジエトフェンカルブ										
124	ジフェニルアミン					○					
125	フェノキシカルブ					○					
126	プロピコナゾール					○					

検査項目

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表2-2つづき 国内産農作物の残留農薬検査結果2

(単位:mg/kg)

農産物名	にんじん						キャベツ		こまつな			
127	BHC			○			○					
128	オキサジキシル		○	○			○					
129	クロフェンテジン		○	○			○					
130	シラフルオフェン											
131	ピペロニルブトキシド		○	○			○					
132	ファミキサド		○	○			○					
133	フルジノキサニル		○	○			○					
134	プロパニル		○	○			○					
135	プロパルキット		○	○								
136	ヘキサコナゾール		○	○			○					
137	γ-BHC(リンデン)		○	○								
138	レナシル	○	○	○			○	○	○	○	○	○
139	チアベンタゾール	○				○						
140	ペンダイオカルブ					○						
141	カルバリル	○				○						
142	ピリミカーブ	○				○						
143	フェノブカルブ					○						
144	リニユロン	○				○						
145	メハニピリム	○				○						
146	ジフルベンズロン					○						
147	テブフェノジド											
148	イマザリル											
149	カルプロハミド					○						
150	ペンシクロン											
151	ヘキサフルムロン					○						
152	テフルベンズロン											
153	ルフェヌロン											
154	クロルフルアズロン	○				○						
155	オキサミル	○				○						
156	フェンピロキシメート											
157	フルフェノクスロン	○				○						

検査項目

○:検査依頼項目で不検出だった項目

表3 学校給食食材の残留農薬検査結果 1

(単位: $\mu\text{g/mL}$)

農産物		に ん じ ん	ほ う れ ん そ う	き ゆ う り
検体数		2	1	1
検査依頼項目数		20	20	20
検出項目数		0	1	1
検査 依 頼 項 目	1	クロルフェニピンホス	○	
	2	エチオン	○	
	3	カズサホス		○
	4	キナルホス		○
	5	クロルピリホス		○
	6	クロルピリホスメチル	○	○
	7	サリチオン		
	8	シアノホス	○	○
	9	ジメチルピンホス		○
	10	ダイアジノン	○	○
	11	テトラクロルピンホス	○	○
	12	テルブホス		○
	13	トルクロホスメチル	○	
	14	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○
	15	パラチオンメチル	○	
	16	ピラクロホス	○	○
	17	ピリミホスメチル	○	
	18	フェナミホス	○	○
	19	フェントロチオン(MEP)	○	○
	20	フェントエート	○	○
	21	プロタミホス	○	○
	22	プロフェノホス	○	○
	23	ホスファミドン	○	
	24	ホレート	○	
	25	マラチオン(マラソン)	○	0.007
	26	メタクリホス		○
	27	メチダチオン	○	○
	28	メピンホス	○	
	29	アゾキシストロピン		
	30	アトラジン		○
	31	クロルプロファム		○
	32	シアナジン		○
	33	トリアレート		○
	34	ピフェントリン		○
	35	ピラゾホス		○
	36	フィプロニル		○
	37	フルトラニル		○
	38	レナシル		○

○:検査依頼項目で不検出だった項目

イ 放射能検査（輸入食品）

チェルノブイリ原発事故後、放射性セシウム(セシウム 134 とセシウム 137)について、平成元年から市内に流通する輸入食品を対象に行っている。

今年度は、健康福祉局食品安全担当依頼分の3検体について、放射能検査を実施した(表4)。その検査結果は、全て基準値(セシウム134及び137の合計で100 Bq/kg)以下であり、全て検出限界以下であった。

ウ 放射能検査（国産食品及び環境試料）

平成23年3月11日の福島第一原発事故後より放射性ヨウ素(ヨウ素131)と放射性セシウム(セシウム134とセシウム137)について測定を行っている。

食品安全担当、経済労働局農業振興センター、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会、港湾局港営課及び上下水道局水道水質課、環境局処理計画課から依頼のあった、総数364検体・計728項目(内訳、食品226検体452項目、水など環境試料138検体276項目)について放射能検査を実施した。

(ア) 市内産農産物

農業振興センター依頼分の市内産農産物について29検体の検査を実施した(表5)。

検査結果は、全て不検出(基準値(セシウム134及び137の合計で100 Bq/kg以下))であった。

(イ) 市内流通食品

食品安全担当依頼分の、市内に流通する食品60検体(内訳、一般食品44検体、牛乳4検体、乳児用食品3検体、飲料水9検体)について検査を実施したところ、全て不検出であった(表6)。

(ウ) 学校給食

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食会依頼分の73検体について検査を実施したところ、全て不検出であった(表7)。

(エ) 川崎港生息魚介類モニタリング調査

食品安全担当と環境局放射線安全推進室及び処理計画課との連携により、平成25年4月の焼却灰の埋立開始に際しての放流に伴い、外海への影響を確認するため、川崎港

内(浮島埋立処分場周辺の公共用水域)で魚介類を採取し、全64検体についてその放射性セシウム濃度を測定した(表8)。

検査結果は、放射性セシウム(Cs-137)の検出が、シマイサキ、スズキ、ボラ、黒ダイ各1検体に認められたが、それぞれ基準値以下であり、その他は全て不検出であった。

(オ) 水道水

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び配水112検体について検査を実施したところ検査結果は、全て不検出であった(表9)。

(カ) 海水

港湾局港営課より依頼のあった海水26検体について検査を実施したところ、全て不検出であった(表10)。

表4 輸入食品の放射能検査結果

品名	原産国	検体件数 (計3件)	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
ワイン	イタリア	1	不検出	不検出
トマトジュース	トルコ	1	不検出	不検出
ブルーベリージャム(びん詰)	フランス	1	不検出	不検出

表5 市内産農産物の放射能検査結果

品名	産地	検体件数 (計29件)	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
うめ	多摩区	1	不検出	不検出
キャベツ	高津区	1	不検出	不検出
きゅうり	麻生区	3	不検出	不検出
こまつな	中原区	1	不検出	不検出
さつまいも	麻生区	2	不検出	不検出
	高津区	1	不検出	不検出
さといも	麻生区	1	不検出	不検出
じゃがいも	高津区	1	不検出	不検出
トマト	高津区	1	不検出	不検出
なす	宮前区	1	不検出	不検出
のらぼうな	多摩区	1	不検出	不検出
ぶどう	多摩区	1	不検出	不検出
ブルーベリー	麻生区	1	不検出	不検出
ブロッコリー	高津区	1	不検出	不検出
ほうれんそう	高津区	1	不検出	不検出
みかん	麻生区	1	不検出	不検出
らっかせい	麻生区	1	不検出	不検出
柿	麻生区	1	不検出	不検出
玉ネギ	高津区	1	不検出	不検出
大根(根)	宮前区	1	不検出	不検出
大根(葉)	宮前区	1	不検出	不検出
日本なし	麻生区	1	不検出	不検出
	高津区	1	不検出	不検出
	多摩区	2	不検出	不検出
	宮前区	1	不検出	不検出

表6 市内流通食品の放射能検査結果

基準値適応区分	品名	検体件数 (計60件)	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	うどん	1	不検出	不検出
	お粥(レトルト)	1	不検出	不検出
	かんぴょう	1	不検出	不検出
	こんにゃく	1	不検出	不検出
	さつまいものグラッセ	1	不検出	不検出
	さばみそ煮(缶詰)	1	不検出	不検出
	さばみりん干	1	不検出	不検出
	しらす干し	1	不検出	不検出
	しらたき	1	不検出	不検出
	そば粉	1	不検出	不検出
	たくあん漬	1	不検出	不検出
	ところてん	1	不検出	不検出
	トマトケチャップ	1	不検出	不検出
	トマトジュース	1	不検出	不検出
	なめこ	1	不検出	不検出
	なめ茸(びん詰)	1	不検出	不検出
	はちみつ	1	不検出	不検出
	パックご飯	1	不検出	不検出
	ハンバーグ	1	不検出	不検出
	べったら漬	1	不検出	不検出
	ボイルホタテ	1	不検出	不検出
	ほうれんそう	1	不検出	不検出
	めざし	1	不検出	不検出
	もち米	1	不検出	不検出
	ももジュース	1	不検出	不検出
	ヨーグルト	1	不検出	不検出
	りんごジュース	2	不検出	不検出
	りんご缶詰	1	不検出	不検出
	ワイン	1	不検出	不検出
	わかめ	1	不検出	不検出
	飲むヨーグルト	1	不検出	不検出
	鰹のなまり節	1	不検出	不検出
	鶏肉	1	不検出	不検出
焼き菓子	1	不検出	不検出	
生のり	1	不検出	不検出	
切りもち	1	不検出	不検出	
煎餅	1	不検出	不検出	
佃煮	1	不検出	不検出	
豆乳	1	不検出	不検出	
氷菓	1	不検出	不検出	
味噌	1	不検出	不検出	
卵	2	不検出	不検出	
飲料水	ミネラルウォーター	4	不検出	不検出
	煎茶(茶葉)	2	不検出	不検出
	水	3	不検出	不検出
牛乳	牛乳	4	不検出	不検出
乳児用食品	乳児用飲料	3	不検出	不検出

表7 教育委員会・学校給食用食材の放射能検査結果

基準値適応区分	品名	検体件数 (計73件)	放射性セシウム	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	いちごジャム	2	不検出	不検出
	いり大豆	1	不検出	不検出
	ウインナー	2	不検出	不検出
	うずらの卵(水煮)	1	不検出	不検出
	カリフラワー	1	不検出	不検出
	かんぴょう	2	不検出	不検出
	キャベツ	1	不検出	不検出
	コロッケ	1	不検出	不検出
	さんまフィレ	2	不検出	不検出
	しらす干し	2	不検出	不検出
	ゼリー	1	不検出	不検出
	たけのこ(水煮)	1	不検出	不検出
	ちくわ	5	不検出	不検出
	トマトケチャップ	1	不検出	不検出
	なると	2	不検出	不検出
	ニンジン	1	不検出	不検出
	ハンバーグ	1	不検出	不検出
	はんぺん	1	不検出	不検出
	ピーマン	1	不検出	不検出
	ベーコン	1	不検出	不検出
	ほうとう	1	不検出	不検出
	みかんジャム	1	不検出	不検出
	ヨーグルト	1	不検出	不検出
	わかめ	2	不検出	不検出
	茎わかめ	1	不検出	不検出
	鶏肉	1	不検出	不検出
	高野豆腐	1	不検出	不検出
	生クリーム	1	不検出	不検出
	精米	4	不検出	不検出
	大根	1	不検出	不検出
	大豆	1	不検出	不検出
	長ネギ	1	不検出	不検出
	柏餅	1	不検出	不検出
白玉もち	1	不検出	不検出	
白菜	1	不検出	不検出	
米粉	1	不検出	不検出	
揚げボール	1	不検出	不検出	
牛乳	牛乳	22	不検出	不検出

表8 川崎港魚介類(モニタリング)放射能検査結果

品名	検体件数 (計65件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
		Cs-134	Cs-137
アサリ	5	不検出	不検出
カサゴ	3	不検出	不検出
コノシロ	1	不検出	不検出
シマイサキ	1	不検出	1.1
	1	不検出	不検出
スズキ	1	不検出	1.5
	11	不検出	不検出
タナゴ	9	不検出	不検出
ボラ	1	1.6	5.9
	1	不検出	1.5
	8	不検出	不検出
メジナ	7	不検出	不検出
メバル	6	不検出	不検出
黒ダイ	1	不検出	1.3
	9	不検出	不検出

表9 水道水等の放射能検査結果

品名		検体件数 (計112件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
長沢水道水	原水	28	不検出	不検出
	配水	28	不検出	不検出
生田水道水	原水	28	不検出	不検出
	配水	28	不検出	不検出

表10 川崎港付近の海水の放射能検査結果

品名	検体件数 (計26件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
		Cs-134	Cs-137
海水	26	不検出	不検出

3 微生物部門

(1) 消化器・食品細菌担当

腸管系の感染症検査では、感染症法に基づく届出や市内の食中毒の発生により、消化器症状(下痢、腹痛等)を呈した患者や接触者患者から腸管系感染症(赤痢菌、コレラ菌、腸・パラチフス菌、腸管出血性大腸菌 O157 等)の分離・同定を行い、市内における被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防のため、川崎市食品衛生監視指導計画に基づき市内7保健所及び市場食品衛生検査所から搬入された市内流通食品(食肉製品、乳製品、弁当類、惣菜等)について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査(細菌数、大腸菌群、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌O157 等)を実施している。また、食中毒菌汚染実態調査や教育委員会並びに(公財)川崎市学校給食会からの検体についても衛生検査を実施している。

川崎市食品 GLP の対応としては、外部精度管理として一般細菌数測定、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群検査を実施している。

ア 腸内細菌

(7) 感染症細菌検査

感染症法の発生に伴う感染症細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について、241 検体、697 項目の検査を実施した。月別検査件数は、表 1 のとおりである。また、菌種別の検出状況は、表 2 のとおりである。分離または搬入された腸管出血性大腸菌 65 検体についての血清型及び毒素型は、表 3 に示すとおりである。

(4) 食中毒検査

市内の食中毒や有症苦情及び他都市食中毒関連調査の検体が 612 検体搬入された。月別検査件数は、表 4 のとおりで、カンピロバクター・ジェジュニのが最も多く検出された。また、平成 26 年度の市内細菌性食中毒の発生状況は 2 件で表 5 に示すとおり

である。

イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 6 に示すとおりである。平成 26 年度の総検体数は 2,402 検体あり、不適項目(食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準による)は、延 229 件(9.5%)で、食品衛生法成分規格違反は無く、川崎市衛生指導基準による不適件数であった。

不適率の高い検体は生食用鮮魚介類(26.5%)、漬物(25.5%)、弁当類(21.5%)、調理パン(18.8%)、生菓子(18.2%)、豆腐(16.7%)、その他拭取(13.8%)、非加熱そう菜(11.3%)、めん類(10.7%)であった。

表1 感染症検査（月別検査件数）

項目	検体数	検査項目																	計	
		赤痢菌	コレラ菌	チフス菌	パラチフス菌	下痢原性大腸菌	サルモネラ属菌 （チフス・パラチフスを除く）	腸炎ビブリオ（コレラ菌を除く）	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンニシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	その他		
月																				
4月	2	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	17
5月	12	3	2	2	4	5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	10	48
6月	37	3	2	2	5	32	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	67
7月	43	0	0	1	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	43
8月	57	1	1	1	1	56	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	72
9月	25	5	2	2	2	21	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	55
10月	16	1	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
11月	18	16	6	6	6	8	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	0	108
12月	13	11	11	11	11	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	1	178
1月	7	2	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	37
2月	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	0	48
3月	8	6	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
総計	241	52	30	31	36	201	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	17	697

表2 感染症検査における細菌検出状況（菌株含む）

項目	赤痢菌	コレラ菌	チフス菌	パラチフス菌	下痢原性大腸菌 （腸管出血性大腸菌を除く）	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 （チフス・パラチフスを除く）	腸炎ビブリオ （コレラ菌を除く）	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンニシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	その他	計	
																				月
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	12	12
6月	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	13
7月	0	0	1	0	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	13	13
8月	0	0	0	0	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	27	27
9月	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
10月	0	0	0	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	8
11月	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
1月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2
2月	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	3
3月	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
検出件数	1	0	1	0	7	65	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	18	94	94

表3 腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数
O157:H7	VT1&2	33
O157:H7	VT2	10
O157:H-	VT1&2	4
O157:H-	VT2	1
O26:H11	VT1	14
O111:H-	VT1	1
O103:H2	VT1	2
計		65

表4 食中毒検査における月別検査件数及び細菌検出状況（菌株含む）

項目	検体数	検査項目																	計	
		赤痢菌	下痢原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	黄色ブドウ球菌	腸炎ビブリオ(コレラ菌含む)	ウェルシュ菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ (コレラ菌非O1、ビブリオ・ミミカス)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンニシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソブリア	プレシオモナス・シゲロイデス	セレウス菌		
月																				
4月	43	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
5月	7	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6月	76	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
7月	12	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
8月	75	0	18	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
9月	50	0	1	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	13
10月	43	0	0	0	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
11月	76	0	0	0	1	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
12月	93	0	2	0	0	2	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
1月	64	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2月	44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	29	0	1	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
総計	612	0	27	0	1	8	0	2	28	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6	75

表5 市内細菌性食中毒発生事例（平成26年4月～平成27年3月）

No.	発生月日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品 (種別)	病因物質	原因施設	喫食場所
1	26.10.4	11	4	0	その他 (10.2提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	同左
2	26.11.6	3	3	0	その他 (11.4提供の食事)	腸管出血性大腸菌O157	飲食店	同左

(2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・インフルエンザ菌・百日咳菌などの呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

ア 結核関連検査

(ア) 塗抹・培養検査・遺伝子検査

結核登録患者管理者検診、結核患者接触者健診対象者に対して実施した。遺伝子検査としてLAMP法を行った。件数および結果は、表1に示すとおりである。

(イ) IGRA検査

結核患者接触者健診においてT-SPOT・TB検査を実施している。年間の検査件数は856件だった。検査結果は、表2に示すとおり、陽性66件(7.71%)、陽性判定保留30件(3.50%)、陰性判定保留31件(3.62%)、判定不可19件(2.22%)、陰性709件(82.83%)だった。

(ウ) 結核分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、平成25年度より川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR法で遺伝子解析を行っている。

H26年度は菌株53株が搬入され、遺伝子解析を行った。更に、患者の疫学情報とあわせて分析を行い、菌バンクとしてデータを蓄積した。

また、特定の患者同士の突合依頼が10件あり、分析を行った。

イ レジオネラ属菌検査

「レジオネラ症防止指針」に記載されている「ろ過濃縮法」を用い検査を実施した。患者由来の喀痰や環境検体、浴槽水、冷却塔水等の環境水中のレジオネラ属菌の分離培養、また、遺伝子検査としてLAMP法を行った。

レジオネラ属菌検査の総数は331件、LAMP法は46件だった。各検査材料別の件数および血清型は表3に示すとおりである。

ウ 感染症発生動向調査

(ア) 百日咳菌検査

H26年度の検査依頼はなかった。

(イ) A群溶血性レンサ球菌検査

H26年度は5件の搬入があった。

T型別はT1が1件、T4が3件、T12が1件であった。(表4)

エ 感染症細菌検査

髄膜炎菌1株、ヘモフィルス・インフルエンザ菌7株、劇症型溶血性レンサ球菌2株の菌株が搬入され、検査を行った。

髄膜炎菌は *Neisseria meningitidis* 血清群Y。

ヘモフィルス・インフルエンザ菌は7株すべて *Nt Haemophilus influenzae*。

劇症型溶血性レンサ球菌は、*Streptococcus suis* 1株とG群1株だった。

表1 平成26年度結核塗抹・培養検査

	塗抹・培養検査	LAMP法
管理検診	124	1
接触者健診	15	
その他	5	
計	144	1

塗抹陽性(0件)、培養陽性(1件)

表2 T-SPOT・TB検査

依頼件数	陽性	陽性判定保留	陰性判定保留	陰性	判定不可	その他
856	66(7.71%)	30(3.50%)	31(3.62%)	709(82.83%)	19(2.22%)	1(0.12%)

表3 レジオネラ属菌検出状況

		環境					感染症		計
		浴槽水	シャワー水	冷却塔水	採暖槽水・プール	その他	喀痰	患者関連	
L.pneumophila	SG1	1			※1		2	1(冷却塔水)	※5
	SG2	※1							※1
	SG3	※3			※1	※1(足湯)			※5
	SG5	※6				1(足湯)		1(冷却塔水)	※8
	SG6	※6	1			※1(足湯)			※8
	SG8	2							2
	SG10				1				1
	SG11	1			1				2
	SG12	1							1
	計	21	1		4	3	2	2	33
	総検体数	233	7		19	8	5	59	331

※同一検体より複数の血清群が分離されたもの

表4 A群溶血性レンサ球菌 T型別

区分	T型別			計
	T1	T4	T12	
件数	1	3	1	5

(3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく感染症発生動向調査事業ならびに感染症対策における積極的疫学調査等により採取された検体のウイルス、リケッチア及びクラミジア検査、「食品衛生法」に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルス検査及び衛生動物検査を行っている。

ア 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検査

市内定点医療機関においてインフルエンザ、咽頭結膜熱、手足口病、無菌性髄膜炎、感染性胃腸炎並びに脳炎・脳症等と診断された患者から採取された 255 検体について、細胞によるウイルス分離培養、PCR等で検査を行ったところ 198 件からウイルスが検出された。その月別検出状況を表 1、疾患別検出状況を表 2 に示した。

イ 感染症対策におけるウイルス検査

(ア) 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

小学校の集団かぜ初発患者から鼻腔ぬぐい液を採取し、PCR及びウイルス分離培養にて検査を行った。その結果、7 集団でインフルエンザウイルス AH3 が検出された(表 3)。

(イ) 発熱発疹性ウイルス検査

麻しんウイルス疑い症例における病原ウイルス検索のため、患者 20 名の検体について RT-PCR+シーケンス法を行った。その結果、麻しんウイルス D8 が 3 例、D9 が 2 例が検出された(表 4)。

(ロ) デングウイルス検査

海外渡航歴のあるデングウイルス感染疑いの患者 10 名ならびに国内感染疑いの患者 5 名について RT-PCR 法ならびにリアルタイム PCR 法による検査を行ったところ、デングウイルス 1 型・2 型・3 型が各 1 例ずつ検出された(表 5)。

(ハ) リケッチア・クラミジア検査

ツツガムシ病、日本紅斑熱ならびにオウム病が疑われる患者について検査を行ったところ、1 名から日本紅斑熱群リケッチアが検出された。(表 6)

ウ ライトトラップによる蚊の捕獲と蚊媒介ウイルス検査

市内 7 箇所 8 地点の保健所等でライトトラッ

プを設置し、平成 26 年 6 月から 9 月まで蚊を毎週 1 回捕集した。種別した雌蚊 117 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルスは検出されなかった(表 7)。

エ 食中毒等起因ウイルスならびに食品等のウイルス検査

食中毒等で搬入された 354 検体についてリアルタイム PCR ならびに RT-PCR を行ったところ、ノロウイルス 182 件(G I が 17 件、G II が 165 件)、サポウイルス 7 件ならびにアデノウイルス 41 型 2 件が検出された(表 8)。また、食中毒に伴う食品検査ならびに市内に流通している食品(生かき)等 236 検体について検査を行ったところ、2 件からノロウイルス G II が検出された(表 9)。

表1 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況（月別）

発症年月	26.4	5	6	7	8	9	10	11	12	27.1	2	3	合計
検査件数	14	18	16	11	5	14	4	10	60	64	21	18	255
分離数	6	5	6	7	4	10	2	10	59	54	19	16	198
インフルエンザウイルス AH1pdm09									1		1		2
インフルエンザウイルス AH3			1			2	1	8	55	46	13	2	128
インフルエンザウイルス AH3+B									2				2
インフルエンザウイルス B 山形系統	2					1			1	5	2	9	20
インフルエンザウイルス B 系統不明											1		1
アデノウイルス 2型			1										1
アデノウイルス 3型						2							2
アデノウイルス 4型		2				1							3
アデノウイルス 37 型	1												1
アデノウイルス 41 型					1								1
アデノウイルス 56 型						1							1
コクサッキーウイルス A4型			1	2	3								6
コクサッキーウイルス A5型				1									1
コクサッキーウイルス A6型				1									1
コクサッキーウイルス A16 型				1									1
コクサッキーウイルス B5型								1					1
エコーウイルス 6 型						1	1						2
エコーウイルス 11 型						1		1					2
エンテロウイルス 71 型		1	1	1									3
サイトメガロウイルス	1												1
EB ウイルス			1										1
ヘルペスウイルス 6型	1												1
ヘルペスウイルス 7型	1	1							2				4
ムンプスウイルス		1											1
パルボウイルス B19				1									1
ロタウイルス G1P[8]											1	2	3
ロタウイルス G2P[4]												2	2
ロタウイルス G9P[8]											1	1	2
ノロウイルス GⅡ.3						1				1			2
ノロウイルス GⅠ.2+GⅡ.13			1										1

表2 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検出状況（疾患名別）

	インフルエンザ	咽頭結膜熱	流行性角結膜熱	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	流行性耳下腺炎	感染性胃腸炎	合計
検出数	153	3	4	7	6	9	4	1	11	198
インフルエンザウイルス AH1pdm09	2									2
インフルエンザウイルス AH3	128									128
インフルエンザウイルス AH3+B	2									2
インフルエンザウイルス B 山形系統	20									20
インフルエンザウイルス B 系統不明	1									1
アデノウイルス 2型				1						1
アデノウイルス 3型		2								2
アデノウイルス 4型		1	2							3
アデノウイルス 37 型			1							1
アデノウイルス 41 型								1		1
アデノウイルス 56 型			1							1
コクサッキーウイルス A4型					6					6
コクサッキーウイルス A5型				1						1
コクサッキーウイルス A6型				1						1
コクサッキーウイルス A16 型				1						1
コクサッキーウイルス B5型						1				1
エコーウイルス 6型						2				2
エコーウイルス 18 型						2				2
エンテロウイルス 71 型				3						3
サイトメガロウイルス						1				1
EBウイルス							1			1
ヘルペスウイルス 6型						1				1
ヘルペスウイルス 7型						2	2			4
ムンプスウイルス								1		1
パルボウイルス B19							1			1
ロタウイルス G1P[8]									3	3
ロタウイルス G2P[4]									2	2
ロタウイルス G9P[8]									2	2
ノロウイルス GⅡ.3									2	2
ノロウイルス GⅠ.2+GⅡ.13									1	1

表3 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検査				ウイルス型
			AH1pdm09	A 香港型	B 型山形系統	B 型ビクトリア系 統	
H26.11.11	川崎区小学校	2	0/2	2/2	0/2	0/2	AH3
H26.11.21	中原区小学校	5	0/5	4/5	0/5	0/5	AH3
H26.11.27	高津区小学校	3	0/3	2/3	0/3	0/3	AH3
H26.11.27	麻生区小学校	3	0/3	2/3	0/3	0/3	AH3
H26.11.28	宮前区小学校	3	0/3	3/3	0/3	0/3	AH3
H26.12.3	幸区小学校	5	0/5	5/5	0/5	0/5	AH3
H26.12.17	多摩区小学校	1	0/1	1/1	0/1	0/1	AH3

表4 発熱発疹性ウイルス検査状況

発症年月	26.4	5	6	7	8	9	10	11	12	27.1	2	3	合計
検査件数	4	3	5	3	1	1	1	0	0	1	1	0	20
麻疹ウイルス B3型													
麻疹ウイルス D8型		2	1										3
麻疹ウイルス D9型	2												2
風疹ウイルス1E 型													
風疹ウイルス2B 型													

表5 デングウイルス検査

発症年月	26.4	5	6	7	8	9	10	11	12	27.1	2	3	合計
検査件数	1	0	1	1	3	6	0	0	0	0	1	2	15
デングウイルス 1 型	1												1
デングウイルス 2 型						1							1
デングウイルス 3 型					1								1
デングウイルス 4 型													0

表6 リケッチア・クラミジア検査

発症年月	26.4	5	6	7	8	9	10	11	12	27.1	2	3	合計
検査件数	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	4
ツツガムシ群リケッチア													0
日本紅斑熱群リケッチア				1									1
オウム病クラミジア													0

表7 ライトトラップにおけるウエストナイルウイルス、デングウイルスならびにチクングニアウイルスの検査数と蚊の種別補修数

平成 26 年採取月	6 月	7 月	8 月	9 月	総計
川崎保健所	4	4	1	5	14
幸保健所	5	5	3	3	16
中原保健所	3	5	2	3	13
高津保健所	7	4	5	10	26
宮前保健所	7	4	8	5	24
多摩保健所	1	3	2	1	7
麻生保健所	6	4	4	3	17
合計	33	29	25	30	117

蚊の種類	6 月	7 月	8 月	9 月	総計
アカイエカ群	72	71	32	17	192
ヒトスジシマカ	37	126	532	752	1447
ヤマトヤブカ	0	0	0	2	2
キンパラナガハシカ	0	0	0	2	2
総計	109	197	564	773	1643
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

表 8 食中毒起因ウイルス検査

年月	便検査 数	ノロウイルス		その他のウイルス
		G1	G2	
26.4	17	0	4	サボウイルス 4
5	19	0	6	アデノウイルス 41 型 2
6	30	0	23	
7	4	0	0	
8	47	0	29	
9	16	0	3	
10	13	1*	1*	
11	21	0	4	
12	78	0	50	サボウイルス 3(1 件は ノロウイルス陽性の同一 患者より検出)
27.1	62	9**	21**	
2	23	5	8	
3	24	2***	16***	
合計	354	17	165	

*同一患者より検出

** 3件は同一患者より検出

***2件は同一患者より検出

表 9 食品等からのノロウイルス検査

年月	検査数	ノロウイルス	
		G1	G2
26.4	0	0	0
5	12	0	0
6	13	0	1
7	0	0	0
8	27	0	0
9	20	0	0
10	0	0	0
11	42	0	0
12	46	0	1
27.1	39	0	0
2	24	0	0
3	13	0	0
合計	236	0	2

【第3章 試験検査】

1 月別検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
結核	分離・同定・検査・検出	12	12	15	12	5	10	9	16	15	13	12	8	139		
	核酸検査	11	9	9	11	9	12	9	10	10	10	12	11	123		
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
ウイルス・リケッチア等検査	分離・同定・検出	ウイルス	28	28	64	55	41	58	8	27	71	67	23	25	495	
		リケッチア	0	0	0	4	6	2	0	0	0	0	0	0	12	
		クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	抗体検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		クラミジア・トラコマテイス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
病原性微生物の動物試験	原虫	細菌	14	7	50	8	41	20	17	52	59	38	20	16	342	
		ウイルス	28	105	34	8	47	16	13	21	79	64	24	25	464	
	核酸検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	臨床検査	血液等検査	エイズ(HIV)検査	1	1	0	1	1	1	1	0	2	0	0	0	8
			HBs抗原・抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他HCV	33	80	47	124	67	40	50	94	70	111	61	70	847
		生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
尿検査		尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
食品等検査	微生物学的検査	172	213	349	243	381	341	270	288	305	142	224	77	3,005	
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物)	58	28	43	60	24	65	48	96	122	58	143	27	772	
	動物を用いる試験	2	1	1	1	1	0	0	0	2	2	0	0	11	
	その他(ウイルスも含む)	5	8	0	6	16	0	8	6	8	8	0	0	65	
	分離・同定・検出	2	10	38	48	60	31	20	33	11	15	7	9	284	
(上記以外) 細菌検査	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	医療用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	毒劇物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	家庭用品	0	21	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	48	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	15	
栄養関係検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	飲用水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		理化学的検査	35	2	60	15	32	10	35	10	2	0	0	10	114
	利用水等 (プール水等含む)	細菌学的検査	22	17	66	202	80	67	38	24	41	12	43	14	626
		理化学的検査	0	4	28	112	33	25	14	7	9	3	15	7	257
	廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		産業廃棄物	生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理化学的検査			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

環境・公害関係検査		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
放射能	大気検査	SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		有害化学物質・重金属等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		水質検査	公共用水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			工場・事業場排水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		騒音・振動	騒音	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			振動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	一般室内環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
温泉(鉱泉)泉質検査	環境試料(雨水・空気・土壌等)	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2		
	食品	30	37	39	33	36	34	21	24	22	22	21	22		
花粉	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
結核	分離・同定・検出	0	139	0	0	0	139		0	
	核酸検査	0	14	0	0	109	123		0	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0	
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1.STS 定性	0	
								2.STS 定量	0	
								3.TPHA 定性	0	
								4.TOHA 定量	0	
								5.梅毒(ELISA)	0	
							6.その他	0		
	その他	0	0	0	0	0	0		(0)	
ウイルス・リケッチア等検査	分離・同定・検出	ウイルス	0	495	0	0	0	495		(787)
									1.細胞培養	292
									2.鶏卵培養	0
									3.酵素抗体	0
									4.蛍光抗体	0
									5.遺伝子増幅	495
									6.その他	0
		リケッチア	0	12	0	0	0	12		(12)
								1.細胞培養	0	
								2.鶏卵培養	0	
								3.酵素抗体	0	
								4.蛍光抗体	0	
								5.遺伝子増幅	12	
		クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0		(0)
								1.細胞培養	0	
								2.鶏卵培養	0	
								3.酵素抗体	0	
								4.蛍光抗体	0	
	抗体検査	ウイルス	0	0	0	0	0	0		(0)
								1.中和試験	0	
								2.HI試験	0	
								3.CP試験	0	
								4.酵素抗体	0	
								5.ウイル. フェリックス反応	0	
						6.その他	0			
	リケッチア	0	0	0	0	0	0		0	
	クラミジア・トラコマトリス	0	0	0	0	0	0		(0)	
							1.性器クラミジア抗体IgA	0		
							IgG	0		
	病原微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0		0	

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
原虫・寄生虫	原虫	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1.アメーバー赤痢	0	
								2.その他	0	
	寄生虫	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1.蟯虫	0	
								2.その他2	0	
	そ族・節足動物	0	0	0	0	0	0		(0)	
								1.害虫動物	0	
								2.殺虫効力試験	0	
								3.生態習性試験	0	
						4.その他	0			
真菌・その他	0	0	0	0	0	0		0		
食中毒	病原微生物検査	細菌	0	342	0	0	0	342	(6767)	
									1.食中毒病原菌14菌種	6,741
									2.腸管出血大腸菌O157	15
								3.その他の細菌	11	
	ウイルス(SRSV)(A型肝炎)	0	464	0	0	0	0	464	(464)	
								1.SRSV電子顕微鏡	0	
								2.NV遺伝子増幅	464	
							3.その他の細菌	0		
	核酸検査	0	0	0	0	0	0		0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0		0	
その他	0	0	0	0	0	0		0		
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0		0	
	エイズ(HIV)検査	0	8	0	0	0	0	8	(8)	
								1.PA法	0	
								2.確認試験(W,B)	8	
									(0)	
								1.HBs抗原	0	
								2.HBs抗体	0	
								3.HBe抗原	0	
							4.HBe抗体	0		
							5.IgMHBc抗体	0		
							6.その他	0		
	その他	0	847	0	0	0	0	847	(111)	
								1.HCV抗体	0	
								2.QFT	0	
								3.その他	111	
	生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	
その他		0	0	0	0	0	0	0		
尿検査	尿一般	0	0	0	0	0	0	0		
	神経芽細胞種	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0		
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0		

	依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
	住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
食品等検査	微生物学的検査	0	2,460	485	55	5	3,005	(18,516)	
	食品細菌	0	1,932	485	55	5	2,477	(12,610)	
								1.生菌数	2,299
								2.大腸菌数	2,288
								3.その他の細菌	8,023
	食中毒細菌(食品・ふき取り等)	0	292	0	0	0	292	(5,670)	
								1.食中毒病原菌14菌種	5,656
								2.腸管出血大腸菌O157	0
								3.その他の細菌	14
	食中毒ウイルス(食品等)	0	236	0	0	0	236	(236)	
								1.電子顕微鏡	0
								2.遺伝子増幅	236
								3.その他	0
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	102	215	19	436	772	(29,671)	
	食品添加物	0	81	196	19	284	580	(4,027)	
1.食品添加物								715	
2.動物用医薬品								2,997	
3.遺伝子組換え食品								36	
4.その他								279	
残留農薬	0	21	19	0	152	192	(25,644)		
							1.残留農薬	25,644	
							2.金属類	0	
							3.その他	0	
動物を用いる試験	0	0	11	0	0	11	20		
その他	0	24	5	0	36	65	(591)		
							1.金属類	517	
							2.炭化水素等	0	
							3.その他	74	
(上記以外)細菌検査	分離・同定・検出	0	282	0	2	0	284	(695)	
								1.赤痢菌	35
								2.サルモネラ(腸・バラ含む)	30
								3.病原大腸菌	156
								4.腸炎ビブリオ	21
								5.コレラ菌	24
								6.病原ブドウ球菌	13
								7.カンピロバクター・ジェジュ/コリー	43
								8.腸管出血大腸菌O157	140
								9.その他の腸管病原菌	187
								10.レンサ球菌	32
								11.その他の細菌	14
	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	
抗体検査	0	0	0	0	0	0	0		
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0		

	依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)		
	住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)						
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0	0	0		
	医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0		
	化粧品	0	0	0	0	0	0	0		
	医療用具	0	0	0	0	0	0	0		
	毒劇物	0	0	0	0	0	0	0		
	家庭用品	0	0	48	0	0	48	(50)		
								1.ホルムアルデヒド 44		
								2.有機水銀化合物 0		
								3.トルフェニル錫化合物 0		
								4.トリブチル錫化合物 0		
							5.酸/アルカリ定量 0			
							6.容器試験 0			
							7.テトクロロエチレン 2			
							8.トリクロロエチレン 2			
							9.メタノール 2			
							10.蛍光 0			
							11.その他 0			
その他	0	0	15	0	0	15	1.健康食品等 120			
栄養関係検査	0	0	0	0	0	0	1.成分検査 0			
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0		
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0		
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0		
	飲用水	細菌学的検査		0	114	0	0	114	(220)	
									1.一般細菌数 106	
									2.大腸菌等 106	
								3.その他 8		
		理化学的検査		0	106	0	0	127	233	(1,212)
										1.井戸水 980
										2.貯水槽水 82
									3.船舶水 0	
								4.簡易水道水 0		
								5.専用水道水 0		
							6.水道直結栓水 0			
							7.その他 150			
(プール水等を含む)	細菌学的検査		0	626	0	0	626	(883)		
									1.一般細菌数 257	
									2.大腸菌群 257	
								3.その他 369		
	理化学的検査		0	257	0	0	257	(514)		
								1.プール水 146		
							2.その他 368			

		依頼によるもの				依頼によ らないも の(5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以 外の行政 機関(3)	その他 (医療機 関、学 校、事務 所)(4)					
廃棄物 関係 検査	一般 廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0		0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0		0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0		0	
	産業 廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0		0	
		理化学的検査	0	0	0	0	0	1.汚泥	0	
		生物学的検査	0	0	0	0	0		0	
環境・ 公害 関係	大気 汚染	SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0		0	
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0		0	
		降下煤塵	0	0	0	0	0		0	
		有害化学物質・重金属	0	0	0	0	0		0	
		酸性雨	0	0	0	0	0		0	
		その他	0	0	0	0	0		0	
	水道 検査	公共用水		0	0	0	0		(0)	
			1.河海水底質							0
			2.その他							0
		工場・事業場排水		0	0	0	0	0		(0)
			1.工場・事業場排水							0
			2.その他							0
			浄化槽放流水	0	0	0	0	0		0
		その他		0	0	0	0	0		(0)
			1.一般細菌数							0
			2.大腸菌群							0
		3.その他							0	
	騒音・振動	0	0	0	0	0	0		0	
	土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0		0	
	環境 生物 検査	藻類・プランクトン・魚 介類	0	0	0	0	0		0	
		その他	0	0	0	0	0		0	
	一般室内環境	0	0	0	0	0	0	1.落下細菌	0	
	その他	0	0	0	0	0	0		0	
放射 能	環境試料(雨水・空気・土壌等)		0	0	26	0	0	26	(52)	
		1.セシウム134							26	
		2.セシウム137							26	
		3.ヨウ素131							0	
	食品		0	0	341	0	0	341	(682)	
		1.セシウム134							341	
		2.セシウム137							341	
		3.ヨウ素131							0	
	その他		0	0	0	0	0	0	(0)	
		1.セシウム134							0	
2.セシウム137								0		
	3.ヨウ素131							0		
温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0		0		
その他	0	0	0	0	0	0		0		
計		0	6,292	1,146	76	713	8,227	61,375		

3 食品別検査項目内訳

(1) 食品別検査項目内訳 (理化学検査)

区分	項目	総検体数	総項目数	着色料	保存料	発色剤	漂白剤	甘味料	強化剤	殺菌料	酸化防止剤	品質保持剤	防かび剤	酸味料	その他の添加物	不許可添加物	水分活性	品質検査	シアン化合物	アイトキシン	魚介毒	塩分濃度	酸価過酸化物価	動物用医薬品	規格試験	食品成分	P C B	残留農薬	放射能	重金属	遺伝子組換え食品検査	特定原材料検査	その他	
																																		ねり製品
魚介類		92	341				6														20		140			3		136	24		12			
加工品	ねり製品	21	42	4	16			4										4										16			2			
	その他	22	54	1	6	1					16																	26						
食肉及びその加工品	食肉	13	213																				209					4						
	食肉製品	31	63	8	19	25										1												10						
卵及びその加工品		19	131																				125					6						
穀類及びその加工品		59	91		6		2					17						5	7								26	18		10				
野菜果実類	漬物	40	109	11	23			6			1					6		58									4							
及びその加工品	野菜果実・その他	127	2,211	6	15		4	2					22		4												100				32			
豆類及びその加工品		16	30	4															2								12	12						
乳及びその加工品	乳類	32	85															12					5				52				4			
	乳製品	14	28		9										1												8							
調味料		14	63	3	42			9			4				5									10										
菓子類		28	68	5	8			8							12												12	6	17					
清涼飲料水		38	145	7	12		1	4							7					3				26			30	49			6			
酒精飲料		8	31	4	10		3	4							6												4							
油脂類		2	4															4																
びん詰・缶詰食品		14	64	8	15			11			11				9													10						
健康食品		2	4																															
その他の食品		6	11	1							2				4										2			2						
食品添加物																																		
器具及び容器包装																																		
おもちゃ		7	7																						7									
その他		4	13																														13	
合計		609	3,808	62	181	26	16	48			34	17	22		55		83	2	10	20			479	57	4	3	2,026	458	73	36	17	79		

(2) 食品別検査項目内訳 (食品細菌検査)

区分	項目	検 体 数	一 般 細 菌 数	大 腸 菌 群	黄 色 ア ド ウ 球 菌	サ ル モ ネ ラ	セ レ ウ ス 菌	ク エ ル シ ユ 菌	E H E C 0 1 5 7	E H E C	大 腸 菌	E ・ c o l i i	E ・ c o l i i (M P N)	腸 炎 バ ク テ リ ア	腸 炎 バ ク テ リ ア (M P N)	真 菌 類	カ ン ジ ダ バ ク タ イ	N A G バ ク テ リ ア	コ レ ラ 菌	赤 痢 菌	そ の 他 の 食 中 毒 菌	リ ス テ リ ア 菌	ボ ツ リ ア ス 菌	緑 膿 菌	腸 球 菌	ク ロ ス ト リ ジ ウ ム 属 菌	そ の 他	総 数		
魚介類及び その加工品	生食用生かき	5	5	2																										19
	生食用鮮魚介類	34	34	34	34	15			12				34			5					1									197
その加工品	魚肉おび製品	8	8	8	6	2			8			6		4		33					1									42
	その他	51	43	43	41	15			18	10			25		49				8	8	8								275	
食肉及び その加工品	食肉	89	49	49	15	86			84	80	3	18	18	2				25											428	
	生食用食肉																												0	
卵及び その加工品	食肉製品	25	16	17	22	24			17	10			21																139	
	卵	9	2	2					7																				20	
乳及び その加工品	卵加工品																												0	
	乳	15	15	15																									30	
穀類・豆類 及び その加工品	乳製品	10	6	7	4	2			9	2		4																	38	
	乳類加工品	28	28	28	28	8			8			19																	141	
野菜・果物及び その加工品	めん類	36	36	36	36	36			26	6		24																	231	
	豆類	4	2	2	2	2			2			2																	12	
弁当類	その他	51	36	36	26	22			48	28	11	37	20	17		20													302	
	漬物	107	28	28	15	32			50	74	62	20		0															310	
そうざり類	野菜・果物・その他	130	130	130	130	127			89	43	1	106		12				1	1	1									820	
	弁当類	48	48	48	48	48			25	18		48		23															305	
調味料(みそ・しょうゆ等)	調理パン	382	382	382	381	381			179	96	18	372		26				19	19	19									2,522	
	非加熱そう菜	353	353	353	317	350			184	98	21	275		26				24	22	22	22								2,254	
菓子類	加熱そう菜	4	4	3	1	1			1			1																	14	
	生菓子	143	143	143	143	143			52	10		130																	809	
清涼飲料水・粉末清涼飲料	菓子	11	7	7	7	11			1			6																	45	
	菓子	8	7	8	7	11			1	1		6																	21	
冷凍食品	清涼飲料水・粉末清涼飲料	12	11	6		8			8			8		1					1	1									46	
	氷菓	1	1	1	1	1			1	2		1																	8	
その他の食品	タブレット	4																											8	
	その他	27	17	15	4	11			11			1																	76	
ふきとり	器具拭取	514	514	513	505	85						112		15															1,860	
	手指拭取	206	206	205	206	9						46		8															700	
ふきん・おしぼり	その他	87	87	86	86	29						7		9															334	
	その他																												0	
総数		2,402	2,218	2,207	2,058	1,457	683	50	847	478	116	1,323	5	166	38	22	69	51	51	53	42	32	7	2	2	9	20	12,006		

4 水質別検査項目内訳

区分	項目	検体数	総項目数	外観・濁度・色度・臭味	PH	窒素化合物	有機物	硬度	陽イオン類	陰イオン類	蒸発残留物	残留塩素	溶存酸素	COD	BOD	浮遊物質	陰イオン倍性剤	重金属可溶性物質	その他の理化試験	一般細菌数	大腸菌又は大腸菌群	その他の細菌学的試験	放射能						
																								浄水	水道水	貯水槽水(細)	その他(ミネラルウォーター)	貯水槽水(理)	その他(ミネラルウォーター)
飲料水検査	水道水	浄水	7	14																	7	7							
				0																									
				82	27									5															
				0																									
				28	56																								
				28	56																								
				106	206																			99	99				
				0																									
				99	984	298		99	179	99	98	101	101										9						
				0																									
利用水関係検査	中水道水(細)	その他		0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
下水関係検査	下水(細)	その他		0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
清掃関係検査	し尿	浄化放流水(細)		0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
公害・一般環境検査	河川汚濁	河川水底質		0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
温泉(鉱泉)	その他	その他(浄水発生土)		0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
				0																									
計	計	計	987	2,821	582	106	193	106	105	109	108	0	5	0	0	0	0	0	0	0	266	363	363	377	138				

【第4章 調査研究】

1 平成26年度調査研究課題一覧

平成26年度に当研究所で実施した調査研究課題を次に示す。

平成26年度調査研究課題一覧

研究課題名	担当	研究の種類
食品中の食品添加物分析法の設定(防かび剤の一斉分析法)	食品	受託研究
カビ毒の実態調査等に関する研究(継続)	食品	共同研究
準特定原材料「大豆」加工食品の加工・調理によるアレルゲンタンパク質量変化の解析について	食品	共同研究
食品防御の具体的な対策の確立と実行検証に関する研究 ー食品防御のサーベイランスおよび化学物質危害に対するセキュリティ強化ー	食品	共同研究
おもちゃ中フタル酸エステル類の精製方法の検討	水質・環境	経常研究
家庭用品検査における新たな有機スズ化合物検査法の検討	水質・環境	経常研究
環境水中ウイルスの検出方法について	水質・環境	共同研究
QuEChERS法を応用した食品中の残留農薬検査法の検討	残留農薬・放射能	経常研究
血液・尿等の生体試料からの農薬検出法の検討	残留農薬・放射能	経常研究
川崎市で分離される腸管病原性大腸菌及び腸管凝集性大腸菌の病原性の検討	消化器・食品細菌	経常研究
IS-printing systemのマイクロチップ電気泳動装置(MultiNA)への応用 (厚生労働科学研究 砂川班 広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究)	消化器・食品細菌	共同研究
腸管出血性大腸菌の分子疫学解析法の検討	消化器・食品細菌	経常研究
川崎市内で分離した腸管出血性大腸菌、サルモネラ属菌、赤痢菌の薬剤感受性について	消化器・食品細菌	経常研究
川崎市内で分離されたカンピロバクターの薬剤耐性について	消化器・食品細菌	経常研究
電流検出型DNAチップを用いた食中毒原因菌の簡易自動検査技術の開発	消化器・食品細菌	共同研究
コリネバクテリウムに関する研究 (厚生労働科学研究 森川班 動物由来感染症の対応に関する研究)	消化器・食品細菌	共同研究
公衆浴場浴槽水におけるレジオネラ属菌の遺伝子検査法の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
レジオネラ属菌における分子疫学解析法の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
結核菌のVNTR法を用いた分子疫学解析と疫学情報との関連性及び地図情報システムを活用した地域的集積の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
優れた導入効率もしくは独創的機能を持つ新規ウイルスベクターの作出とその応用	ウイルス・衛生動物	共同研究
感染症が疑われる患者検体を用いた感染症迅速診断キットに関する検討	ウイルス・衛生動物	受託研究
インフルエンザウイルス抗原検出試薬の検討に関する検討	ウイルス・衛生動物	受託研究
感染性胃腸炎を引き起こす新型アデノウイルス65型ならびに67型候補株の体内における感染機構の解明	ウイルス・衛生動物	経常研究
哺乳類におけるアストロウイルスの進化系統樹解析	ウイルス・衛生動物	共同研究

研究課題名	検査担当	研究の種類
マーモセットにおける下痢症ウイルスの遺伝子学的解析	ウイルス・衛生動物	共同研究
感染性胃腸炎患者から検出されるロタウイルスのバイオインフォマティクス解析	ウイルス・衛生動物	経常研究
出血性膀胱炎を引き起こすアデノウイルス11型ならびに34型組換え株の遺伝子学的解析	ウイルス・衛生動物	共同研究
下痢症ウイルス流行の分子疫学(先駆的分子疫学解析法の導入・普及)	ウイルス・衛生動物	共同研究
「麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究(厚生労働科学研究 竹田班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
ナノバイオマテリアル技術を利用した新興・再興感染症の超高速・高感度検出法の開発	ウイルス・衛生動物	共同研究
「迅速・網羅的病原体ゲノム解析法を基礎とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究(厚生労働科学研究 黒田班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究	感染症情報センター	共同研究
川崎市における感染症拡大傾向の数理モデル構築に関する研究	感染症情報センター	共同研究
川崎市におけるワクチン予防可能疾患に対するワクチン接種率に関する研究	感染症情報センター	経常研究
保健所等における肝炎ウイルス検査に疫学情報を活用するための研究	感染症情報センター	共同研究
パンデミックにおける感染予防対策－急性脳炎脳症に関する研究－	感染症情報センター	共同研究
科学的根拠に基づく病原体サーベイランス手法の標準化に関する緊急研究	感染症情報センター	共同研究
新型インフルエンザ等発生時における予防接種の円滑な実施に関する研究	所長	共同研究
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に関する研究	所長	共同研究
ワクチンにより予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究	所長	共同研究
データベースを用いたVPD(ワクチンで予防可能疾患)の小児における入院サーベイランスに関するパイロット研究	所長	共同研究
		計 41課題

※研究の種類について

研究の種類	内容	課題数
経常研究	職員の通常業務上からの発想に基づく研究	11
共同研究	国、地方公共団体、大学及び民間企業等と研究内容を分担し、共同で実施する研究	27
受託研究	他の機関から委託を受けて行う研究	3
	合計	41

2 調査研究報告等実績一覧

平成26年度の調査研究成果の報告実績を次に示す。

(1) 平成26年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:当研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H26.5.29 ~31	川崎市における急性脳炎・脳症の届出状況	第56回日本小児神経学会総会	アクシティ浜松	○三崎貴子, 岡部信彦
H26.6.14 ~15	川崎市におけるフィリピン渡航者からの麻疹ウイルス遺伝子型B3の検出	第55回日本臨床ウイルス学会学術講演会	ロイトン札幌	○三崎貴子, 丸山 絢, 清水英明, 岡部信彦
H26.6.18 ~20	川崎市における肝炎ウイルス検査の実施状況	第88回日本感染症学会学術講演会	ヒルトン福岡シーホーク	○三崎貴子, 丸山 絢, 岩瀬耕一, 岡部信彦
H26.6.18 ~19	遺伝子を指標として分離されるEPEC及びEAaggECの病原性等についての検討	第88回日本感染症学会総会・学術講演会	ヒルトン福岡シーホーク	○窪村亜希子, 小嶋由香, 佐藤弘康, 湯澤栄子, 岩瀬耕一, 岡部信彦
H26.6.30	市立看護短期大学の学生を対象とした予防接種歴・罹患歴に関するアンケート調査	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子
H26.6.30	特定原材料管理における清掃用具(ふきん)についての一考察	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○赤星千絵, 大澤伸彦, 牛山温子, 有賀史子, 橋口成喜, 岩瀬耕一
H26.6.30	遺伝子組換えコムギ検査法の妥当性確認について	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○大澤伸彦, 牛山温子, 赤星千絵, 有賀史子, 橋口成喜, 岩瀬耕一
H26.6.30	清涼飲料水中重金属の一斉分析法	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○平野有美, 成川絢子, 原田恰, 石丸陽子, 岩瀬耕一
H26.6.30	ヘッドスペース-ガスクロマトグラフ質量分析計による無機クロロミンの分析法の検討	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○原田恰, 平野有美, 石丸陽子, 岩瀬耕一
H26.6.30	食品中の残留農薬検査に係る妥当性評価の取り組みについて	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○岸 美紀, 江崎康司, 荒木啓佑, 田中佑典, 油田卓土, 岩瀬耕一
H26.6.30	冷凍食品への農薬混入事例への検査対応について	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○油田卓土, 田中佑典, 江崎康司, 荒木啓佑, 岸 美紀, 岩瀬耕一
H26.6.30	放射性セシウム検査における食品の性質と検出限界について	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○荒木啓佑, 江崎康司, 田中佑典, 油田卓土, 岸 美紀, 岩瀬耕一
H26.6.30	腸管出血性大腸菌O157分子疫学解析法の検討	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○佐藤弘康, 小河内麻衣, 窪村亜希子, 湯澤栄子, 本間幸子, 松尾千秋, 岡部信彦, 小嶋由香
H26.6.30	市内で発生した腸管出血性大腸菌O157による食中毒事例について	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○湯澤栄子, 佐藤弘康, 小河内麻衣, 窪村亜希子, 本間幸子, 松尾千秋, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦, 小嶋由香, 池田智宏, 雨宮文明, 川辺千織
H26.6.30	結核における分子疫学解析法であるVNTR法の検討	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	○宮下安子, 淀谷雄亮, 飯高順子, 松尾千秋
H26.9.25	川崎市におけるオウム病クラミジア(Chlamydochila psittaci)の集団感染について	第29回関東甲信静支部ウイルス研究部会	ホテルメトロポリタン長野	○松島勇紀, 清水智美, 駒根綾子, 石川真理子, 清水英明, 飯高順子, 淀谷雄亮, 宮下安子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 松尾千秋, 三崎貴子, 岡部信彦

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H26.9.27	社会福祉施設におけるオウム病の集団発生	第32回日本クラミジア研究会	メルパルク京都	○三崎貴子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 中島 闔子, 石川真理子, 松島勇紀, 駒根綾子, 清水英明, 淀谷雄亮, 松尾千秋, 岩瀬耕一, 岡部信彦 他
H26.10.18 ~19	川崎市感染症情報発信システムの構築と運用	第46回日本小児感染症学会総会・学術集会	京王プラザホテル	○三崎貴子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 岡部信彦
H27.10.18	川崎市における侵襲性肺炎球菌感染症の発生状況について	第46回日本小児感染症学会総会・学術集会	京王プラザホテル	○淀谷雄亮, 飯高順子, 宮下安子, 松尾千秋, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦, 常 彬
H26.10.31	食品のアレルギーマーク表示を推奨されている「大豆」の検査について	第60回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	○赤星千絵, 大澤伸彦, 橋口成喜
H26.10.31	放射性セシウム検査における食品の性質と検出限界について	第60回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	○荒木啓佑, 江崎康司, 田中佑典, 油田卓土, 岸 美紀, 岩瀬耕一
H26.10.31	小児から分離された腸管病原性大腸菌及び腸管凝集性大腸菌の病原性等における一考察	第60回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	○窪村亜希子, 佐藤弘康, 小河内麻衣, 湯澤栄子, 本間幸子, 松尾千秋, 岡部信彦
H27.10.31	川崎市におけるIGRA検査について	第60回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	○飯高順子, 淀谷雄亮, 宮下安子, 松尾千秋, 岡部信彦
H26.11.8	社会福祉施設におけるオウム病の集団発生	第14回人と動物の共通感染症研究会学術集会	国立感染症研究所	○三崎貴子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 中島 闔子, 石川真理子, 松島勇紀, 駒根綾子, 清水英明, 淀谷雄亮, 松尾千秋, 岩瀬耕一, 岡部信彦 他
H26.12.4 ~5	日本に流通する食品中のT-2トキシン、HT-2トキシンおよびゼアラレノン汚染実態調査(平成25年度)	第108回日本食品衛生学会学術講演会	金沢歌劇座	○竹内浩, 吉成知也, 谷口賢, 中島正博, 橋口成喜, 甲斐茂美, 田端節子, 田中敏嗣, 佐藤孝史, 秋山裕, 伊佐川聡, 石黒 瑛一, 小西良子
H26.12.6 ~7	川崎市における風疹流行に伴う麻疹風疹混合ワクチン接種事業について	第18回日本ワクチン学会学術集会	福岡国際会議場	○大嶋孝弘, 根津 甫, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H27.2.9 ~10	腸管出血性大腸菌の分子疫学解析法の検討	第27回地研全国協議会関東甲信静支部 細菌研究部会	川崎市産業振興会館	○佐藤弘康, 小河内麻衣, 窪村亜希子, 湯澤栄子, 本間幸子, 松尾千秋, 岡部信彦
H27.2.9 ~10	川崎市におけるインターフェロン γ 遊離試験(IGRA)について	第27回地研全国協議会関東甲信静支部 細菌研究部会	川崎市産業振興会館	○飯高順子, 淀谷雄亮, 宮下安子, 松尾千秋, 三崎貴子, 岡部信彦
H27.2.20	遺伝子組換えエコムギ(MON71800系統)の検査について	平成26年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第27回理化学研究部会研究会	東京都健康安全研究センター	○大澤伸彦, 牛山温子, 赤星千絵, 有賀史子, 橋口成喜, 岩瀬耕一
H27.2.20	放射性セシウム検査における食品の性質と検出限界について	平成26年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第27回理化学研究部会研究会	東京都健康安全研究センター	○荒木啓佑, 江崎康司, 田中佑典, 油田卓土, 岸 美紀, 岩瀬耕一
H27.3.21	川崎市における風疹流行に伴う麻疹風疹混合ワクチン接種事業について	第77回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○大嶋孝弘, 根津 甫, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H27.3.21	川崎市におけるIGRA検査について	第77回神奈川県感染症医学会	横浜市情報文化センター	○宮下安子, 飯高順子, 淀谷雄亮, 松尾千秋, 三崎貴子, 岡部信彦

(2) 平成26年度学会発表実績(示説発表)

○:発表者 下線:当研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H26.10.13 ~15	Invasive pneumococcal disease (IPD) surveillance and pattern of serotypes after introducing pneumococcal vaccines in Kawasaki city, Japan	アジア小児感染症学会	Beijing North Star Continental Grand Hotel	○ <u>Yusuke Yodotani</u> , <u>Junko Iitaka</u> , <u>Yasuko Miyashita</u> , <u>Chiaki Matsuo</u> , <u>Takahiro Oshima</u> , <u>Ava Maruyama</u> , <u>Takako Misaki</u> , <u>Nobuhiko Okabe</u>
H26.10.13 ~15	Creation and commencement of Kawasaki City Infectious Disease Surveillance System (KIDSS)	アジア小児感染症学会	Beijing North Star Continental Grand Hotel	○ <u>三崎貴子</u> , <u>大嶋孝弘</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>岡部信彦</u>
H26.11.5 ~7	自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例のリスク推定の試行	第73回日本公衆衛生学会総会	栃木県総合文化センター	○ <u>丸山 絢</u> , <u>八幡裕一郎</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
H26.11.5 ~7	川崎市内看護学生を対象とした予防接種歴・罹患歴に関するアンケート調査	第73回日本公衆衛生学会総会	栃木県総合文化センター	○ <u>大嶋孝弘</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>美田誠二</u> , <u>岡部信彦</u>
H26.11.20 ~21	検査キットを使用した準特定原材料「大豆」の検査について	第51回全国衛生化学技術協議会年会	別府国際コンベンションセンター	○ <u>大澤伸彦</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>井村香織</u> , <u>橋口成喜</u>
H26.11.20 ~21	ICP-MSによる清涼飲料水中ヒ素、鉛、カドミウム及びビスズの妥当性評価について	第51回全国衛生化学技術協議会年会	別府国際コンベンションセンター	○ <u>平野有美</u> , <u>成川絢子</u> , <u>原田 脩</u> , <u>安宅香織</u> , <u>小林亨</u> , <u>石丸陽子</u> , <u>岩瀬耕二</u>
H26.11.20 ~21	冷凍食品への農薬混入事例への検査対応について	第51回全国衛生化学技術協議会年会	別府国際コンベンションセンター	○ <u>油田卓士</u> , <u>田中佑典</u> , <u>江崎康司</u> , <u>荒木啓佑</u> , <u>岸 美紀</u> , <u>岩瀬耕一</u>
H27.3.5	川崎市におけるIGRA検査について	国際結核セミナー	ヤクルトホール	○ <u>飯高順子</u> , <u>淀谷雄亮</u> , <u>宮下安子</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>

(3) 平成26年度学会発表実績(誌上発表)

下線:当研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H26.6.30	食品中の食品添加物分析法の検討(防虫剤ピペロニルブトキシド)	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	<u>橋口成喜</u> , <u>大澤伸彦</u> , <u>牛山温子</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>栗田史子</u> , <u>岩瀬耕二</u>
H26.6.30	毛髪中のヒ素分析における前処理方法の改良	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	<u>石丸陽子</u> , <u>原田 脩</u> , <u>平野有美</u> , <u>岩瀬耕一</u>
H26.6.30	川崎市で分離されたカンピロバクターの薬剤耐性について	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	<u>湯澤栄子</u> , <u>佐藤弘康</u> , <u>小河内麻衣</u> , <u>窪村亜希子</u> , <u>本間幸子</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>岡部信彦</u> , <u>小嶋由香</u>
H26.6.30	川崎市における腸管病原性大腸菌(EPEC)の保菌率及び病原性の検討	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	<u>窪村亜希子</u> , <u>佐藤弘康</u> , <u>小河内麻衣</u> , <u>湯澤栄子</u> , <u>本間幸子</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>岡部信彦</u> , <u>小嶋由香</u>
H27.6.30	プール採暖槽水中のレジオネラ属菌の生息状況調査および遺伝子検査法の検討	平成26年度川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	<u>飯高順子</u> , <u>淀谷雄亮</u> , <u>宮下安子</u> , <u>松尾千秋</u>

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	執筆者(共同執筆者等も含む)
Occurrence of Four Fusarium Mycotoxins, Deoxynivalenol, Zearalenone, T-2 Toxin, and HT-2 Toxin, in Wheat, Barley, and Japanese Retail Food.	Journal of Food Protection, 77(11), 1940-1946, 2014	Yoshinari T, Takeuchi H, Aoyama K, Taniguchi M, <u>Hashiguchi S</u> , Kai S, Ogiso M, Sato T, Akiyama Y, Nakajima M, Tabata S, Tanaka T, Ishikuro E, Sugita-Konishi Y
川崎市における腸管病原性大腸菌及び腸管凝集性大腸菌の分離状況と細胞付着性試験等による病原性の検討	感染症学会誌 89:37~45, 2015	<u>窪村亜希子</u> , <u>小嶋由香</u> , <u>岡部信彦</u>
Evaluation of new immunochromatographic assay kit for adenovirus detection in throat swab: comparison with culture and real-time PCR results.	J Infect Chemother. 2014 May;20(5):303-6.	Morozumi M, <u>Shimizu H</u> , Matsushima Y, Mitamura K, Tajima T, Iwata S, Ubukata K.
Wheat germ cell-free system-based production of hemagglutinin-neuraminidase glycoprotein of human parainfluenza virus type 3 for generation and characterization of monoclonal antibody.	Front Microbiol. 2014 May 13;5:208.	Matsunaga S, Kawakami S, Matsuo I, Okayama A, Tsukagoshi H, Kudoh A, <u>Matsushima Y</u> , <u>Shimizu H</u> , <u>Okabe N</u> , Hirano H, Yamamoto N, Kimura H, Ryo A.
Construction of new primer sets for corresponding to genetic evolution of human adenoviruses in major capsid genes through frequent recombination.	Jpn J Infect Dis. 2014;67(6):495-502.	<u>Matsushima Y</u> , Nakajima E, <u>Ishikawa M</u> , Kano A, <u>Komane A</u> , Fujimoto T, Hanaoka N, <u>Okabe N</u> , <u>Shimizu H</u> .
新しい迅速診断法 - 銀増幅イムノクロマトグラフィ法を用いたインフルエンザ診断システム	インフルエンザ 2015,16(1): 49 -56	三田村敬子, 山崎雅彦, 市川正孝, 片田順一, 和田淳彦, 野田裕二, 川上千春, <u>清水英明</u>
腸管感染症集団発生の早期検知と再発防止 - 臨床・病原体検査・疫学の連携 -	小児科 Vol.55 No.7 2014 p1055-1065	<u>三崎貴子</u>
潜在的な疫学リンクが疑われたD8型ウイルスによる麻疹広域散発事例	病原体微生物検出情報 (IASR Vol.35 p100-102: 2014年4月号)	山岸拓也, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>大嶋孝弘</u> , <u>清水英明</u> , <u>岩瀬耕一</u> , <u>岡部信彦</u> 他
社会福祉施設におけるオウム病の集団発生	病原体微生物検出情報 (IASR Vol.35 p153-154: 2014年6月号)	<u>三崎貴子</u> , <u>大嶋孝弘</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>中島関子</u> , <u>石川真理子</u> , <u>松島勇紀</u> , <u>駒根綾子</u> , <u>清水英明</u> , <u>淀谷雄亮</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>岩瀬耕一</u> , <u>岡部信彦</u> 他
日本脳炎ワクチン1期1, 2回目および追加接種の全国累積接種率調査: 2013年の調査結果	日本医師会雑誌 142(12):2689-2692, 2014.	高山直秀, 崎山 弘, 大石和徳, <u>岡部信彦</u> , 城 青衣, 梅木 哲
Clinical and radiologic features of encephalopathy during 2011 E coli O111 outbreak in Japan.	Neurology. 2014 ;82(7):564-72.	Takanashi J, Taneichi H, <u>Misaki T</u> , Yahata Y, Okumura A, Ishida Y, Miyawaki T, <u>Okabe N</u> , Sata T, Mizuguchi M
Echovirus 3 as another enterovirus causing life-threatening neonatal fulminant hepatitis.	J Clin Virology 59:132-134, 2014.	Miyata I, Hanaoka N, <u>Okabe N</u> , Fujimoto T, Sakamoto S, Kasahara M, Saitoh A
Recent progress and concerns regarding the Japanese immunization program	Addressing the "vaccine gap". Vaccines 32:4253-4258, 2014.	Akihiko Saitoh, <u>Nobuhiko Okabe</u>
Construction of New Primer Sets for Corresponding to Genetic Evolution of Human Adenoviruses in Major Capsid Genes through Frequent Recombination.	Jap J Inf Dis 67(6): 495-502, 2014.	<u>Yuki Matsushima</u> , <u>Etsuko Nakajima</u> , <u>Mariko Ishikawa</u> , <u>Atsuko Kano</u> , <u>Avako Komane</u> , Tsuguto Fujimoto, Nozomu Hanaoka, <u>Nobuhiko Okabe</u> , <u>Hideaki Shimizu</u>
Estimating the Risk of Parvovirus B19 Infection in Blood Donors and Pregnant Women in Japan.	PLoS ONE 9(3): e92519. doi:10.1371/journal.pone.0092519	Koji Nabaie, Hiroshi Satoh, Hiroshi Nishiura, Keiko Tanaka-Taya, <u>Nobuhiko Okabe</u> , Kazunori Oishi, Kunichika Matsumoto, Tomonori Hasegawa

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	執筆者(共同執筆者等も含む)
Abnormal behavior during influenza in Japan during the last seven seasons: 2006-2007 to 2012-2013.	Journal of Infection and Chemotherapy 2014;20(12):789-793.	Nakamura Y, Sugawara T, Ohkusa Y, Taniguchi K, Miyazaki C, Momoi M, <u>Okabe N</u>
ワクチンの現状と将来(対談)	成人病と生活習慣病 44(12):1373-1368, 2014	山田 尚, <u>岡部信彦</u> , 三瀬勝利
鳥インフルエンザウイルスH7N9によるヒト感染の発生	感染対策ICTジャーナル 9(1)76-81, 2014.	<u>岡部信彦</u>
新興・再興感染症と感染症法 -最近の変更点など	臨床と微生物 41(1):7-12, 2014.	<u>岡部信彦</u>
予防接種と公衆衛生	公衆衛生 78(2):70-74, 2014.	<u>岡部信彦</u>
感染症 その基本と変貌、そして新たな対応	The TRC News No.118 (Mar), 2014.	<u>岡部信彦</u>
予防接種とは	1)予防接種法改正のポイント 感染症内科 2(3):203-211, 2014.	<u>岡部信彦</u>
予防接種法の改正と今後の予防接種・ワクチン	小児科臨床 67(4):515-520, 2014.	<u>岡部信彦</u>
国内で新たに導入されたワクチンの評価と今後の動向	小児保健研究 73(3):379-383, 2014.	<u>岡部信彦</u>
災害と予防接種・ワクチン	チャイルドヘルス 17(6):427-429, 2014.	<u>岡部信彦</u>
院内感染対策としてのワクチンガイドライン	感染症内科 2(5):537-543, 2014.	<u>岡部信彦</u>
予防接種ガイドライン	感染症道場 3(2)29-31, 2014	<u>岡部信彦</u>
住民に対する予防接種について	医療機関における新型インフルエンザ等対策ミニマムエッセンシャルズ p111-119 2014.8 南山堂	<u>岡部信彦</u>
医療関係者のためのワクチンガイドライン-第2版-	日本環境感染学会誌 Vol.29 Suppl III, 2014	<u>岡部信彦</u> , 荒川創一, 岩田 敏, 庵原俊昭, 白石 正, 多屋馨子, 藤本卓司, 三嶋廣繁, 安岡 彰
予防接種に関するQ&A集 2013 日本ワクチン産業会 2014.8.	同左	<u>岡部信彦</u> , 多屋馨子
予防接種・ワクチンの最近の変化と今後について	JOHNS 30(11):1553-1555, 2014	<u>岡部信彦</u>
髄膜炎菌性髄膜炎(浸襲性髄膜炎菌感染症)	東京小児科医会報 33(2):23-27, 2014.	<u>岡部信彦</u>
感染症	学校保健の動向 平成26年度版 p23-27 2014. 丸善	<u>岡部信彦</u>
ポリオワクチン-生ポリオワクチンの果たしてきた役割と不活化ポリオワクチンの導入-	別冊・医学のあゆみ 小児用ワクチン Uptodate 2015 編集・五十嵐 隆 p67-72, 2014.12 医歯薬出版	<u>岡部信彦</u>

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等も含む)
食品汚染カビ毒の実態調査	厚生労働科学研究「基準値の策定に資する食品汚染カビ毒の実態調査と生体影響評価に関する研究」平成25年度 総括・分担研究報告書, 11-19, 2014.	小西良子, 吉成知也, 甲斐茂美, 竹内浩, 田中敏嗣, 谷口賢, 田端節子, 樋口成喜, 中島正博, 永山敏廣, 堀江正一, 内藤成弘, 秋山裕, 伊佐川聡, 石黒瑛一, 佐藤孝史
食品汚染カビ毒の実態調査	厚生労働科学研究「基準値の策定に資する食品汚染カビ毒の実態調査と生体影響評価に関する研究」平成26年度 総括・分担研究報告書, 10-21, 2015.	小西良子, 吉成知也, 脇ますみ, 竹内浩, 田中敏嗣, 谷口賢, 田端節子, 樋口成喜, 中島正博, 秋山裕, 伊佐川聡, 石黒瑛一, 佐藤孝史
衛生研究所での「人体(血液、尿等)試料の検査手法」の標準化に向けて	厚生労働科学研究「食品防御の具体的な対策の確立と実行検証に関する研究」平成26年度 総括・分担研究報告書, 5, 1-11, 2015	岡部信彦, 赤星千絵, 荒木啓祐
衛生研究所での「人体(血液、尿等)試料の検査手法」の標準化に向けて	厚生労働科学研究「食品防御の具体的な対策の確立と実行検証に関する研究」平成24～26年度 総合研究報告書, 6, 1-11, 2015	岡部信彦, 赤星千絵, 荒木啓祐
IS-printing systemのマイクロチップ電気泳動装置 (MultiNA) への適応	厚生科学研究費補助金(食の安全確保推進研究事業)食中毒調査の精度向上のための手法等に関する調査研究平成26年度研究報告書, 143-155, 2015.3	窪村亜希子, 本間幸子, 松尾千秋, 岡部信彦
保健所等における肝炎ウイルス検査に疫学情報を活用するための研究	厚生労働科学研究「肝炎ウイルス検査体制の整備と受検勧奨に関する研究」平成26年度研究報告書, 97-110, 2015.3	三崎貴子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 小泉祐子, 岡部信彦
自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例のリスク推定の試行	厚生労働科学研究「広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究」平成26年度研究報告書, 119-141, 2015.3	丸山 絢, 八幡裕一郎, 三崎貴子, 岡部信彦
腸管出血性大腸菌O157感染症の散発事例におけるリスクの推定及び人口寄与危険率の算出の試み検討	厚生労働科学研究「広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究」平成26年度研究報告書, 35-53, 2015.3	八幡裕一郎, 春日文子, 砂川富正, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦 他
ユッケ規格基準及び牛レバー禁止後の腸管出血性大腸菌O157感染症散発例発生リスクの検討	厚生労働科学研究「広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究」平成26年度研究報告書, 55-60, 2015.3	八幡裕一郎, 春日文子, 砂川富正, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦 他
病原体発生動向調査に関する疫学的検討	厚生労働科学研究「科学的根拠に基づくサーベイランス手法の標準化に関する緊急研究」平成26年度研究報告書, 273-277, 2015.3	三崎貴子, 丸山 絢
地方感染症情報センターの視点からのサーベイランス戦略	厚生労働科学研究「自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究」平成26年度研究報告書, 24-31, 2015.3	神谷信行, 関なおみ, 秋葉哲哉, 岩下裕子, 古賀才理, 本 涼子, 中野道晴, 舟迫香, 岸本 剛, 山田文也, 吉住正和, 三崎貴子, 丸山 絢, 鈴木智之, 八幡裕一郎, 砂川富正
地方衛生研究所における病原体サーベイランスの現状と課題に関する研究	厚生労働科学研究「自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究」平成26年度研究報告書, 35-50, 2015.3	岸本 剛, 吹屋貞子, 三崎貴子, 清水英明, 青木洋子, 山下照夫, 岡山文香, 濱野雅子, 吉富秀亮, 木下一美, 加納和彦, 篠原美千代, 山田文也
エボラ出血熱、MERSに対する保健所の対応への助言	平成26年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業)「保健所情報支援システム」報告書, 10-23, 2015.3	中里栄介, 中島一敏, 緒方 剛, 金成由美子, 杉下由行, 山岸拓也, 三崎貴子, 佐野正, 嘉川裕康, 長谷川麻衣子, 米山克俊, 井上尚子
Liquid Culture EMA qPCRによるレジオネラ菌迅速検査法の改良と評価	厚生労働科学研究「レジオネラ検査の標準化及び消毒等に係る公衆浴場等における衛生管理手法に関する研究」平成26年度研究報告書, 63-72, 2015.3	磯部順子, 飯高順子, 金谷潤一, 武藤千恵子, 山口友美
川崎市におけるプール採暖槽水由来株等のSBT法による型別	厚生労働科学研究「レジオネラ検査の標準化及び消毒等に係る公衆浴場等における衛生管理手法に関する研究」平成26年度研究報告書, 121-122, 2015.3	淀谷雄亮

2 調査研究報告

調査研究結果並びに事例等の一部を次ページ以降で報告する。

- (1) 川崎市における風疹流行に伴う麻疹風疹混合ワクチン接種事業について p84
- (2) 自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例のリスク推定の試行 p85
- (3) 遺伝子組換え食品検査「安全性未審査の遺伝子組換えコムギ(MON71800)」 p86
- (4) 腸管出血性大腸菌の分子疫学解析法の検討 p90
- (5) 川崎市における疫学情報を含めた結核菌分子疫学解析について p92
- (6) レジオネラ属菌における分子疫学解析法の検討 p93

川崎市における風疹流行に伴う麻疹風疹混合ワクチン接種事業について

川崎市健康安全研究所感染症情報センター 大嶋孝弘 根津 甫 丸山 絢 三崎貴子 岡部信彦

【はじめに】風疹流行に伴う最大の問題は、妊娠初期の女性が風疹に罹患した場合、胎児に先天性風疹症候群(congenital rubella syndrome:CRS)が高率に出現することである。平成 25 年は都市部を中心として全国的に風疹患者数が急増し、川崎市を含む全国の自治体で CRS 予防のために麻疹風疹混合ワクチン接種事業が実施された。特に川崎市においては、接種対象者を「妊娠を予定する女性」及び「妊婦している女性の夫」だけでなく、「23 歳～39 歳の男性」を含めた広い年齢層に設定し同事業を行ったので、接種状況を報告する。

【対象・方法】平成 25 年 4 月 22 日から平成 26 年 3 月 31 日まで実施した川崎市の接種事業を利用して麻疹風疹混合ワクチンを接種した者のうち、記載内容が不明又は未記入の箇所があった者を除外した計 23,417 人を解析対象者とし、性別、居住区別、接種時期別に接種者数もしくは接種率を検討した。接種率については、市の統計情報により総対象者数を推定し、接種者数の割合を算出した。

【結果】対象のうち、男性は 11,998 人、女性は 11,419 人であった。月別の接種者数は、5 月が 6,570 人と最も多く、6 月は 6,029 人、7 月は 2,378 人で、8 月は 390 人と最も少なかった。8 月までは男性が多く、9 月以降は女性が多かった。区別の接種率は、川崎区 3.6%、幸区 5.7%、中原区 6.0%、高津区 5.7%、宮前区 6.6%、多摩区 5.9%、麻生区 5.8%であった。曜日別の接種者数は、日曜日が 438 人と最も少なく、月曜日から金曜日までは 2,482～3,247 人であり、土曜日が 8,690 人と最も多かった。月曜日から金曜日までの接種者のうち男性は 43.2～46.2%であり、土曜日は 62.3%、日曜日は 62.6%であった。

【考察】本事業を利用した接種者の男女比はほぼ 1 対 1 であり、特に事業開始直後の 5 月及び 6 月の接種者数が多く、かつ男性の割合が多かったことから、風疹増加に伴う全国的な注意喚起と川崎市で実施した積極的なワクチン接種勧奨が、妊娠・出産に直面する女性だけでなく、多くの男性の意識をも高めることになったと考えられる。残念ながら、全国的なワクチン不足により、7 月 5 日から 9 月 1 日まで一時的に対象者を緊急度の高い「妊娠している女性の夫」に限定せざるを得ず、7 月及び 8 月の接種者数は減少した。曜日別では、特に土曜日に接種する男性の割合が多かったため、対象者の状況によっては平日の接種が困難であることが示唆された。区別の接種率では川崎区が最も低かったが、区毎の接種率に差が生じた原因については、今後更なる検討が必要と考える。

【結語】風疹及び CRS 予防に関する積極的な啓発活動は、多くの住民の意識を高めワクチン接種率の向上に寄与した。さらに、対象者に配慮した接種環境を整備することも対策を効果的に実施する上で重要である。

【謝辞】本事業に係る情報を提供していただきました川崎市健康福祉局健康安全部健康危機管理担当の皆様へ深謝いたします。

自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例のリスク推定の試行
川崎市健康安全研究所¹、国立感染症研究所感染症疫学センター²
○丸山 絢¹、八幡裕一郎²、三崎貴子¹、岡部信彦¹

【背景及び目的】

欧米では、腸管出血性大腸菌感染症の Attributable risk percent(アトリビューション) を算出し、対策に利用しているが、我が国においては、国レベルの対策の検討をアトリビューションの算出により試行しているところである。一方、自治体においては、症例数が少なく、リスク評価が困難であることから、対策が検討されていないのが現状である。そこで、昨年度に引き続き本市においてリスク推定を試行し、自治体における実施の可能性を検討した。

【方法】

平成 25 年 7 月 1 日から 11 月 30 日までに川崎市内で散発例として報告された腸管出血性大腸菌（血清群 O157,O26,O111）感染症患者 22 例の症例調査及び対照群 226 例のインターネットによる調査を実施した。調査内容は、環境との接触等 37 項目及び食品の摂取等 69 項目とし、対照群については、インターネット調査に参加を希望し、症例と同一郵便番号かつ同一年齢階級の者とした。調査を実施した症例のうち血清群 O157 の患者 19 例及び対照群のうち調査対象期間中に消化器症状のなかった 186 例を対象とし、Conditional logistic regression analysis を実施し、性別による調整オッズ比 (aOR) を算出した。

【結果】

症例が呈した症状は、腹痛(89.5%)、水様性下痢(73.7%)の順に多く、溶血性尿毒症症候群の発症者はいなかった。また、調査項目のうち、発症と有意に関連していたのは、食品を取り扱う仕事(aOR=3.63, 95%CI(95%信頼区間):1.08-12.28, P=0.0379)、肉類の喫食(aOR=13.95, 95%CI:2.11-∞, P=0.0028)、十分に加熱された肉の喫食のうち、牛肉(aOR=4.70, 95%CI:1.40-15.73, P=0.0120)、豚肉(aOR=5.45, 95%CI:1.16-25.55, P=0.0315)、鶏肉(aOR=5.07, 95%CI:1.07-24.09, P=0.0411)、生の野菜の喫食のうち、もやし(aOR=3.28, 95%CI:1.10-9.75, P=0.0326)であった。

【考察】

本研究のような症例対照研究では、対照データの収集に時間を要することから、アウトブレイク発生時における対策への応用や原因食品の遡り調査が困難な場合があると考えられる。また、自治体での解析は、症例数が少なく、第一種の過誤が発生する可能性もある。しかしながら、本市データの解析結果は、全国データの結果と類似の傾向が認められたこと等から、自治体における症例対照研究は、解釈を慎重に行う必要はあるものの長期的な対策には利用できると考えられる。

遺伝子組換えコムギ (MON71800 系統) の検査について

川崎市健康安全研究所

○大澤伸彦 牛山温子 赤星千絵 栗田史子 橋口成喜 岩瀬耕一

【目的】

平成 25 年 5 月、米国において未承認の遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)がオレゴン州の小麦農家の圃場で自生しているのが発見されたことを受け、農林水産省はオレゴン州で生産される食糧用小麦(ウエスタンホワイト)および飼料用小麦(ソフトホワイト)の販売と入札を暫定的に停止した。厚生労働省は新たに当該遺伝子組換えコムギの検査方法を開発し、「安全性未審査の組換え DNA 技術応用食品の検査方法」に追加する形で通知し、今後は検査によって陰性と確認された小麦のみが輸入されることになった。

通知された検査方法は小麦および小麦粉等の粉砕加工品のみを検査対象としているが、小麦は様々な加工食品に利用されているため、輸入加工食品等への監視を行う必要性は高いと考えた。そこで、粉砕加工品以外の加工食品に対しても通知法を適用して検査を実施可能であるか検討を行ったので、その結果を報告する。

【方法】

厚生労働省通知*1(以下通知)に準拠して検査を実施した。

1. 検体

市販の小麦加工品 17 品を購入し検体として使用した(表 1)。通知における検査対象である小麦粉等の粉砕加工品に加え、小麦粉以外の成分を含む非加熱粉製品および加熱を受けている小麦加工食品等を検体として用いた。遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)はウエスタンホワイトという銘柄の薄力粉であり、ケーキ、クッキー、天ぷら粉、カステラ等に使用されることが多い点を踏まえて検体の選定を行った。

2. DNA 抽出

QIAGEN 製 DNeasy Plant Maxi Kit を使用し、通知に準拠した方法で DNA 抽出を行った。DNeasy Plant Maxi Kit は植物組織等からの DNA 抽出に適したキットであり、加工食品に使用した場合に DNA を抽出できないケースも考えられる。そこで DNeasy Plant Maxi Kit 以外のキットにより抽出した DNA 溶液を使用した場合にも検査が実施可能であるかを検討するために、カステラおよびクッキーに対しては加工食品に適した QIAGEN 製 Genomic-tip 20/G を使用して DNA 抽出を行った。その際の抽出操作については消費者庁通知*2 中「DNA の抽出精製法」を参考にした。

3. リアルタイム PCR

検査に使用したプライマー・プローブは Applied Biosystems に合成を依頼した。PCR 用酵素には Life Technologies 製 TaqMan Universal PCR Master Mix を使用した。

4. 装置等

吸光度測定には島津製作所製 UV - 1800 を使用した。リアルタイム PCR 装置は Applied Biosystems 製 ABI PRISM 7900HT を使用した。

【結果】

1.DNA 抽出

各検体から 2 並行で DNA 抽出を行った。全ての検体においてリアルタイム PCR を行うために十分な濃度(10ng/μL 以上)の DNA 抽出液を得ることができた(表 1)。DNA 溶液の純度の指標となる 260 nm 及び 280 nm の吸光度比 (A_{260}/A_{280}) を求めたところ、十分に精製されている場合の数値である 1.7~2.0 から大きく外れるものはなく、検体・抽出方法による違いも大きくはなかった。

2.リアルタイム PCR

1 つの DNA 試料液につき 2well 並行でコムギ陽性対照試験および遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)検知試験を行った。通知に従い結果の判定は増幅曲線(図 1) 上での蛍光強度の指数関数的な増加の確認と、Threshold line との交点から求めた Ct 値によって行った。全ての検体でコムギ陽性対照試験にて 43 未満の Ct 値が得られ、かつ遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)検知試験にて 43 未満の Ct 値が得られなかったため、遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)陰性と判定した(表 1)。

通知では小麦陽性対照試験で 43 未満の Ct 値が得られた場合に、リアルタイム PCR に使用可能な品質の DNA 溶液が得られたと考え、遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)検知試験による陰性・陽性の判定が可能となる。今回全ての検体で 43 未満の Ct 値が得られたことから、粉碎加工品以外の加工食品にも、また Genomic-tip 20/G を使用した場合にも通知の判定基準に則った判定が可能であることが示唆された。

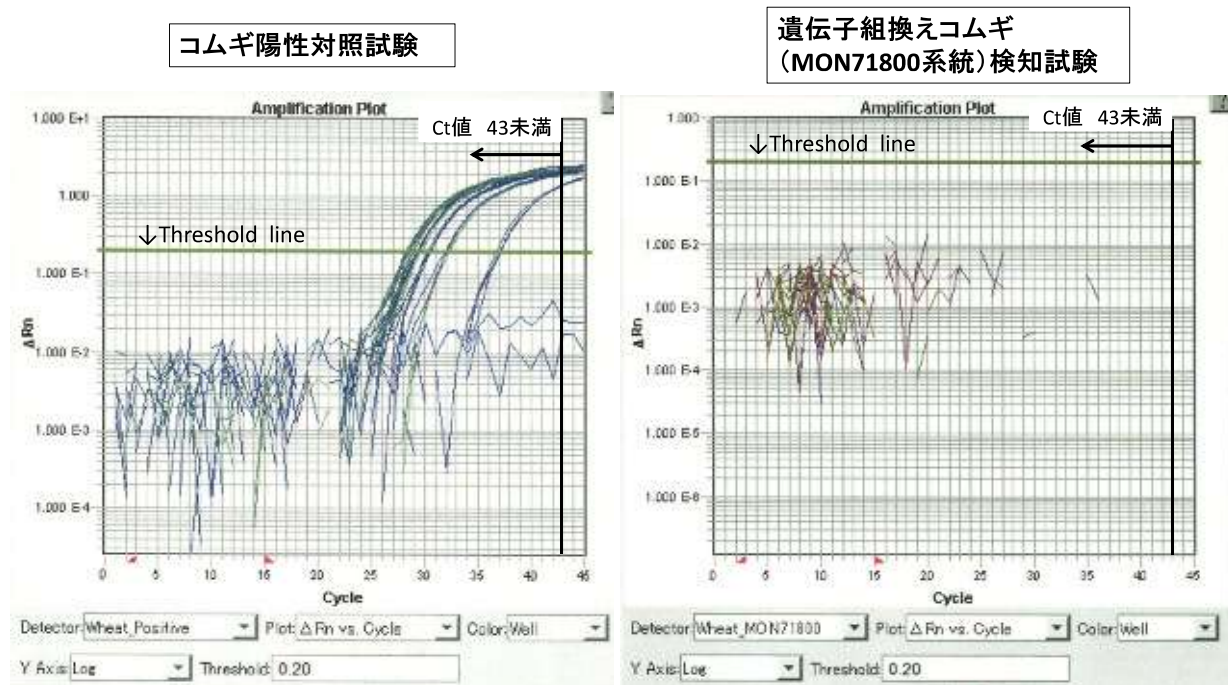


図1 DNA増幅曲線

表1 検体および結果

		DNA抽出結果		リアルタイムPCR Ct値(2well平均)		判定	原材料	
		DNA濃度 (ng/ μ L)	A ₂₆₀ /A ₂₈₀	小麦陽性 対照試験	MON71800 検知試験			
小麦粉 砕加工品	1 ケーキ用薄力粉	抽出液1	322	1.60	29.3	-	陰性	小麦粉
		抽出液2	506	1.61	29.3	-		
	2 うどん粉	抽出液1	1,011	1.42	29.6	-	陰性	小麦粉
		抽出液2	796	1.39	29.2	-		
	3 全粒粉	抽出液1	475	1.54	29.6	-	陰性	小麦粉
		抽出液2	182	1.63	29.2	-		
	4 小麦ふすま	抽出液1	675	1.93	36.9	-	陰性	小麦粉
		抽出液2	809	1.94	36.8	-		
非加熱 粉製品	5 天ぷら粉A	抽出液1	739	1.37	29.3	-	陰性	小麦粉、加工でん粉、ベーキングパウダー、乳化剤、カロチン色素、クチナシ色素
		抽出液2	801	1.50	29.3	-		
	6 天ぷら粉B	抽出液1	710	1.38	29.6	-	陰性	小麦粉、でん粉、卵黄粉、卵白粉、ベーキングパウダー、着色料(ビタミンB2)
		抽出液2	790	1.40	29.5	-		
	7 お好み焼粉	抽出液1	1,015	1.44	29.0	-	陰性	小麦粉、砂糖、食塩、ぶどう糖、かつおぶし粉末、さばぶし粉末、ベーキングパウダー等
		抽出液2	835	1.45	29.2	-		
	8 から揚げ粉	抽出液1	896	1.28	30.8	-	陰性	小麦粉、食塩、デキストリン、香辛料、ぶどう糖、砂糖等
		抽出液2	624	1.29	30.9	-		
	9 スコーンミックス	抽出液1	993	1.40	29.2	-	陰性	小麦粉、砂糖、植物油、コーンシロップ、食塩、モルト等
		抽出液2	799	1.40	29.2	-		
	10 ホットケーキミックス	抽出液1	595	1.39	29.4	-	陰性	小麦粉、砂糖、ぶどう糖、粉末水あめ、食塩、ベーキングパウダー等
	抽出液2	558	1.40	29.4	-			
11 パンケーキミックス	抽出液1	1,000	1.40	29.4	-	陰性	小麦粉、粉末油脂(植物油、水あめ)、ぶどう糖、バターミルクパウダー、食塩、ベーキングパウダー等	
	抽出液2	830	1.43	29.2	-			
小麦加工 食品	12 トルティーヤ	抽出液1	218	1.53	29.2	-	陰性	小麦粉、大豆油、マーガリン、食塩、砂糖、イースト等
		抽出液2	159	1.55	29.2	-		
	13 マカロニ	抽出液1	430	1.59	28.4	-	陰性	デュラムコムギのセモリナ、乾燥トマト粉末、乾燥ビート粉末、卵白
		抽出液2	482	1.60	28.4	-		
	14 プレッツェル	抽出液1	67	1.68	32.2	-	陰性	小麦粉、植物油、砂糖、粉末玉ねぎ、デキストリン、ブドウ糖、ホエイパウダー等
		抽出液2	85	1.52	31.9	-		
	15 ビスケット	抽出液1	77	1.49	30.3	-	陰性	小麦粉、砂糖、ショートニング、卵白、バターオイル、バター、植物油等
		抽出液2	65	1.39	30.4	-		
	16 カステラ*	抽出液1	98	1.66	31.4	-	陰性	鶏卵、小麦粉、砂糖、ショートニング、水あめ、植物加工油脂、食用植物油等
		抽出液2	102	1.68	30.7	-		
	17 クッキー*	抽出液1	170	1.65	30.7	-	陰性	小麦粉、砂糖、マーガリン、卵、メープルシロップ、食塩等
		抽出液2	126	2.00	30.4	-		

* Genomic-tip 20/Gを使用して抽出

【まとめ】

通知が検査対象としている小麦粉等の粉砕加工品に加え、小麦粉以外の成分を含む非加熱粉製品や加熱工程を経た加工品であるクッキー等、様々な小麦加工食品に通知を適用し遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)の検査を行った。全ての検体で、小麦陽性対照試験でのコムギ遺伝子の増幅が見られた(43 未満の Ct 値が得られた)ため、粉砕加工品以外の食品に対しても通知を適用できることが示唆された。検討に用いた検体の一部は試買検査として実施し、遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)検知試験では全ての検体で 43 未満の Ct 値が得られなかったため、通知に従い陰性と判定した。

今回、遺伝子組換えコムギ(MON71800 系統)の陽性コントロールを入手する手段がなく、実際に検体中に遺伝子組換えコムギが混入していた際に検知が可能であるかという点は確認することができなかった。本検討は通知の対象外の食品も対象とし、また一部の検体では DNA の抽出方法も変更して行ったが、これらの検体から得られた結果を通知に当てはめて混入の有無を判定して良いのかという点については、今後議論する必要があると考えられる。

遺伝子組換え食品の種類及び系統は増え続けており、不適切な分別等によって安全性審査が終了していない遺伝子組換え食品が混入する危険性は常にあるため、継続的な監視が必要である。頻繁に検査可能な系統が通知法に追加される遺伝子組換え食品検査の動向を注視し、最新の検査法に対応可能な状況を迅速に整備することで、遺伝子組換え食品の監視体制の強化に貢献していきたい。

【文献】

1. 厚生労働省：平成 24 年 11 月 16 日付け食安発 1116 第 3 号厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知「安全性未審査の組換え DNA 技術応用食品の検査方法」(最終改正 厚生労働省医薬食品局食品安全部長通知 平成 27 年 6 月 23 日 食安発 0623 第 3 号)。
2. 消費者庁：平成 27 年 3 月 30 日付け消食表第 139 号消費者庁次長通知「食品表示基準について」別添「アレルギーを含む食品の検査方法」(最終改正：平成 27 年 9 月 14 日消食表第 495 号)

腸管出血性大腸菌の分子疫学解析法の検討

川崎市健康安全研究所

○佐藤弘康 小河内麻衣 窪村亜希子 湯澤栄子 本間幸子 松尾千秋
岡部信彦

【はじめに】

感染源の推定や特定において分子疫学解析は重要な役割を担っており、腸管出血性大腸菌(EHEC)の解析手法として、従来法のパルスフィールドゲル電気泳動法(PFGE法)のほか、IS-printing system法(IS法)、Multiple-locus variable-number tandem repeat analysis (MLVA法)が知られている。現在、国立感染症研究所(感染研)において、IS法のデータベースの構築が進められており、さらにIzumiyaらによって開発されたO157ならびにO26、O111の遺伝子型別が可能なMLVA法が平成26年度から新たに導入された。今後はIS法およびMLVA法の国内での普及が予想される。

そこで今回、川崎市内で分離したEHEC O157、O26およびO111についてこれら解析手法を実施し、有用性を比較検討した。さらに、個々の食中毒事例に的確に対応できる検査体制の整備を行った。

【供試株】

2012~2014年に川崎市内で分離されたEHEC菌株133株(O157 110株、O26 18株、O111 5株)を用いた。

【方法】

1. EHEC解析の実施方法

PFGE法は、感染研で示された方法により実施した。IS法は、IS-printing system(東洋紡)の取扱説明書に従い行った。MLVA法は、Izumiyaらの方法に従って実施し、Gene Mapperソフトウェアを用いて繰り返し回数を算出した。

2. MLVA法のO157-37領域のDNAシーケンス

MLVA法のO157-37領域で2本のピークが出現した一部の菌株について遺伝子配列を解読する目的で、O157-37-FならびにO157-37-Rのノンラベルプライマーを用いたPCR法を行い、ゲル断片を切り出し精製した後に、DNAシーケンスを行った。遺伝子配列の解析には、MEGA5ソフトウェアを使用した。

3. 解析能力の比較

3法の解析データをBio Numerics ver 7.0ソフトウェアに取り込み、系統樹を作成することによってクラスター解析を行った。株間においてMLVA法は一致もしくはsingle locus variant (SLV)、PFGE法は0~3バンド違い、IS法は0~1バンド違いの関係を持つものを同一クラスターと定義し、クラスター数を算出した後に、同一クラスター内の変異型数の合計を算出した。

4. ISコード一致事例におけるPFGE法およびMLVA法の比較

ISコード一致事例について、PFGE法およびMLVA法におけるクラスター分類を確認した。

【結果】

1. 解析日数の比較

菌分離からIS法およびMLVA法は1~2日、PFGE法は5~6日解析に要した。

2. MLVA 法の O157・37 領域のシーケンス

2本のピークとも配列の中に繰り返し配列を有しており、大腸菌由来の遺伝子配列であることが判明した。そのため、ピーク値の高い方を優勢と判断し、解析結果とした。

3. 解析能力の比較

O157 菌株全 110 株の解析を行ったところ、クラスター数は、MLVA 法と

表1:O157の解析能力の比較(n=110)			表2:O26,O111の解析能力の比較(n=23)		
	IS法	MLVA法	PFGE法	MLVA法	PFGE法
クラスター数	33	46	43	10	10
同一クラスター内の変異型数の合計	10	9	29	0	4

PFGE 法でほぼ同数であり、IS 法が最も少なかった。また、同一クラスター内の変異型数の合計は、PFGE 法が最も多く、クラスター数がほぼ同数の MLVA 法と比較して約 3 倍多かった。一方、O26 および O111 全 23 株におけるクラスター数は、MLVA 法および PFGE 法で同数であり、同一クラスター内の変異型数の合計は、PFGE 法の方が多かった。

4. IS コード一致事例

IS コードが一致した 19 事例において、MLVA 法および PFGE 法ともに同一クラスターとして判定された事例は 11 例、ともに異なるクラスターとして判定された事例は 5 例あった。また、PFGE 法もしくは MLVA 法のみで異なるクラスターとして判定された事例は 3 例あった。

表3:ISコード一致事例(n=19)		
	MLVA法 一致	MLVA法 不一致
PFGE法 一致	11	3
PFGE法 不一致	0	5

【考察】

迅速性は、解析日数の比較から PCR 法を原理とする IS および MLVA 法が PFGE 法よりも優れており、初期探知として有効であることが明らかとなった。クラスター数の比較から、解析能力は MLVA 法と PFGE 法において同等であり、IS 法よりも優れていることが示唆された。また、PFGE 法は同一クラスター内の変異型数が大きくなる傾向にあり、同一事例でも細分化されやすいことが判明した。原因として、ゲノム複製時の遺伝子変異による制限酵素切断パターンへの影響ならびにゲルの質および泳動度の違い等による泳動パターンへの影響から、ソフトウェアによる判定誤差が生じやすいことが考えられる。一方、MLVA 法は、結果を明確な数値として得ることができ、ソフトウェアによる判定誤差が少ないことを考慮すると、結果の解釈の信頼性は MLVA 法が PFGE 法よりも優れていることが示唆された。しかしながら、MLVA 法の O157・37 領域では一部の菌株で 2本のピークが出現する場合があります、どちらのピークを選択するかによって結果に差異が生じるため、判定には注意が必要である。さらに、IS コード一致事例の半数以上が MLVA 法および PFGE 法でも同一クラスターとして同定できることが確認されたが、MLVA 法もしくは PFGE 法で異なるクラスターとして分類される事例も存在したため、IS 法が必ずしも他 2 法の同一クラスターを同定できるとは限らないことが判明した。そのため、IS 法はスクリーニング法としては有用であると考えられる。一方、PFGE 法と MLVA 法の結果が一致しない場合もあることから、疫学情報も考慮に入れて判断することが重要である。

【まとめ】

3 法の特徴を踏まえ (表 4)、血清型ごとの検査体制を整備し (表 5)、今後の EHEC 食中毒事例に的確な分子疫学解析法を選択して対応していきたい。

表4:3法の特徴

	IS法	MLVA法	PFGE法
長所	<ul style="list-style-type: none"> 迅速性に優れる スクリーニングに有効 施設間の比較が容易 	<ul style="list-style-type: none"> 解析能力が高い 迅速性に優れる 施設間の比較が容易 	<ul style="list-style-type: none"> 解析能力が高い すべての血清型に対応可能
短所	<ul style="list-style-type: none"> 解析能力が低い O157のみの解析 	<ul style="list-style-type: none"> O157,O26,O111のみの解析 1領域中でピークが2本出現する可能性がある 高価機器が必要 	<ul style="list-style-type: none"> バンドパターン解析のため、判定誤差が生じやすい 施設間の比較が困難

表5:血清型ごとの検査体制

	O157事例	O26,O111事例	3血清型以外の事例
初期探知	IS法、MLVA法	MLVA法	なし
確定診断	PFGE法、(MLVA法)	PFGE法、(MLVA法)	PFGE法

川崎市における疫学情報を含めた結核菌分子疫学解析について

川崎市健康安全研究所

淀谷 雄亮、宮下 安子、松尾 千秋、岡部 信彦

【目的】

川崎市における結核菌の分布状況を明らかにし、疫学情報を含めて解析を実施することで、潜在的な疫学的リンクや流行状況を把握することを目的とする。

【方法】

川崎市内で 2009 年から 2014 年までに患者の同意を得て結核菌株若しくは結核菌 DNA を収集できた 261 例について、VNTR (Variable Numbers of Tandem Repeats) 法にて分子疫学解析を行い、患者の疫学情報を収集した。解析領域は前田らによる JATA(15)-VNTR とし、15 ヶ所の領域を解析した。

【結果】

川崎市において 2009 年から 2014 年までの結核の届出数は 1716 件であり、そのうち菌培養陽性例は 1145 例であった。

収集した 261 株 (菌株収集率 22.8%) のうち 15 領域全て解析できた 234 例を解析対象として検討した。対象の年齢分布は中央値 60 歳 (14 歳から 97 歳) であり、男性 185 例、女性 49 例であった。

JATA15-VNTR 法による解析の結果、クラスター形成率は 44.9%、クラスター数は 31 であった。最大クラスターは 13 株で構成され、この最大クラスターは M 株として報告されている遺伝子型と一致しており、患者の疫学情報を比較したところ、13 例中 10 例が同一区内に在住していた。年齢は中央値 43 歳 (21 歳から 61 歳)、男性 11 例、女性 2 例であった。うち 2 例については疫学的リンクが確認された。

他に規模の大きいクラスターとしては 11 株で構成されるものが 1 つ、7 株で構成されるものが 2 つあった。職場における集団発生株のみで構成されたクラスターも確認された。

【結論】

川崎市において M 株が最大クラスターとなり、市内の特定の区において M 株の伝播が起きていることが示唆された。他にもクラスターが確認され、今後も動向を注視する必要がある。また、集団発生として疫学的リンクがみられる例のみのクラスターが形成されたことから、同じ遺伝子型が分離された場合には集団発生事例との関連性などについて詳細な疫学情報を収集する必要があると考える。今後データの解析を継続し、保健所や近隣自治体との連携を深め分子疫学解析結果が疫学調査に活かせるようなシステムの構築を検討していく。

レジオネラ属菌における分子疫学解析法の検討

健康安全研究所 ○淀谷 雄亮、 宮下 安子、 松尾 千秋

【はじめに】

レジオネラ属菌は土壌や水系中に存在する環境細菌であり、ヒトに感染すると肺炎などの呼吸器症状を引き起こすことが知られている。感染症法で 4 類感染症に指定されており、届出数は年々増加傾向で 2014 年には全国で 1236 例が報告された。感染源としては浴用施設や冷却塔を原因とした集団感染が報告されているが、多くの症例では原因不明であり感染源調査は困難な状況である。感染源調査には分子疫学的手法が用いられ、患者株と環境由来株を比較することで、感染源を調査することができる。今回川崎市内における環境から分離されたレジオネラ属菌のうち、患者から分離された報告の多い *Legionella pneumophila* SG1 について分子疫学解析を実施し、由来環境による遺伝子型の分布状況を調査した。

【材料】

平成 23 年 4 月から平成 26 年 12 月までに環境検体から分離された *Legionella pneumophila* SG1 28 株を材料とした。由来環境は冷却塔水 9 件、採暖槽水 8 件、浴槽水由来 11 件であった。

【方法】

1 分離培養

環境水 500mL についてメンブレンフィルターを使用して 100 倍濃縮した後、5 分間酸処理を行い GVPC α 培地に塗布し 10 日間培養した。発育した灰白色湿潤集落を採取し L-システイン要求性を確認し、特異抗血清を用いて血清群を決定した。

2 SBT (Sequence-Based Typing)法

instagene matrix (bio-rad) を使用し、遺伝子を抽出し検体とした。SBT 法については The European Working Group for Legionella Infections (EWGLI)が公開しているプロトコールに基づき実施し、ST 型を決定した。

3 PFGE(Pulsed-Field Gel Electrophoresis)法

PFGE 法については国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従って実施した。

【結果】

SBT 法を実施したところ、冷却塔水由来株 9 件については全て ST1 であった (表 1)。浴槽水については ST1、ST48 など 8 種の ST 型であった。検体採取日は異なるが、同一施設から同一の ST 型が分離された例が 2 例あった。採暖槽水からは ST1 をはじめ、5 種の ST 型が確認された。同一施設の浴槽水及び採暖槽水を同日採取した検体から ST552 がそれぞれ検出された。

分離数が多かった ST1、ST48 及び ST552 の株と採暖槽水由来株計 22 株について PFGE 法を実施した (図 1)。ST ごとにクラスターが分かれ、ST1 については全てが同じクラスターを形成した

が、PFGE 法ではより識別率が高かった。ST48 及び ST552 についてもそれぞれクラスターを形成したが、同一 ST 型においてもさらに分解ができた。同一施設から同一の ST 型が分離された例については PFGE 法においても同一もしくは近いバンドパターンを示した。

表 1 由来環境ごとの SBT 結果

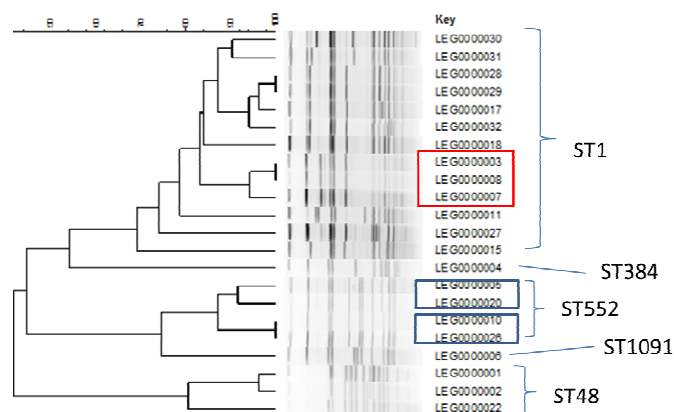
*1 うち 2 株が同一施設からの分離

*2 同一施設からの分離

	冷却塔水	浴槽水	採暖槽水
ST1	9	1	3* ²
ST48		1	2
ST128		1	
ST129		1	
ST384			1
ST552		3* ¹	1
ST614		1	
ST1091			1
ST1151		2* ²	
ST1254		1	

図 1 PFGE 結果による系統樹

枠で示した株は同一施設由来株である。



【考察】

SBT 法による型別において ST1 は最も頻繁に検出される型とされており、冷却塔水からの報告が多い。本調査においても冷却塔水由来は全て ST1 となり、浴槽水及び採暖槽水からも ST1 が検出された。ST1 は臨床分離株としても頻繁に検出され、川崎市においても以前、患者から ST1 が分離された 1 例がある。患者から頻繁に分離される ST 型が環境中から検出された場合には、注意すべきであると考えられる。

同一施設において異なる時期に採水された検体由来株で同一の ST 型を示した事例があることから、施設の清掃が不十分で汚染が除去できずに同一の株が再度増殖して検出されたか、同一の汚染源があることが推察された。PFGE 法においても同一のバンドパターンを示したものもあり、検出されたレジオネラ属菌の施設内での汚染状況や汚染経路等の調査に有用であると考えられる。

SBT 法において同一の ST 型であっても PFGE 法では異なるバンドパターンを示し、PFGE 法は SBT 法に比べ識別率が高いことが示された。同一施設から検出された株については SBT 法と同様 PFGE 法でも一致したが、異なる施設由来の株についても PFGE 法で一致した事例が見られた。

環境の違いによって ST 型がクラスターを形成すると報告されており、川崎市内における環境由来株についても株数を増やしさらに詳細に明らかにし、レジオネラ症の感染源推定に役立てていきたい。

【第5章 職員に関する事項】

1 人事記録

(1) 異動(出)

年月日	補職	氏名	配属先
26.4.1	部長	今井 宏晴	健康福祉局地域福祉部
26.4.1	課長補佐	小嶋 由香	病院局市立井田病院検査科
26.4.1	係長	佐藤 一彦	健康福祉局健康安全部環境保健課
26.4.1	係長	池田 修	健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所
26.4.1		田中 佑典	環境局環境総合研究所事業推進課

(2) 異動(入)

年月日	補職	氏名	前所属
26.4.1	担当部長・副所長	廣政 稔	健康福祉局総務部庶務課
26.4.1	課長補佐	中村 悦子	市民オンブズマン事務局
26.4.1	課長補佐	宮下 安子	病院局市立井田病院検査科
26.4.1	担当係長	本間 幸子	健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所
26.4.1	担当係長	小林 亨	環境局環境総合研究所地域環境・公害監視課
26.4.1		遠藤 康寿	環境局生活環境部廃棄物指導課
26.4.1		小河内 麻衣	川崎区役所保健福祉センター衛生課
26.4.1		江崎 康司	新任
26.4.1		清水 智美	新任

(3) 内部異動

年月日	補職	氏名	前所属
26.4.1	担当部長	岩瀬 耕一	昇格／微生物から理化学へ異動
26.4.1	担当課長	松尾 千秋	昇格／呼吸器・環境細菌から微生物へ異動
26.4.1	担当係長	湯澤 栄子	昇格
26.4.1	担当係長	石川 真理子	昇格
26.4.1	主任	油田 卓士	企画調整から残留農薬・放射能へ異動
26.4.1	主任	駒根 綾子	昇格

2 職員名簿（平成26年4月1日時点）

所長 技術職員 岡部 信彦

副所長 事務職員 廣政 稔

〔総務〕

課長補佐 事務職員 中村 悦子

主任 同 牛若 晃弘

同 小河 宏彰

同 上野 彩子

〔企画調整〕

担当課長 技術職員 三崎 貴子

〔企画調整〕

課長補佐 技術職員 福田 依美子

同 遠藤 康寿

〔感染症情報センター〕

担当係長 技術職員 丸山 絢

主任 同 西村 光世

同 大嶋 孝弘

〔理化学〕

担当部長 技術職員 岩瀬 耕一

〔食品〕

担当係長 技術職員 橋口 成喜

同 栗田 史子

同 赤星 千絵

同 牛山 温子

同 大澤 伸彦

〔水質・環境〕

担当係長 技術職員 石丸 陽子

担当係長 同 小林 亨

同 安宅 香織

同 平野 有美

同 原田 怜

〔残留農薬・放射能〕

担当係長 技術職員 岸 美紀

主任 同 佐藤 英子

主任 同 油田 卓士

同 荒木 啓佑

同 江崎 康司

〔微生物〕

担当課長 技術職員 松尾 千秋

〔消化器・食品細菌〕

担当係長 技術職員 本間 幸子

主任 同 湯澤 栄子

同 窪村 亜希子

同 小河内 麻衣

同 佐藤 弘康

〔呼吸器・環境細菌〕

課長補佐 技術職員 宮下 安子

同 淀谷 雄亮

同 飯高 順子

〔ウイルス・衛生動物〕

課長補佐 技術職員 清水 英明

主任 同 石川 真理子

同 駒根 綾子

同 松島 勇紀

同 清水 智美

川崎市健康安全研究所年報 第2号(通巻第50号)

平成27年発行

発行: 川崎市

編集: 川崎市健康安全研究所

所在地 〒210-0821

川崎市川崎区殿町3-25-13

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE) 2階

TEL 044(276)8250

FAX 044(288)2044

印刷 清光堂印刷株式会社